

昭島市教育委員会の事務事業
に関する点検及び評価報告書
(平成 24 年度分)

平成 2 5 年 9 月

昭島市教育委員会

目 次

	ページ
はじめに	… 1
第1章 昭島市教育委員会の目標	
1 昭島市教育委員会の教育目標	… 2
2 平成24年度昭島市教育委員会学校教育の目標及び教育目標を達成するための基本方針	… 3
3 平成24年度昭島市教育委員会生涯学習推進の目標及び基本方針	… 4
第2章 教育委員会の組織及び活動状況	
1 教育委員会委員	… 5
2 教育委員会事業を主管する組織	… 5
3 教育委員会の会議における審議内容一覧	
（1）定例会	… 7
（2）臨時会	… 11
4 教育委員会委員の活動	… 11
5 教育委員会委員の研修	… 13
第3章 主要施策の点検及び評価	
プラン1 確かな学力の定着	
主要施策（1）新学習指導要領の着実な実施	… 14
主要施策（2）個に応じた学習指導の充実	… 18
主要施策（3）教員の指導力の向上	… 20
主要施策（4）情報通信機器の整備と活用及び情報モラル教育の推進	… 22
主要施策（5）学校図書館の整備と読書活動の推進	… 24
主要施策（6）特別支援教育の推進	… 26
プラン2 豊かな心の醸成	
主要施策（1）心の教育の充実	… 28
主要施策（2）教育相談体制の充実	… 30
主要施策（3）地域ネットワークの構築	… 32
プラン3 健やかな体の育成	
主要施策（1）体育、保健体育の授業の充実と体力向上	… 34
主要施策（2）中学校部活動等の振興	… 37
主要施策（3）食育の推進	… 38
プラン4 輝く未来に向かって	
主要施策（1）環境教育の推進	… 40
主要施策（2）国際理解教育の推進	… 42
主要施策（3）キャリア教育の推進	… 44
主要施策（4）児童・生徒の安全指導と安全対策の充実	… 46
主要施策（5）学校評価システムによる学校運営改善の推進	… 48
プラン5 生涯学習の推進	
主要施策（1）家庭・地域の教育力向上と活用	… 49
主要施策（2）市民の学習活動の振興	… 51
主要施策（3）市民のスポーツ活動の振興	… 54
主要施策（4）市民の文化芸術活動の振興	… 57
第4章 平成24年度「昭島市立学校の児童・生徒及び保護者アンケート」の調査結果	… 59
第5章 点検及び評価に関する有識者からの意見	… 83

は じ め に

平成19年6月、地方教育行政の組織及び運営に関する法律が改正され、教育委員会の責任体制の明確化、体制の充実及び教育における地方分権の推進が規定されました。

これにより、教育委員会は、効果的な教育行政の推進を図るとともに教育委員会活動の透明性をより高め説明責任を果たすため、毎年、自らの権限に属する事務の管理及び執行の状況について学識経験を有する者の知見を活用し点検及び評価を行い、その結果を議会に報告し、公表することが義務付けられています。

昭島市教育委員会では、教育の振興のための施策に関する基本的な計画として、平成22年度から26年度までの5年間を計画期間とする『昭島市教育振興基本計画』を策定しており、平成24年度の主要な施策の取組状況については、この『昭島市教育振興基本計画』に基づく教育施策及び事業について、点検及び評価を行いました。

今後は、本報告書において課題とされた事項について、更に検討を加え、学校教育、社会教育の充実に努めてまいります。

平成25年 9月

昭島市教育委員会

第1章 昭島市教育委員会の目標

1 昭島市教育委員会の教育目標

昭島市教育委員会は、市民憲章と人間尊重の精神を基調とした教育を推進する。

子どもたちが常に心身ともに健康で生きがいを持ち、創造性に富み、社会の一員としての自覚を有し、人間性豊かな市民として成長することを目指し、その実現に努める。

学校教育においては、学校、家庭、地域の密接な連携のもと、子どもたちが生涯を通して未来社会の変化に対応できるよう自主的精神を培い、国際的視野を持ち、健全で豊かな心をはぐくみ、個性を生かすための教育を推進する。

社会教育においては、地域の文化、教育、スポーツ活動を通して市民誰もが、あらゆる機会に、生きる喜び、学ぶ楽しさを得られ、生涯にわたって主体的に学び続けることができ、市民相互と地域のつながりを育てていく生涯学習社会の実現を目指す。

子どもから高齢者までが生涯にわたっていきいきと学習できる環境の充実に図り、もって豊かな文化の創造とふるさと昭島を愛する心を育て、かつ、いのちの大切さや環境との共生を考え、広く国際社会に貢献できる人材の育成を図る。

2 平成24年度昭島市教育委員会学校教育の目標及び教育目標を達成するための基本方針

1 目 標

教育委員会は、市民憲章と人間尊重の精神を基調とし、広く国際社会において信頼と尊敬の得られる知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな児童・生徒の育成、また、学校・家庭・地域の密接な連携のもと、ふるさとである昭島の自然や文化を愛し、社会に主体的に貢献できる「たくましい昭島っ子」の育成を目指す。

2 基本方針

教育委員会は、日本国憲法及び教育基本法の精神に基づき、人権尊重の理念を正しく理解し、思いやりの心や社会生活の基本的ルールを身に付け、社会に貢献しようとする精神を養うための教育を実施するとともに、学習指導要領の理念である「生きる力」をはぐくむため、「確かな学力の定着」「豊かな心の醸成」「健やかな体の育成」「輝く未来に向かって」の4つを柱として、本市の教育振興基本計画を推進する。

「確かな学力の定着」においては、学習指導要領を着実に実施し、言語活動の充実、理数教育の充実、小学校段階を含めた外国語教育の充実、小・中学校の連携推進、特別支援教育の推進、家庭学習への支援を行い、児童・生徒の確かな学力の定着をはかる。

「豊かな心の醸成」においては、教育相談体制の充実、体験活動への支援、生活指導への支援を行い、児童・生徒の豊かな心を育てる。

「健やかな体の育成」においては、体力の向上、部活動への支援、食育を推進し、児童・生徒の健やかな体の育成をはかる。

「輝く未来に向かって」においては、学校運営への支援、キャリア教育の推進をはかり、児童・生徒が社会人、職業人として自立できるよう指導の充実をはかる。

※施策については、昭島市教育振興基本計画に記載のとおり（１）確かな学力の定着（２）豊かな心の醸成（３）健やかな体の育成（４）輝く未来に向かっての４つのプランに基づく施策を推進する。

3 平成 24 年度昭島市教育委員会生涯学習推進の目標及び基本方針

1 目標

近年の少子化、高齢化、情報化、国際化の進展など市民を取り巻く生活環境が、急激に変化するなか、人々のライフスタイルや価値観も多様化し、日常生活全般にわたる様々な課題が発生している。

このように急速に変化する社会情勢の中で、市民一人ひとりが生涯にわたり知識や技術を習得するなど、豊かな人間性を育むための学習に対する感心が高まっている。

このため、市民それぞれの能力や必要性に応じ、「だれもが、いつでも、どこでも」気軽に学習し、互いにふれあい、家庭や地域の教育力を高める多様な学習活動をはじめ、スポーツ、文化芸術など市民の自主性を尊重した生涯学習を推進する必要がある。このような学びを推進するための目標を「市民相互と地域のつながりを育てる生涯学習」と定める。

2 基本方針

教育委員会は、市民の生涯学習を推進するための機関として、学習のきっかけづくりから、学習活動の支援、様々な生活課題の解決に向けた自主的な学習、更に芸術文化の振興、スポーツ活動への援助など、市民それぞれのニーズに応じた学習に必要な環境整備を図る必要がある。

そのため、市民の自己実現を求める多様なニーズを的確に把握しながら、市長部局や教育機関をはじめ関係行政諸機関・民間活動諸団体との連携を図り、本市の教育振興基本計画及び生涯学習推進計画に基づく諸施策を総合的かつ体系的に実施する。

- ※ 施策については、昭島市教育振興基本計画に記載のとおり（１）家庭・地域の教育力向上と活用、（２）市民の学習活動の振興、（３）市民のスポーツ活動の振興、（４）市民の文化芸術活動の振興についての４つの施策を推進する。

この施策に基づき、基本方針、基本計画を定めた社会教育複合施設の建設に向けてさらに具体的な検討を進めると共に、策定後１０年を経過する生涯学習推進計画の見直しを図るほか、平成２５年度に開催される「スポーツ祭東京２０１３」の開催準備に取り組むと共に、８月下旬に開催するリハーサル大会において国体開催に向けた検証事項の確認を行う。

また、新たな取組みとして平成２４年５月に市民の健康づくりや運動の日常化のきっかけづくり等を目的に、住民参加型のスポーツイベント「昭島チャレンジデー２０１２」を実施する。

第2章 教育委員会の組織及び活動状況

1 教育委員会委員

※ 平成25年3月31日現在

職 名	氏 名	任 期 期 間	期数
委 員 長	紅 林 由紀子	平成21年6月24日から 平成25年6月23日まで	3期
委 員 (職務代理)	寺 村 豊 通	平成24年4月8日から 平成28年4月7日まで	3期
委 員	石 川 隆 俊	平成24年12月25日から 平成28年12月24日まで	3期
委 員	小 林 和 子	平成24年4月1日から 平成28年3月31日まで	2期
委 員 (教育長)	木 戸 義 夫	平成22年6月22日から 平成26年6月21日まで	3期

2 教育委員会事務事業を主管する組織

(1) 教育委員会

部	課	係	主 な 分 掌 事 務
学 校 教 育 部	庶務課	庶務係	・教育委員会の会議に関すること。 ・条例、規則及び規程に関すること。 ・予算及び経理に関すること。 ・事務局及び課内庶務に関すること等
		施設係	・教育施設の建設計画に関すること。 ・教育機関の設置、管理及び廃止の手続きに関すること。 ・教育施設の新営工事及び維持修繕工事に関すること。 ・教育施設関係の補助金に関すること等
	学務課	学務係	・学齢児童及び学齢生徒の就学並びに児童生徒及び幼児の入 学、転学及び退学に関すること。 ・通学区域に関すること。 ・学級の組織編成に関すること。 ・児童及び生徒に係る就学奨励に関すること等
	指導室	教職員係	・教職員の任免の内申その他人事に関すること。 ・教職員の服務に関すること。 ・教職員の給与、旅費、退職手当等に関すること。 ・教職員の福利厚生に関すること等
		指導担当	・指導事務予算、補助金交付事務に関すること。 ・教育推進計画事業、学校支援員等に関すること。 ・教育相談室及び教育研修室に関すること。 ・国及び都の委託事業に関すること。
		指導主事	・教育課程編成、実施に関すること。 ・教育施策の企画、実施に関すること。 ・校内研究等、教職員の研修に関すること。 ・学校教育に関する専門的事項の指導に関すること。
	学 校 給 食 課	庶務係	・学校給食の計画に関すること。 ・配送に関すること。 ・学校給食運営審議会に関すること。 ・業者登録に関すること等
		収納係	・学校給食費に関すること。 ・給食物資の支払いに関すること。
		共同給食係	・学校給食共同調理場において調理される学校給食に係る次 の事務に関すること。 (1) 献立に関すること。(3) 食品の管理に関すること。 (2) 調理に関すること。(4) 衛生管理に関すること等

部	課	係	主 な 分 掌 事 務
生涯学習部	社会教育課	社会教育係	・社会教育及び生涯学習の総合調整に関すること。 ・社会教育及び生涯学習に係る行政相談に関すること。 ・社会教育関係団体の育成及び援助に関すること。 ・市史及び文化財の保護、調査に関すること等
	社会教育複合施設建設担当		・社会教育複合施設の建設に関すること。
	スポーツ振興課	スポーツ振興係	・スポーツ推進委員に関すること。 ・生涯スポーツの推進に関すること。 ・関係団体の指導及び援助に関すること。 ・スポーツの指導者の研修に関すること。 ・総合スポーツセンターの管理及び運営に関すること等
	国体推進室		・国民体育大会に関すること。 ・スポーツ祭東京2013昭島市実行委員会に関すること。
	市民図書館	整理係	・資料の収集及び受入れに関すること。 ・資料の整備、修理及び保存に関すること。 ・資料の分類、配列及び利用案内に関すること。 ・資料の目録の作成に関すること等
		貸出係	・図書館資料の提供及び貸出しに関すること。 ・読書相談及び参考調査に関すること。 ・児童及び学校図書館に対する奉仕に関すること。 ・地域文庫及び家庭文庫との連絡調整に関すること等
	市民会館・公民館	管理係	・市民会館・公民館の施設及び設備の維持管理に関すること。 ・市民会館・公民館の利用承認並びに使用料の徴収、付属設備等の使用料の免除及び還付に関すること。 ・市民会館の自主文化事業に関すること。 ・市民会館・公民館の庶務に関すること等
		事業係	・公民館運営審議会の処務に関すること。 ・各対象別、課題別講座等の開設に関すること。 ・討論会、展示会、音楽会、美術展その他の集会に関すること。 ・公民館事業に係る情報収集及び提供に関すること等

(2) 市長部局

部	課	係	主 な 分 掌 事 務
子ども家庭部	子ども育成課	青少年係	・青少年問題協議会に関すること。 ・青少年育成地区組織に関すること。 ・青少年委員に関すること等
		子ども家庭支援センター係	・子ども・子育て家庭の支援に関すること。 ・児童虐待に関すること。 ・子育てグループの支援に関すること。
		学童クラブ係	・学童クラブの管理及び運営に関すること
		児童育成担当	・放課後子ども教室に関すること。

※市長部局は、教育委員会として点検及び評価が必要な事業をもつ組織を掲載しました。

3 教育委員会の会議における審議内容一覧

(1) 定例会

会議名 (開催日)	議案等	内 容
第4回 (4月12日) 傍聴者3名	議 案	・昭島市情緒障害等通級指導学級入退級判定委員会委員の委嘱について ・昭島市立学校第三者評価委員の委嘱について ・昭島市立学校学校評議員の委嘱について
	協議事項	・昭島市立学校における周年記念式典の開催周期の変更について
	報告事項	・平成23年度昭島市立学校震災時図上訓練実施報告について ・平成24年度中学生海外交流事業について ・平成23年度就学支援の状況について ・平成23年度指定学校変更・区域外就学の処理状況について ・その他13件
第5回 (5月17日) 傍聴者1名	議 案	・昭島市教育委員会の事務の管理及び執行の状況の点検及び評価に関する学識経験者の委嘱について ・昭島市公立学校学区に関する規則の一部を改正する規則 ・昭島市立学校適正規模適正配置等審議会委員の委嘱について ・昭島市就学支援委員会委員の委嘱について ・昭島市難聴・言語障害通級指導学級入退級判定委員会委員の委嘱について ・昭島市立学校の学校医、学校歯科医及び学校薬剤師の公務災害補償に関する条例施行規則の一部を改正する規則 ・昭島市立学校第三者評価委員会委員の委嘱について ・昭島市立学校学校評議員の委嘱について ・昭島市学校給食運営審議会委員の委嘱について ・その他3件
	協議事項	・平成25年度昭島市立学校で使用する教科用図書の採択について
	報告事項	・平成24年度一般会計第1号補正予算(案)＜教育委員会関係＞について ・平成24年度小学生英語チャレンジ体験事業の概要について ・平成23年度「スクールプラン21」及び「学力向上推進プラン」の成果と課題並びに平成24年度「教育推進計画」について ・学校給食用食材の放射性物質検査の実施について ・昭島市生涯学習推進計画策定委員会委員の委嘱について ・その他12件

会議名 (開催日)	議案等	内 容
第 6 回 (6 月 21 日) 傍聴者 1 名	議 案	・昭島市立学校学校評議員の委嘱について ・昭島市民図書館協議会委員の委嘱について
	協議事項	な し
	報告事項	・平成24年第 2 回昭島市議会定例会一般質問＜教育委員会関係＞について ・平成24年度昭島市中学生海外交流事業派遣生及び平成24年度昭島市小学生英語チャレンジ体験事業参加者の決定について ・平成24年度文教委員会行政視察について ・学校給食用食材の放射性物質検査結果について ・昭島チャレンジデー 2 0 1 2 の結果について ・第 67 回国民体育大会関東ブロック大会軟式野球競技（リハーサル大会）の競技会役員の選出について ・その他 6 件
第 7 回 (7 月 19 日) 傍聴者14名	議 案	・平成25年度昭島市立学校で使用する教科用図書の採択について ・昭島市学校給食運営審議会委員の委嘱について ・昭島市学校給食費会計監査役員の委嘱について
	協議事項	・昭島市立小中学校地震防災計画について
	報告事項	・昭島市公民館開館30周年記念事業「JAXA子ども科学教室」について ・昭島市教育委員会行事予定（8月～11月）について ・昭島市外国人学校児童・生徒保護者負担軽減補助金交付要綱の一部を改正する要綱について ・平成23年度昭島市学校給食費会計決算報告について ・その他 6 件
第 8 回 (8 月 24 日) 傍聴者 3 名	議 案	な し
	協議事項	・昭島市教育委員会の事務事業に関する点検及び評価報告書（平成23年度分）について
	報告事項	・平成24年度昭島市一般会計第 2 号補正予算（案）＜教育委員会関係＞について ・平成24年度昭島市小学生英語チャレンジ体験事業実施報告について ・平成24年度昭島市中学生海外交流事業（派遣）実施報告について ・「昭島市立学校適正規模適正配置等について（中間答申）」（案）に関する意見募集の実施について ・平成23年度児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査結果について ・その他11件

会議名 (開催日)	議案等	内 容
第9回 (9月28日) 傍聴者7名	議 案	・昭島市社会教育委員の委嘱について ・昭島市公民館運営審議会委員の委嘱について
	協議事項	・特別支援学級（情緒障害等通級指導学級）の開設について
	報告事項	・平成24年第3回昭島市議会定例会一般質問〈教育委員会関係〉について ・いじめ及びいじめの疑いがあると思われる事例の対応状況についての調査（9月追調査結果）について ・平成24年度第2回教育委員の学校訪問について ・平成24年度東京都児童・生徒体力・運動能力、生活・運動習慣等調査（東京都統一体力テスト）の結果について ・昭島市の家庭・学校・地域の連携による新たな社会教育のあり方について（建議） ・その他8件
第10回 (10月18日) 傍聴者3名	議 案	・昭島市教育委員会表彰被表彰者について ・昭島市立中学校の学校歯科医の委嘱について ・昭島市文化財保護審議会委員の委嘱について ・昭島市公民館運営審議会委員の委嘱について
	協議事項	・昭島市特別支援教育推進計画（案）について
	報告事項	・平成25年度予算編成方針について ・「昭島市立学校適正規模適正配置等について（中間答申）」（案）に関するパブリックコメントの結果及び中間答申について ・第59回昭島市成人式について ・第58回昭島市新春駅伝競走大会について ・スポーツ祭東京2013開催及び2020年オリンピック・パラリンピック東京招致気運醸成事業について ・その他10件
第11回 (11月15日) 傍聴者4名	議 案	・平成25年度昭島市教育委員会学校教育の目標及び基本方針 ・昭島市立学校における教育課程編成基準について
	協議事項	・第2次昭島市生涯学習推進計画（案）及びパブリックコメントの実施について ・市指定天然記念物「郷地の大桑」の市指定解除の諮問について
	報告事項	・平成24年度昭島市一般会計第4号補正予算（案）〈教育委員会関係〉について ・教育委員と市立小中学校長との教育懇談会について ・昭島市特別支援教育推進計画（案）に関するパブリックコメントの実施について ・学校給食調理業務の民間委託について ・その他11件
第12回 (12月20日) 傍聴者3名	議 案	・昭島市教育委員会委員長及び委員長職務代理者の選任について
	協議事項	・平成24年度昭島市立学校卒業証書授与式及び平成25年度昭島市立学校入学式におけるお祝いのことばについて
	報告事項	・平成24年第4回昭島市議会定例会一般質問〈教育委員会関係〉について ・平成25年度入学予定者就学時健康診断受診状況について ・「昭島市立学校適正規模適正配置等について（答申）」（案）に関するパブリックコメントの実施について ・平成24年度「東京都児童・生徒の学力向上を図るための調査」の結果について ・その他16件

会議名 (開催日)	議案等	内 容
第1回 (平成25年 1月17日) 傍聴者4名	議 案	・平成25年度昭島市教育委員会生涯学習推進の目標及び基本方針 ・指定史跡旧跡名勝天然記念物の指定解除について
	協議事項	な し
	報告事項	・昭島市実施計画（平成25年度～平成27年度）＜教育委員会関係＞について ・平成24年度「昭島市立学校児童・生徒及び保護者アンケート」の調査結果について ・「昭島市特別支援教育推進計画（案）」に関するパブリックコメントの結果について ・平成24年度東京都教育委員会児童・生徒等表彰被表彰者の決定について ・その他7件
第2回 (2月10日) 傍聴者4名	議 案	・昭島市特別支援教育推進計画の策定について
	協議事項	・平成25年度教育施策推進の基本的な考え方について ・昭島市教育振興基金条例の一部を改正する条例
	報告事項	・平成24年度昭島市一般会計第6号補正予算（案）＜教育委員会関係＞について ・平成25年度昭島市一般会計予算（案）＜教育委員会関係＞について ・通学路における緊急合同点検等実施結果について ・インフルエンザ様疾患による臨時休業措置状況について ・平成25年度昭島市立学校教育推進計画（HDSプラン）について ・その他10件
第3回 (3月22日) 傍聴者3名	議 案	・昭島市教育委員会表彰被表彰者について ・昭島市立小中学校の学校医、学校歯科医及び学校薬剤師の委嘱について ・平成25年度昭島市立学校の休業日の承認について ・平成25年度昭島市立学校の教育課程の受理について
	協議事項	な し
	報告事項	・平成25年度予算編成に対する昭島市議会各派からの要望等＜教育委員会関係＞について ・平成25年第1回昭島市議会定例会代表質問及び一般質問＜教育委員会関係＞について ・昭島市立学校適正規模適正配置等審議会の最終答申について ・昭島市立つつじが丘北小学校情緒障害等通級指導学級の開設について ・昭島市就学支援委員会設置要綱の一部を改正する要綱について ・その他16件

(2) 臨時会

会議名 (開催日)	議案等	内 容
第2回 (4月2日)	議 案	・昭島市教育委員会委員長職務代理者の選任について
第3回 (9月28日)	報告事項	・校長職・教育管理職等候補者選考受験状況について
第4回 (12月20日)	報告事項	・平成24年度東京都公立学校校長等選考結果について ・東京都公立学校副校長の任命について
第1回 (2月14日)	議 案	・平成25年度昭島市公立学校長等の任命に関する内申について
第2回 (3月22日)	議 案	・平成25年度昭島市教育委員会統括指導主事の配置について ・平成25年度昭島市教育委員会あて指導主事の配置について
	報告事項	・東京都公立学校副校長の任命について

4 教育委員会委員の主な活動

事 業 名	実 施 日	場 所
校長辞令伝達式	平成24年 4月2日	市役所市民ホール
小学校入学式	4月6日	各小学校
昭島市教育委員会表彰式(平成23年度第2回)	4月8日	市役所市民ホール
中学校入学式	4月9日	各中学校
教育委員会教育施設訪問(第1回)	4月12日	中神小学校、成隣小学校
東京都市町村教育委員会連合会理事会等	4月27日	東京自治会館
東京都市町村教育委員会連合会定期総会	5月24日	東京自治会館
昭島市立公立小学校PTA協議会総会	6月1日	市民交流センター
昭島市立公立中学校PTA協議会総会	6月8日	市民交流センター
昭島市中生海外交流事業結団式	6月10日	市役所602・603会議室
教育委員会学校訪問(第1回)	6月21日	玉川小学校・拝島中学校
東京都市教育長会研修会	7月26日	東京自治会館
東京都市町村教育委員会連合会理事会等	8月23日	東京自治会館
昭島市公民館開館30周年記念式典	9月1日	公民館
第59回昭島市民体育大会	9月2日	総合スポーツセンター
第33回昭島市書道連盟表彰式	9月2日	公民館
「未来をひらく」発表会	9月8日	市民会館
小学校音楽鑑賞教室	10月3日	市民会館
市民スポーツ・レクリエーションフェスティバル 2012	10月8日	総合スポーツセンター等

事業名	実施日	場所
パース・モダン・スクール表敬訪問	10月11日	庁議室
昭島市民文化祭	10月12日	市民会館・公民館
東京都市町村教育委員会連合会管外視察研修	10月12日	静岡県沼津市教育委員会
教育委員会学校訪問（第2回）	10月18日	つつじが丘北小学校・光華小学校
東京都市町村教育委員会連合会第4ブロック研修会	10月23日	小金井市商工会館
昭島市教育委員会表彰式（平成24年度第1回）	11月3日	市役所市民ホール
小学校音楽会	11月6日	市民会館
つつじが丘北小学校30周年行事	11月9日	つつじが丘北小学校
2012青少年フェスティバル	11月25日	市民会館
拝島第三小学校50周年行事	12月1日	拝島第三小学校
市長との教育懇談会	12月20日	市長応接室
東京都市町村教育委員会連合会第2回理事会研修会	平成25年 1月10日	東京自治会館
第58回新春駅伝競走大会	1月13日	光華小東～八清通り～光華小北
第59回成人式	1月14日	フォレスト・イン昭和館
市民との懇談会、校長との教育懇談会	1月17日	市民交流センター
第50回新春たこあげ大会	1月27日	拝島自然公園他4箇所
食育シンポジウム	1月29日	市役所市民ホール
東京都市町村教育委員会連合会研修会	2月5日	東京自治会館
昭島市自治会ブロック対抗スポーツ大会	2月17日	総合スポーツセンター
昭島市民綱引き大会	3月10日	総合スポーツセンター
中学校卒業式	3月19日	各中学校
中学校東京駅伝大会	3月20日	味の素スタジアム
中学高校生の読書フォーラム2013	3月24日	公民館小ホール
小学校卒業式	3月25日	各小学校

5 教育委員会委員の研修

事業名	実施日	場所	内容
東京都市町村教育委員会連合会定期総会	5月24日	東京自治会館	・平成23年度東京都市町村教育委員会連合会事業報告の承認について ・平成24年度東京都市町村教育委員会連合会事業計画（案）について ほか
東京都都市教育長会研修会	7月26日	東京自治会館	演題 「『若くないけど子どもだ』と言う大学生の現状から」 講師 東京学芸大学芸術スポーツ科学系教授・学長補佐文部科学省生涯学習調査官 松田 恵示 氏
東京都市町村教育委員会管外視察研修	10月12日	沼津市教育委員会	沼津市教育基本構想、隣接校選択制、がんばる学校応援事業、小中一貫教育について、防災教育（津波避難路等）、環境教育（太陽光発電設備）について、沼津市の中高一貫教育について。
東京都市町村教育委員会連合会第4ブロック研修会	10月23日	小金井市商工会館	テーマ 私の出会った恩師がた ～教育において最も大切なこと～ 講師 作家 林 望
東京都市町村教育委員会連合会第2回理事会研修会	平成25年 1月10日	東京自治会館	演題「教育行政の現状と課題」 講師 東京多摩教育事務所長 桐山 靖彦 氏
東京都市町村教育委員会連合会研修会	平成25年 2月5日	東京自治会館	演題「発達障害の正しい理解から支援へ」 講師 佐々木 正美 氏

第3章 主要施策の点検及び評価

昭島市教育振興基本計画（平成22年度～26年度実施）

プラン1	確かな学力の定着
プラン2	豊かな心の醸成
プラン3	健やかな体の育成
プラン4	輝く未来に向かって
プラン5	生涯学習の推進

プラン1 確かな学力の定着

主要施策（1） 新学習指導要領の着実な実施

基礎的・基本的な知識・技能を習得させ、知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を育成するとともに、学習意欲の向上や学習習慣の一層の確立を図り、確かな学力を身につけた児童・生徒を育成しなければならない。

授業時数や指導内容が増加した新学習指導要領を着実に実施し、児童・生徒に確かな学力の定着を図る。

【施策の取組状況】

（1）言語活動の充実とコミュニケーション能力の育成への支援

言語活動を充実させ、コミュニケーション能力を育成させるため、つつじが丘南小、つつじが丘北小、田中小、拝島第一小、拝島第三小の5校が東京都より言語能力向上推進校の指定を受け、拝島第一小では、市内外学校教員を対象とした話し合い活動についての発表を行った。また、各校においても昨年度に引き続き各教科指導計画に言語活動を位置づけ、充実を図った。

（2）理数教育充実のための支援

算数について、小学校全校で少人数指導を実施し、個に応じた指導の充実に努めた。理科では、コア・サイエンス・ティーチャー事業として理科教育に優れている教員（東小、武蔵野小、成隣小、拝島第三小）を他校に派遣し、授業を行うほか、各校の教員に対し、理科の実験についての研修を実施した。また、理科支援員を16名派遣し、授業の支援を年間351時間行った。

（3）小学校段階を含めた外国語教育の充実

小学校5・6年の外国語活動では、外国語活動補助員を年間35授業時間中25時間以上派遣し、授業支援を行った。また、小学校教育研究会の外国

語活動部会では、授業研究を年間3回行い、授業改善に努めた。

(4) 国や東京都の学力・学習状況調査を活用した学習到達度の検証と授業改善の推進

国の「全国学力・学習状況調査」及び都の「学力向上を図るための調査」を全校で実施し、結果を活用して授業改善推進プランを見直した。

なお、都の「学力向上を図るための調査」については、採点を教員が行い、児童・生徒の課題の傾向をより理解し、各校の教育推進計画に反映した。

(5) 小・中学校の連携推進

小中学校で「小中連携の日」を1日以上設け、その内容を有効なものにするために中学校とその学区内の小学校との連携を推進する「ブロック協議会」の中で内容を協議し、小学校6年生による部活動体験や授業体験、また、小学校教員による中学校の授業参観を行った。

(6) ホームページを利用した家庭学習への支援

市ホームページ上で児童が家庭学習のために活用することができるチャレンジコーナーや小学校8校、中学校全校で、児童・生徒が学校及び家庭からインターネットを利用し、使用教科書に沿ったドリル学習等ができる「eライブラリー」の活用の推進を図った。

(7) 昭島市立学校適正規模適正配置等審議会の答申

平成25年2月27日付けで、昭島市立学校適正規模適正配置等審議会の答申が出され、その中でつつじが丘北小とつつじが丘南小、拝島第一小と拝島第四小の学校統合を、また、東小と玉川小、拝島第二小と光華小、拝島第二小と拝島第三小、瑞雲中と昭和中、多摩辺中と清泉中と拝島中の通学区域の見直しが答申された。

【主な課題】

- (1) 全国調査から：中学校国語においては平均値を上回ったが、その他は下回っている。

〈全国学力・学習状況調査〉

調査対象：市内4校の小学校6年生及び市内1校の中学校3年生

		教科別平均正答率				
小学校	教 科	国語A	国語B	算数A	算数B	理科
	国平均	81.6	55.6	73.3	58.9	60.9
	昭島市	79.3	53.0	69.2	57.8	59.9
中学校	教 科	国語A	国語B	数学A	数学B	理科
	国平均	75.1	63.3	62.1	49.3	51.0
	昭島市	76.2	65.2	60.8	49.1	48.5

(2) 東京都調査から：全教科とも平均値を下回っている。

〈児童・生徒の学力向上を図るための調査〉

調査対象：全小学校5年生及び全中学校2年生

		教科別平均正答率				
小学校	教科	国語	社会	算数	理科	
	都平均	68.0	57.6	58.3	61.5	
	昭島市	66.7	55.3	55.0	60.0	
中学校	教科	国語	社会	数学	理科	英語
	都平均	78.7	46.8	54.5	51.4	55.9
	昭島市	75.6	41.8	50.2	47.5	52.3

(3) 学力が二極化しており、特に支援を要する層への指導の充実が求められる。

(4) 各種調査において無回答率が高い。

(5) 児童・生徒アンケートにおいて「家庭学習が身についていない」と回答した児童は26.2%、生徒は50.6%であった。(P.61参照)

(6) 学校規模に偏りがあり、小学校では、単学級の学年が多い。

【今後の取組の方向性】

(1) 全校で東京都平均を上回ることを目標に、各校で数値目標を設定した教育推進計画を推進する。

(2) 児童・生徒の学力の課題を分析するために学習のつまずきが見られる小学校4年生、中学校1年生を対象とした市独自の調査を実施する。

(3) 基礎基本の更なる定着を図るとともに「努力を要する評価に近い」児童・生徒への指導の充実を図るため、長期休業日及び土曜日等に補習授業を実施する。

(4) 言語活動の要素である「記録、説明、批評、論述、討論」などを授業等に取り入れ、充実させていく。

(5) 学力調査を分析し、基礎・基本の定着と活用・探究する力の育成を授業改善を通して計画的に行う。

(6) 学校が用意している家庭学習の手引きなどを参考に、家庭においては保護者の協力を得て、学習習慣の定着を図る。

(7) 小学校のコンピュータ教室機器の買替えに伴い、全校でeライブラリーが活用できる環境を整える。

(8) 小中学校に理科教育に先進的に取組む理数フロンティア校を設置する。

(9) 小中学校の連携を更に推進するため、年3回以上の「小中連携の日」を設定する。

(10) 昭島市立学校適正規模適正配置等審議会答申を推進していく。

【「学校が行うこと」についての学校自己評価結果】

昭島市教育振興基本計画では、施策に応じた学校の取り組むべき事業について、「学校が行うこと」として記載されており、その実施状況を学校が自己評価した。

(小学校15校、中学校6校)		S	A	B	C	N
①	基礎・基本を重視した学習指導の充実	0	21	0	0	0
②	言語活動の各教科等指導計画への位置づけ	0	17	4	0	0
③	学習のつまづきを早期に立て直すための補習指導の実施	0	14	7	0	0
④	家庭での学習の習慣化の促進	0	14	7	0	0
⑤	全国学力・学習状況調査の実施、調査結果の分析、課題の整理と改善策の提示	1	15	5	0	0
⑥	同調査結果の児童・生徒一人ひとりへのフィードバックと活用	0	11	10	0	0

※ S…申し分なく達成した A…概ね達成した B…やや下回った C…大きく下回った

N…平成 24 年度実施予定がなかった

主要施策（２）個に応じた学習指導の充実

児童・生徒の一人ひとりが主体的に学習に臨み、授業の中で思考・判断・表現する場面を大切に、興味・関心・意欲を高めることができる「分かる授業」を目指して指導の充実を図らねばならない。学年を二つ以上の学習集団に分割し授業を行う少人数指導（習熟度別）や二人の教員によるチームティーチングなど、個に応じた学習指導の充実を図る。

【施策の取組状況】

（１）授業改善推進プランによる計画的な学習指導の推進

都の学力調査を自校採点したことで、結果の分析がより実態に即したものになり、各学校において授業改善推進プランの見直しを図り、児童・生徒の学習意欲を高める授業を行った。

（２）少人数指導（習熟度別）等のきめ細かな学習指導の推進

少人数指導のための加配教員を配置し、児童・生徒の習熟度別学習を実施した。習熟度が高い児童・生徒に対しては発展的な学習内容の機会を与える一方、習熟度に問題がある児童・生徒に対しては、更に学習支援員を配置し、一人ひとりのつまずきに対してそれぞれの実態に応じた適切な支援を行った。

また、放課後チャレンジ教室や土曜講座などの補習授業を学習支援員を配置し、実施した。特に、夏季休業期間の補習を充実させ、児童・生徒の学習計画に役立てた。

（３）学校支援員等の人的配置の充実

各校が推進する教育推進計画に基づき、教育活動支援者、特別支援教育支援員、理科支援員、国語力育成支援員、学習指導補助員等を派遣し、学習を支援した。

【主な課題】

（１）少人数指導を行う教室が不足している学校がある。

（２）少人数指導を実施するための加配教員と担任との打合せの時間の確保が難しい。

（３）学習を支援する各種支援員の派遣が十分でない。

【今後の取組の方向性】

（１）少人数指導を実施するための加配教員の配置について、東京都教育委員会へ継続して要望する。

（２）教育推進計画に基づき、各校の重点取組みに応じた人的及び物的支援を継続して行う。

【「学校が行うこと」についての学校自己評価結果】

	S	A	B	C	N
① 授業改善推進プランの作成と授業改善の実施	0	20	1	0	0
② 少人数指導(習熟度別)、ティームティーチングの実施計画の作成と工夫	7	12	2	0	0
③ 校内における授業研究の実施	5	15	1	0	0

プラン1 確かな学力の定着

主要施策（３） 教員の指導力の向上

児童・生徒に確かな学力を身につけさせるためには、教員の力量を高め、指導力の向上を図ることが不可欠である。

また、教員の大量退職大量採用の時代にあって、経験豊かな教員の実践的知識や指導技術を若手教員に引き継ぐなど、若手教員の育成も大きな課題である。人材育成を確実に進めるため、教員研修体系を整理し、経験や能力、職層に応じた教員研修を充実する。

【施策の取組状況】

（１）教員研修の充実とＯＪＴ＊１の推進への支援

新規採用時から段階的に受講することができる初任者研修、２年次・３年次研修（授業観察を含む。）の若手教員育成研修を実施するとともに、ＯＪＴガイドライン等の資料提供、新人育成教員の配置（富士見丘小、玉川小、拝島第一小、拝島第二小）を行い、若手教員の指導育成を計画的に進めた。

また、教育相談、特別支援教育、情報教育、中学校武道実技、小学校水泳実技研修、司書教諭研修などをテーマとした教育課題研修を実施し、教員の指導力向上を支援した。

（２）小学校における教科担任制など指導方法の工夫・改善のための支援・助言

教科担任制実施のために小学校に講師を派遣し、教員の専門性を活かした指導のあり方を研究した。また、授業改善をテーマとした「授業研究研修」として指導法に関する研修を実施し、指導技術の向上を支援した。

（３）学校における体罰の実態調査の実施

体罰の実態を把握するため全教員を対象に調査を行ったが、体罰の報告はなかった。

＊１ ＯＪＴ（On-the-Job Training）とは、職場内で行われる職場内教育・教育訓練手法のひとつで、職場の上司や先輩が部下や後輩に対し具体的な仕事を通じて仕事に必要な知識・技術・技能・態度などを意図的・計画的・継続的に指導し、修得させること。

【主な課題】

- （１）教員の指導力によって、児童・生徒の学力に差が見られる。
- （２）各校に複数名配置される新人教員に対応するため、人材育成体制の整備と学校現場で新人教員を育成していく新人育成教員の更なる確保が求められる。
- （３）教員の年齢構成に偏りがあり、若手教員の比重が高い。
- （４）高学年を中心とした小学校における教科担任制の方向性について、検討する必要がある。

【今後の取組の方向性】

- (1) OJTの推進を図り、質の良い授業を実施していく。
- (2) 学校への指導及び質の高い研修を充実させるために統括指導主事を設置する。
- (3) 人材育成計画を活用し、主幹教諭及び主任教諭の職を活かし、教員の能力・経験に基づく人材育成の仕組みを整える。
- (4) 教科担任制に関する成果と課題を継続的に検証し、市としての方向性を示す。
- (5) 体罰は絶対に許されない行為であることを徹底していく。

【「学校が行うこと」についての学校自己評価結果】

	S	A	B	C	N
① 教員一人ひとりのキャリアプランの作成と活用	1	14	6	0	0
② 授業改善推進プランの作成と活用、授業評価の実施	1	17	3	0	0
③ 校内における OJT 推進計画の作成と実施	1	13	7	0	0
④ 校内研修の充実	5	15	1	0	0

プラン1 確かな学力の定着

主要施策（４） 情報通信機器の整備と活用及び情報モラル教育の推進

学校において、情報通信機器は調べ学習や学習の発表など、多様な学習のための重要な手段の一つとして活用されている。

学習のために、情報通信機器を効果的に活用することの重要性を児童・生徒に理解させるとともに、情報活用能力の育成を図る。

一方、インターネット上の掲示板への書き込みによる誹謗中傷、インターネット犯罪や有害情報など、情報化の影の部分が深刻な問題となっている。

情報通信機器を正しく活用するための情報モラル教育を推進するとともに、フィルタリングの利用について保護者に呼びかけるなど、児童・生徒が有害情報等に巻き込まれないよう、家庭に向けた情報モラル教育を推進する。

【施策の取組状況】

（１）情報通信機器の整備・充実

小中学校に教員用ノートパソコン、プロジェクタ、教材提示装置又はタブレット端末等を購入したほか、平成23年度に引き続き、小学校の職員室に設置しているサーバやネットワーク機器を故障の原因から保護するためのサーバラックを4校（東小、つつじが丘南小、拝島第二小、拝島第四小）で購入したことにより、全小学校にサーバラックが設置された。

（２）ＩＣＴ*2推進委員会等の開催

ＩＣＴ推進委員会を開催し、ＩＣＴ機器の授業や校務処理での活用について情報交換などを行った。

また、平成25年度に実施を予定している小学校教育用コンピュータ機器等の入替えにあたり、教員を対象とした小学校コンピュータ教室用ソフトウェアの展示会を開催し、その感想等をソフトウェア選定の材料とした。

（３）情報通信機器の活用による指導事例の提供

ＩＣＴ推進校（拝島第三小、中神小、田中小）でデジタル教科書を活用した授業を行い、より効果的な使い方を研究した。

（４）学校、家庭、地域における情報モラル教育の推進

インターネットやメールの利便性や有用性を学ぶとともに、セキュリティ問題やその影に潜むマイナス面について学習した。また、セーフティ教室や普段の安全指導において携帯電話の使用を中心とした情報モラル教育を実施し、各教科における情報モラル教育の推進を図った。

*2 ＩＣＴ(Information and Communication Technology) とは、情報や通信に関連する技術一般の総称のこと。

【主な課題】

（１） ＩＣＴ機器や関連設備等が不足している。

（２） ＩＣＴを活用した方が効果的と思われる授業場面での ＩＣＴ活用が十

- 分に出来ていない。特に、教職経験が豊富な教員層にその傾向がある。
- (3) 小学校のコンピュータ教室の機器の故障が増えてきた。また、動画等の教材に対してパソコンのスペックが追いつかない。

【今後の取組の方向性】

- (1) 小中学校の多くの優れた実践について I C T 活用事例をまとめ、事例集として各校へ情報を提供し、活用を促進する。
- (2) 日常的に I C T を活用した授業を全校で実施できるよう、引き続き活用のポイントに関する情報を提供し、また、研修を実施する。
- (3) I C T 推進校を増やし、I C T 機器（タブレット端末の導入）やデジタル教科書等の普及に努める。
- (4) 全小学校においてコンピュータ教室の機器の買替えを行う。

【「学校が行うこと」についての学校自己評価結果】

	S	A	B	C	N
① 情報通信機器の活用の視点を盛り込んだ授業改善推進プランの作成と活用	0	6	14	0	1
② 家庭、地域と連携した情報モラル教育の推進	1	10	9	0	1
③ 校内研修の実施	1	11	8	0	1

主要施策（５） 学校図書館の整備と読書活動の推進

学校図書館は児童・生徒が読書を楽しむための読書センターとしての機能と必要な情報を収集・選択・活用できる学習情報センターとしての機能を併せ持っており、学校教育になくてはならない施設である。

各教科学習における言語活動の充実のために読書活動が果たす役割は重要であり、蔵書の充実や蔵書管理の電算化など、読書環境の整備につとめるとともに、図書ボランティア等の活用を図りながら、児童・生徒の読書活動を活性化する。

【施策の取組状況】

（１）学校図書館の蔵書の充実

学校図書館図書標準率が、小学校は119%、中学校は94%となっている。

（２）司書教諭研修の実施

学校図書館運営支援員を活用した「読書活動」研修会や全校に導入した学校図書館システムの研修を実施した。

（３）図書ボランティアの確保

司書教諭、図書ボランティアなどの活用に加え、週１回の学校図書館運営支援員の配置を継続することにより、学校図書館の環境が整備された。

【主な課題】

（１）現行の兼職による司書教諭では、授業時数の関係から司書教諭としての十分な職務を遂行することができない。

（２）各学校で朝読書などに取り組んでいるが、自ら読書しようとする児童・生徒が少ない。

（３）学校図書館の整備状況及び図書データベースソフト（TooLi-S）の運用方法において、学校ごとに活用の温度差がある。

【今後の取組の方向性】

（１）全校朝読書に取り組むなど、各校における読書活動の更なる充実を図る。

（２）司書教諭の授業時数軽減について東京都教育委員会へ継続して要望する。

（３）図書館運営支援員や図書ボランティアを活用し、図書に関する掲示を工夫するなど児童・生徒にとってより魅力ある学校図書館を作る。

（４）学校図書のデータベースを活用し、タイムリーな本の購入など図書館の活性化を図り、児童生徒の読書に関する意欲を高める。

（５）教員が授業に必要な図書を検索（利用）することができるようにするため、図書データベースソフト（TooLi-S）の活用方法等について研修会を実施する。

（６）昭島市市民図書館との連携を更に深めていく。

【「学校が行うこと」についての学校自己評価結果】

	S	A	B	C	N
① 学校図書館活用計画、読書活動推進計画等の作成と活用	3	18	0	0	0
② 学校図書館蔵書整備計画の作成	1	16	3	0	1
③ 読書活動活性化に向けた教育課程の編成	3	18	0	0	0
④ 図書ボランティア活用計画の作成	3	15	1	1	1

プラン1 確かな学力の定着

主要施策（６） 特別支援教育の推進

発達障害を含め、特別な支援が必要な児童・生徒に対して、一人ひとりのニーズに応じた適切な教育的支援を行うことが求められている。

特別な支援を必要とする児童・生徒一人ひとりの教育的ニーズを把握し、その持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善又は克服するための特別支援教育を推進する。

【施策の取組状況】

（１）特別支援教育推進計画の作成

平成25年から平成29年までの５年間を計画する昭島市特別支援教育推進計画を作成した。

（２）就学支援体制の整備

臨床心理士＊3及び特別支援学級指導経験者を含む就学支援委員会において、一人ひとりの実態に応じた就学支援を行った。

（３）特別支援教育推進委員会の充実

市民代表を加えた特別支援教育推進委員会で、特別な支援が必要な児童・生徒や保護者のニーズを的確に把握し、特別支援教育の推進が図られるよう東京都特別支援教育推進計画（第３次）の概要について情報提供した。

（４）特別支援教育関係研修会の充実

都立あきる野学園の教員を講師として初任者研修及び教育相談研修を行った。

（５）特別支援教育支援員等の派遣

支援員の派遣時数を年間300時間から420時間に増やすとともに、学校において支援員を活用し、個別指導計画・個別の教育支援計画の作成を行った。

（６）副籍等による交流活動の推進

あきる野学園、武蔵村山特別支援学校及び八王子特別支援学校と連携し、共同学習、朝集会、給食等の場面で交流を行った。

（７）通級指導学級（小学校）の増設

つつじが丘北小で情緒障害通級指導学級「そよかぜ」の開設準備を行った。

＊3 臨床心理士とは、財団法人日本臨床心理士資格認定協会が認定する法人認定資格で、カウンセリングや諸種の心理療法などを担当する専門職員

【主な課題】

- （１）通常学級の担任又は保護者に対し特別支援教育について正しい理解を得るため啓発活動の充実を図る必要がある。

- (2) 就学相談結果を生かして、児童・生徒が一人ひとりの能力を最大限に伸ばす就学先を選択することができる体制が必要である。
- (3) 特別支援教育推進委員会の果たす役割と位置付けの整理を行い、方向性を示し、同委員会の再編成を行う必要がある。
- (4) 国や東京都の特別支援教育に関する研修内容を生かした指導を行う必要がある。
- (5) 復籍制度及び居住地交流について周知方法を工夫し、保護者への理解を推進していく必要がある。

【今後の取組の方向性】

- (1) 特別支援教育推進計画を着実に実現する。
- (2) 全教職員を対象とした研修会を実施するとともに保護者に対して発達障害や特別支援教育への理解啓発を行う。
- (3) 継続した就学支援体制を構築し、相談担当窓口を一本化する。
- (4) 特別支援教育推進委員会の再編成を行う。
- (5) 固定学級の教育課程の充実及び情緒障害等通級指導学級の増設を検討する。
- (6) 復籍制度及び居住地交流のための関係校の協議会の開催や交流プログラムの研究・開発を行う。
- (7) 特別支援推進計画について市民に向けた説明会を実施する。

【「学校が行うこと」についての学校自己評価結果】

	S	A	B	C	N
① 各校の特別支援教育推進計画の作成と活用	2	18	1	0	0
② 校内体制の整備	4	16	1	0	0
③ 特別支援教育コーディネーターの活用	2	16	2	1	0
④ 副籍等による交流活動プログラムの作成	0	18	2	0	1
⑤ 幼稚園、保育園との連携・交流の推進	1	10	5	0	5

主要施策（１） 心の教育の充実

児童・生徒が基本的な生活習慣を身に付け、他人を尊重し、認め合うことなど、社会生活を送る上での生き方を学ぶとともに、一人ひとりが自分をしっかりと見つけ、将来の目標を持ち、目標に向かって努力する。こうした豊かな人間性と自立心をはぐくむことが必要である。

このため、学校の教育活動全体をとおして心の教育を推進するとともに、他人や社会、自然環境との直接的なかかわりが持てる集団宿泊活動、奉仕体験活動、文化芸術活動などの体験活動をはじめとする特別活動の充実を図る。

【施策の取組状況】

（１）学校の教育活動全体をとおしての心の教育の推進

道徳の時間を要として、各教科等において心の教育の充実に努めた。また、ふれあい月間において教員を対象とした児童・生徒のいじめに関する調査を２回行ったほか、７月には全児童・生徒を対象としたいじめに関するアンケート調査を全校で実施した。

（２）人権教育推進委員会の充実

重点テーマに「人権感覚の向上」を設定し、人権作文の応募、人権週間におけるパネル展示、人権教育研修会、研究授業などを実施した。

（３）道徳授業地区公開講座の充実

道徳推進教師を中心に地域の教育力を活用するなど、公開講座の内容について工夫するとともに、意見交換会を実施した。

（４）体験活動を重視した行事等への支援

小学校５・６年生の移動教室、中学校１年生又は２年生の移動教室、中学校３年生の修学旅行に参加する児童・生徒に対して、補助金を交付した。

（５）家庭・地域との連携による心の教育の推進

青少年とともに歩む地区委員会及びＰＴＡとの連携を図りながら年２回の「子どもと親の家庭教育講座」や子どもお心の発達や成長段階に講じた親の関わり方を学ぶ「家庭教育セミナー」を９日間開設した。

（６）あいさつ運動の推進

児童・生徒会活動の一環として、東日本大震災への義援金活動等を行い、様々な人々とかかわる中で、児童・生徒に挨拶・共助の大切さを実感させた。

また、４月、７月、１１月を「あいさつ運動推進強化月間」として位置づけ、チラシ及びポスターの配布並びにのぼり旗の掲示による啓発活動に加え、新たにあいさつ運動推進標語を募集し、その表彰式と併せて音楽劇及び記念講演を行い、啓発活動の充実に努めた。

【主な課題】

（１）いじめを根絶することができない。

- (2) 学校間において有効な体験活動のプログラムの情報が共有されていない。
- (3) 地域ネットワークは構築されているが機能していない面がある。
- (4) 各校PTAと連携し、子どもと親の家庭教育講座を実施しているが、日程や講師の都合により企画のみで実施に至らなかった地域があった。

【今後の取組の方向性】

- (1) いじめは、どこの学校でも起こり得るものとの認識を持ち、早期発見・早期対応を行う。また、全児童・生徒に対するいじめアンケート調査を実施する。
- (2) 健全育成アドバイザー又は生活指導支援員を派遣することで、健全育成に努める。
- (3) 各校が行っている自然体験、集団活動などの活動プログラムを工夫し、充実を図る。
- (4) 小学校5年生の宿泊学習の情報共有及び充実を図るため、検討委員会を設置する。
- (5) 児童・生徒の人権感覚の向上を目指し、人権尊重教育推進校を設け、そこでの成果を他校へと広げていく。
- (6) サポートチーム等の地域ネットワークの充実を支援する。
- (7) 子どもと親の家庭教育講座について、校長会等においてもPRに努め、学校との連携を綿密にすることで強化を図り、事業の充実を図っていく。

【「学校が行うこと」についての学校自己評価結果】

	S	A	B	C	N
① 人権教育全体計画の改善・充実	2	18	1	0	0
② 道徳指導全体計画の改善・充実	1	19	1	0	0
③ 体験活動プログラムの充実	1	16	4	0	0
④ 自尊感情をはぐくむ指導法の工夫	0	14	7	0	0

主要施策（２） 教育相談体制の充実

学校不適応やいじめ、暴力行為等、児童・生徒の問題行動への対応が、教育における重要課題の一つとされ、その対応が急務である。

学校不適応やいじめにあった児童・生徒への学校内外における相談体制の整備・充実を図るとともに、問題行動を起こす児童・生徒に対しては毅然とした指導を行い、民主主義社会における法やルール意義やそれらを遵守することの意味を理解し、主体的に判断し、適切に行動できる児童・生徒を育てる。

【施策の取組状況】

（１）教育相談事業の児童・生徒、保護者への周知

児童の生活習慣の定着、学校不適応への支援を行うため、４月を中心に各小学校に学級支援員を配置するとともに適応指導教室を開設している。

また、教育相談室、適応指導教室等の案内リーフレットや相談窓口一覧を作成し、保護者会等で配付し、啓発を図った。

〈教育相談室相談状況〉

相談内容	不登校	いじめ	交友関係	情緒不安定	進路相談	学校教育	家庭教育	その他	合計
相談件数	83	3	4	37	4	22	28	125	306

〈適応指導教室・生徒在籍状況〉

区分	小学校	中学校	合計
人数	10	29	39

（２）教育相談室への臨床心理士、教育相談員の適正配置

教育相談室では臨床心理士１名、教育相談員５名を配置している。また、小中学校で緊急事態が発生した時に臨床心理士を派遣した。

（３）臨床心理士派遣事業の充実

各校に週１回スクールカウンセラー＊４を派遣するとともに、中１ギャップ解消のため、臨床心理士による中学１年生全員を対象にしたカウンセリングを４月から６月までの間に実施した。

（４）教育相談室等関係者会議の充実

児童・生徒の情報交換の徹底を図るため定期連絡会議を月に１～２回開催した。また、この会議にＳＳＷ（スクールソーシャルワーカー）＊５も参加し、情報の共有を図った。

（５）教育相談員・教員等研修会の実施

東京都教育相談センターと連携した教育相談員及び教育相談担当教員の研修を実施した。

（６）関係機関との連携強化

立川児童相談所、子ども家庭支援センター等福祉関係部署との連携を強化した。

※4 スクールカウンセラー（SC）とは、教育機関において心理相談業務に従事する心理職 専門家の職業

※5 S S W（スクールソーシャルワーカー）とは、子どもたちが日々の生活の中で出会う
いろいろな困難を、子どもの側に立って解決するための専門職員

【主な課題】

- （１）教育相談室に臨床心理士が１名のため同時にカウンセリングができない。
- （２）教育相談員の専門性を高めていく。
- （３）発達検査を行う際の機材が老朽化している。

【今後の取組の方向性】

- （１）情報を共有することができるよう臨床心理士の配置等、教育相談室の体制を充実させる。
- （２）教育相談員の資質向上を図るため、教育相談に関する研修を実施する。
- （３）中学１年生へのカウンセリングについて、継続する案件等の視点を明確にして継続実施する。
- （４）発達検査機材の充実を図る。

【「学校が行うこと」についての学校自己評価結果】

	S	A	B	C	N
① スクールカウンセラーの効果的活用	3	15	3	0	0
② 学校不適応児童・生徒の個票、個別指導計画の作成と活用	2	11	6	0	2
③ 学校不適応児童・生徒やその保護者との定期的な面談の実施	3	15	2	0	1
④ 問題行動を起こす児童・生徒に対する毅然とした指導	4	15	2	0	0
⑤ 生活指導部会等における定期的な情報交換	8	12	1	0	0
⑥ 教育相談室、適応指導教室等との連携	1	15	5	0	0

主要施策（３） 地域ネットワークの構築

児童・生徒の健全育成を図るためには、学校と関係機関等が情報を共有し、緊密な連携のもとに、具体的な行動につなげることが必要である。

学校と関係機関等が協議し、それぞれができる具体的な対応を進め、児童・生徒とのかかわりを深めることで、児童・生徒の望ましい成長が期待できる。こうした行動連携を図るため、関係機関との地域ネットワークを構築する。

【施策の取組状況】

- (1) 青少年とともにあゆむ地区委員会、民生児童委員、保護司、警察、児童相談所等との連携
 - ① 四者協（民生児童委員、児童相談所、学校、子ども家庭支援センター）への参加、各校におけるケース会議への参加を推進した。
 - ② 青少年問題協議会の運営により、関係団体との連携を図った。
 - ③ 地域の青少年育成団体や地区委員会関係団体との連携・協力を図った。
 - ④ 要保護児童対策地域協議会の運営において、ケースの情報共有のほか、開催ごとに関係機関から事例を挙げてもらい事例研究を実施した。
 - ⑤ 要保護児童対策地域協議会実務者会議委員にスクールソーシャルワーカーを加え、連携の強化を図った。
- (2) 学校サポートチームの編成への支援
各校の学校サポートチームを活用し、児童・生徒の問題行動等への対応の方向性を確認した。
- (3) 健全育成指導員、生活指導支援員等の派遣
中学校を中心に健全育成アドバイザー１名を定期的に派遣するとともに、４名の生活指導支援員を月曜日から金曜日まで派遣し、学習規律の徹底に支援した。
- (4) 生活指導主任会の機能強化
主任会において関係機関との綿密な情報交換、事例検討会を実施し、指導方法の共通化を図った。
- (5) 「学校と家庭の連携推進事業」の実施
学校と家庭の連携支援員を中学校全校、小学校７校に派遣し、不登校の状況にある児童・生徒の家庭まで迎えに行き、登校後の教室への復帰及び別室での支援等を行った。

【主な課題】

- (1) 自治会の加入率が低迷する中、地区委員会への意識も地区ごとに温度差があり、その設置趣旨や必要性を再度周知・徹底する必要がある。
- (2) 要保護児童対策地域協議会の会議において、各機関の役割を相互理解する必要がある。
- (3) 学校サポートチームの充実を図るために、地域の教育機関等の活用等メンバ

一編成を工夫する必要がある。

- (4) 小中学校の不登校児童生徒数が減少せず、学年が上がるにつれてその数が増加する。

〈児童・生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題（不登校）に関する調査〉

小学校	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
都出現率	0.33%	0.33%	0.34%	0.36%	—
市出現率	0.39%	0.38%	0.36%	0.40%	0.42%
不登校児童数	23	22	21	23	24

中学校	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
都出現率	3.15%	3.09%	3.07%	2.93%	—
市出現率	4.66%	3.69%	3.69%	3.55%	3.50%
不登校生徒数	122	97	94	93	91

【今後の取組の方向性】

- (1) 青少年健全育成活動基本方針の中で学校、家庭、地域の重点活動項目が定められており、関係機関への更なる周知・啓発活動に努める。
- (2) 不登校、いじめなどの問題解決に資するため、「学校と家庭の連携推進事業」を全校で実施する。
- (3) 保護司会、人権擁護委員会及び民生児童委員などの社会資源*6との連携を図る。

*6 社会資源とは、人々の生活の諸要求や問題解決の目的に使われる各種の施設、制度、機関、知識や技術などの物的、人的資源の総称。

【「学校が行うこと」についての学校自己評価結果】

	S	A	B	C	N
① 校内における生活指導全体計画の作成と活用	2	19	0	0	0
② 学校における地域支援ネットワークの構築と活用	1	14	6	0	0
③ サポートチーム、ケース会議等、校内体制の整備と充実	2	19	0	0	0

プラン3 健やかな体の育成

主要施策（１） 体育、保健体育の授業の充実と体力向上

学校における体育・健康に関する指導は、児童・生徒の発達段階に応じて、体育、保健体育の授業はもとより、家庭科、特別活動などにおいても、適切に行うことが重要である。

さらに、家庭や地域と連携し、児童・生徒が日常生活において適切な体育・健康に関する活動を実践するよう促すなど、体力向上と健康の保持増進のための実践力を育成する。

【施策の取組状況】

（１）体育、保健体育の授業の工夫・改善への支援

東小、富士見丘小、光華小、田中小、拝島第一小、拝島第三小、昭和中の7校がスポーツ教育推進校の指定を受け、拝島第一小では年間を通じて体育講師による授業を行ったほか、特別講師として拝島第一小及び昭和中においてトップアスリートを招へいした。また、体育用具を揃える等体育活動の充実を図った。

（２）体力向上プログラムの作成

体力向上のために、市内のすべての小中学校でなわとびやマラソンなど学校で日常的に取り組む「一校一取組」、小学校の「一学級一実践」を実施した。

(3) 全国体力・運動能力・運動習慣等調査の実施

同調査を全校で実施した結果、都の平均を上回る種目が多く、国の平均を上回るものもあった。なお、校庭の全面芝生化を行った武蔵野小では、運動能力の低い児童の体力向上の傾向が見られた。

〈東京都児童・生徒体力運動能力、生活・運動習慣等調査〉 () は、東京都平均

小学校		握力 Kg	上体起こし 回	長座体前屈 cm	反復横とび 点	シャトルラン 回	50M走 秒	立ち幅跳び cm	ボール投げ m	持久走 秒
1	男	9.7(9.2)	11.1(10.9)	25.3(25.7)	26.1(26.1)	13.6(15.8)	11.6(11.5)	108.3(111.3)	7.9(7.8)	
	女	9.3(8.5)	11.2(10.4)	28.3(28.1)	24.8(25.0)	11.5(13.1)	11.9(11.8)	102.4(103.9)	5.5(5.3)	
2	男	12.1(11.0)	13.1(13.6)	28.1(27.3)	29.2(29.9)	23.5(25.7)	10.6(10.5)	123.7(122.8)	11.8(11.4)	
	女	11.2(10.3)	13.0(13.0)	30.8(30.4)	28.6(28.6)	18.9(19.5)	10.8(10.9)	116.3(114.6)	7.4(7.1)	
3	男	13.5(12.9)	16.3(15.7)	30.4(29.5)	33.5(33.4)	35.6(34.2)	10.0(10.0)	135.1(133.2)	15.7(15.2)	
	女	12.6(12.1)	15.2(14.9)	32.9(32.8)	31.7(31.5)	24.7(24.6)	10.4(10.3)	124.4(124.8)	10.2(9.1)	
4	男	15.5(14.9)	17.2(17.9)	30.7(31.2)	35.8(37.5)	42.0(42.1)	9.5(9.6)	141.3(143.1)	18.8(19.1)	
	女	14.7(14.0)	16.0(16.7)	34.0(35.0)	34.5(35.4)	30.3(30.6)	9.9(9.9)	132.1(134.5)	12.0(11.1)	
5	男	18.3(17.0)	19.9(19.6)	33.5(33.3)	41.0(41.1)	49.6(49.2)	9.2(9.3)	153.5(151.8)	23.1(22.8)	
	女	17.4(16.4)	17.1(18.2)	36.7(37.8)	38.4(38.7)	35.6(36.6)	9.5(9.5)	143.0(143.9)	13.7(13.1)	
6	男	20.5(19.8)	21.5(21.6)	35.8(35.5)	44.3(44.4)	54.9(56.8)	8.9(8.9)	162.6(162.2)	26.9(26.8)	
	女	20.2(19.4)	18.7(19.5)	38.7(40.4)	40.8(41.3)	41.1(42.0)	9.1(9.2)	151.2(152.4)	16.8(14.9)	
中学校		握力 Kg	上体起こし 回	長座体前屈 cm	反復横とび 点	シャトルラン 回	50M走 秒	立ち幅跳び cm	ボール投げ m	持久走 秒
1	男	23.3(23.3)	22.9(23.6)	36.1(37.2)	46.4(47.6)	62.9(65.7)	8.6(8.6)	170.6(174.9)	17.9(17.7)	427.3(430.0)
	女	22.0(21.4)	20.1(20.1)	41.3(41.8)	43.0(43.5)	40.3(45.9)	9.2(9.2)	157.8(158.9)	12.3(11.0)	326.4(309.0)
2	男	30.1(28.9)	26.3(26.7)	42.5(41.2)	51.4(50.0)	80.0(81.1)	8.0(8.1)	189.7(191.3)	20.7(20.4)	385.5(394.0)
	女	24.7(23.5)	21.1(22.3)	43.0(43.8)	44.7(44.5)	47.0(53.9)	8.8(8.9)	159.1(163.4)	13.5(12.3)	310.4(294.5)
3	男	34.9(34.2)	29.0(28.8)	44.2(44.8)	53.5(52.8)	81.1(88.2)	7.5(7.6)	205.0(206.2)	23.1(23.0)	373.0(379.3)
	女	26.0(24.8)	23.0(23.1)	45.0(45.4)	45.5(45.1)	48.0(54.0)	8.8(8.8)	164.4(165.8)	14.1(13.2)	316.7(297.0)

(4) 武道必修化に伴う条件等の整備

中学校の武道必修化に伴い、柔道を3校、剣道を2校、相撲を1校で実施し、拝島中学校では特別教室を改修し、柔道場を設置した。

(5) 校庭芝生化事業

光華小(470㎡)、中神小(254㎡)、共成小(299㎡)、富士見丘小(250㎡)、拝島第三小(250㎡)において新規の芝生化工事を実施し、田中小では、拡張追加工事(250㎡)を実施した。これまでの実施校と合わせ、小学校9校で9,389㎡の校庭芝生化を実施した。

【主な課題】

(1) 各学校が体力向上等に取り組んでいるが、学校ごとの差があり、運動能力の低い学校では、児童・生徒が主体的に運動することが日常化・組織化

されていない。

- (2) 芝生化を行った校庭の利用状況によって、芝の消耗が激しく芝の一部が枯れてしまい、しばらく芝の上の活動を休止した学校があった。
- (3) 芝生の維持管理に費用がかかる。

【今後の取組の方向性】

- (1) 体力向上推進委員会を設置し、体力向上プログラムの各校の取組事例を報告させ、プログラムの浸透を図る。
- (2) 武道実技研修において柔道及び剣道の指導者から安全管理についての実技指導を行う。
- (3) 芝生の維持管理費を抑えるため、芝生管理業者の管理ノウハウを地域、学校、保護者等に引き継いでいく。

【「学校が行うこと」についての学校自己評価結果】

	S	A	B	C	N
① 体育、保健体育の授業改善推進プランの作成と活用	0	18	3	0	0
② 体力向上プログラムの活用	0	14	7	0	0
③ 全国体力・運動能力・運動習慣等調査の活用による授業改善	0	18	3	0	0
④ 「昭島ウォーキングプロジェクト」への参加	0	0	5	1	15

プラン3 健やかな体の育成

主要施策（２） 中学校部活動等の振興

中学校の部活動は、学習意欲の向上や責任感、連帯感の涵養等に資するものであり、学校教育の一環として位置づけられている。

とりわけ、生徒の体力向上にとって運動部活動の果たす役割は大きく、体力向上を目指した中学校運動部活動の振興を図る。

【施策の取組状況】

（１）部活動支援者の派遣、充実

中学校に部活動指導補助員を各中学校へ継続派遣した。（年間派遣回数延1,740回）

（２）地域スポーツとの連携の推進

サッカーや野球、武道などの種目において、外部指導員として地域の連盟等を活用し、部活動の活性化を支援するのみならず、小学校のクラブ活動においても支援を行った。

（３）課外活動の振興

部活動を含めた課外活動に対して、試合参加費や登録費、消耗品、備品等を支出した。また、関東大会以上の試合に８人が出場し、交通費、宿泊費等を支出した。

【主な課題】

（１）部活動について、時間をかけて担当することができる顧問が不足している。

（２）それぞれの部活動を指導できる外部指導員が安定的に確保することができない。

【今後の取組の方向性】

（１）部活動を指導することができる教員の配置を東京都教育委員会へ引き続き要望する。

（２）東京都人材バンク事業や市の登録人材リストを活用し、外部指導員の安定確保に努め、生徒への継続した指導を充実させる。

（３）部活動を通して小学校と中学校の連携について検討する。

【「学校が行うこと」についての学校自己評価結果】

	S	A	B	C	N
① 部活動推進計画の作成と活用(中学校)	0	6	0	0	0
② 部活動支援者活用方法の検討(中学校)	1	4	1	0	0
③ 地域スポーツとの連携強化(中学校)	0	3	1	0	2

主要施策（３） 食育の推進

偏った栄養摂取などによる肥満傾向の増加など、食に起因する健康課題への適切な対応が求められている。

児童・生徒が食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身につけ、生涯にわたって健康な体をはぐくんでいくための基礎が培われるよう、食育を推進する。

【施策の取組状況】

（１）食育推進計画の作成

「家庭に届く食育」を目標とする学校給食食育推進計画の策定に向け、実効性や有効性について検討を行った。

（２）食育推進委員会の設置

現行の食育リーダー会議の位置付けや役割を発展的に捉え、食育推進委員会へ移行するための検討を行った。

（３）栄養教諭の配置の要請等

東京都教育委員会に対し、栄養教諭を小学校にも配置するよう要請した。平成22年度に配置された栄養教諭を学校教育研究会家庭科部会に参加させ、研究授業を実施した。

（４）学校給食栄養士との連携による食育の推進

各学校における食に関する指導では、関連教科等で学校給食栄養士と連携した指導が実践され、その成果が食育シンポジウムで報告された。

（５）お弁当の日の実施

子どもと家庭が一体となって、食の大切さやありがたさを考える機会となるよう、昨年度に引き続き小中学校全校において「お弁当の日」を年３回実施した。

【主な課題】

（１）学校給食食育推進計画の作成が遅れているため、平成25年度中の策定を目指し取り組む必要がある。

（２）食育を更に推進するため、小学校に栄養教諭を配置する必要がある。

（３）共同調理場校及び単独調理場校において児童・生徒に対する栄養士の関わりに差がある。

【今後の取組の方向性】

（１）「東京都食育推進計画」及び「健康あきしま21」との整合性を図りつつ、小中学生へ向けた学校給食食育推進計画を作成する。

（２）栄養教諭の増員配置について東京都教育委員会へ要望する。

（３）食物アレルギーを持った児童・生徒に対し、学校生活管理指導表（アレルギー疾患用）を活用し、それぞれの児童・生徒に合った安全な対応を行う。

(4) 全教員を対象にしたアレルギー対応研修会を実施する。

【「学校が行うこと」についての学校自己評価結果】

	S	A	B	C	N
① 教育課程に位置づけ、食育を推進	3	17	1	0	0
② 食育指導計画の作成と活用	2	17	2	0	0
③ 栄養教諭、学校給食栄養士との連携による食育授業の実施	5	12	2	0	2

主要施策（１） 環境教育の推進

地球温暖化をはじめとする環境問題は全世界で取り組むべき喫緊の課題となっている。

児童・生徒が環境問題に強い関心を持ち、主体的に環境を良くしていこうとする態度を身につけることができるよう、環境教育の推進を図る。

【施策の取組状況】

（１）環境教育推進計画の作成

総合的な学習の時間において環境教育推進計画を作成し、実施した。特に、拝島第二小において環境をテーマに研究を進め、環境教育の年間計画を作成した。

（２）みんなで実行ＩＳＯの継続実施と充実

学校での節電、節水、ゴミ減量に取り組む「みんなで実行ＩＳＯ」を各校で実施し、環境問題への意識啓発と実践力の育成を図った。

（３）キッズＩＳＯへの参加促進

環境課と連携し、家庭における節電、節水、ゴミ減量に取り組む「キッズＩＳＯ」への参加を呼びかけ、小学校４校（中神小、光華小、成隣小、拝島第四小）が参加した。

（４）ＣＯ₂削減への取組の参加促進

東京都アクション月間（６月）への取組みを全校で推進し、学校及び家庭での節電への具体的行動を働きかけた。

【主な課題】

（１）児童・生徒が主体的に環境に配慮した取組を行うことができていない。

（２）「みんなで実行ＩＳＯ」への取組みが慢性化している。

【今後の取組の方向性】

（１）家庭や学校における節電の更なる意識啓発を図り、実践を支援する。

（２）「みんなで実行ＩＳＯ」への取組結果を家庭と連携するような取り組みで実生活に反映できるよう工夫する。

（３）小中学校において太陽光発電設備の設置や壁面緑化など環境に配慮した取組を行う。

【「学校が行うこと」についての学校自己評価結果】

	S	A	B	C	N
① 教育課程に位置づけ環境教育を推進	2	18	1	0	0
② 環境教育指導計画の作成と活用	2	15	4	0	0
③ みんなで実行 ISO の徹底	1	17	1	0	2
④ キッズ ISO への参加者拡大	0	9	4	0	8
⑤ CO2 削減への取組の参加者拡大	2	14	5	0	0

主要施策（２） 国際理解教育の推進

国際化が進展するなかで、児童・生徒が広い視野を持ち、異文化を理解し、世界の人々と協調して生きていく態度を身につけることを目指して、国際理解教育を推進する。

また、国際社会において、相手の立場を尊重しつつ、自分の考えや意思を表現できる基礎的な力を育てるため、小・中学校、それぞれの段階において、外国語によるコミュニケーション能力の育成を図る。

【施策の取組状況】

（１）小学校外国語活動カリキュラムの開発

小学校教育研究会と連携を図り、文部科学省資料「Hi, Friends」に基づいた小学校外国語活動の指導計画事例を提供した。

（２）ALT*8派遣事業の充実

中学校のALTを公募で募集するなど質の高いALTの確保に努め、1クラス当たり35時間配置するとともに、小学校へは小学校外国語活動補助員を1クラス当たり25時間の配置を実施した。

（３）伝統文化理解教育の推進

地域の祭と連携した学習を行うとともに能楽師等による能・狂言のワークショップを小学校5年生を対象に共成小、成隣小、拝島第一小において実施した。

（４）教員研修の充実

夏季休業期間に小学校教員を対象とした小学校外国語活動研修を実施し、15名が受講した。

（５）異文化交流事業の推進

アメリカ人学生との2泊3日の宿泊事業である英語チャレンジ体験事業を国分寺市と共同で実施し、小学校6年生46名が参加した。

中学生海外交流事業として西オーストラリア州パース市にあるパース・モダン・スクールと交流事業を開始し、中学生20名が同校を訪問し、学校生活、ホームステイ等を通して、交流を図った。また、10月には、同校の12名の生徒を拝島中学校で受け入れた。

（６）中学生による英語スピーチコンテストの実施

中学生による自らの主張を英語により行い、16名が参加した。

*8 ALT（Assistant Language Teacher）とは、日本の学校における外国語授業の補助を行う助手

【主な課題】

- （１）小学校教員が外国語活動指導を行う上で、初めて外国語活動を指導する教員と指導したことのある教員間の指導技術に差がある。

- (2) 英語チャレンジ体験事業及び中学生交流事業の参加を希望しても、応募者が多数のために参加することができない児童又は生徒がいる。
- (3) 英語スピーチコンテストにおいて、中学生の学習段階で英語による主張を行うことは困難である。
- (4) 海外交流事業の留学生受入家庭（ホストファミリー）の確保が難しい。

【今後の取組の方向性】

- (1) 文部科学省資料「Hi, Friends」に基づいた教員の指導力に合った外国語活動研修を充実する必要がある。
- (2) シェントン・カレッジ及びパース・モダン・スクールの生徒と年間を通して交流ができるよう工夫する。
- (3) 英語スピーチコンテストに参加しやすくするために英語教科書等の既存の文章を読む発音部門を設ける。
- (4) 海外交流事業の留学生受入家庭について、受入中学校1校（ホスト校）からの募集で集まらなかった場合は、他校から募集できるように交流校の理解を得ていく。

【「学校が行うこと」についての学校自己評価結果】

	S	A	B	C	N
① 小学校外国語活動年間指導計画の作成と活用(小学校)	2	13	0	0	0
② 指導法・教材研究の推進	0	16	5	0	0
③ 伝統文化理解教育の推進	2	13	5	1	0
④ 校内研修の推進及び教員研修への参加	0	9	10	0	2

主要施策（３） キャリア教育の推進

児童・生徒の望ましい勤労観・職業観を育て、将来の進路目標につなげるキャリア教育が重要視されている。

職場訪問や職場体験などの体験活動は、児童・生徒の勤労観・職業観をはぐくむ上で大きな期待が寄せられており、小学校段階から発達段階に応じて推進する必要がある。

自立した社会人・職業人として生きていくために必要な資質、能力の育成を目指して、キャリア教育を推進する。

【施策の取組状況】

（１）小学校におけるキャリア教育推進への支援

小学校段階からのキャリア教育を推進するため、キャリア教育の指導計画作成を支援するための資料を全学校に対し配布した。また、小学校３年生の街探検の授業及び工場見学の授業を実施した。

（２）中学生職場体験の充実

総合的な学習の時間の中で、３日間の職場体験学習を全中学校２年生が取り組み、生徒の望ましい職業観、勤労観の育成を支援した。

（３）受入事業所の確保・拡大

商工会ほか市内企業に協力してもらい、職場体験の受入事業所の確保及び拡大に努めた。

【主な課題】

（１）小学校段階からのキャリア教育の実施について検討する必要がある。

（２）職場体験学習の体験受入事業所の確保が難しい。

【今後の取組の方向性】

（１）職場体験における成功事例を各校に情報提供する。

（２）道徳の時間を中心とした児童・生徒の自己肯定感や自尊感情を高めるために、地域や保護者の参画を促し、地域に根ざしたキャリア教育を推進する。

（３）キャリア教育推進委員会を設置し、小中学校９年間を見通したキャリア教育を充実させる。

（４）受入事業所の安定確保のため、地域ネットワーク・関係団体へ、より積極的な働きかけを行うとともに、継続した受入れ先には感謝状を贈呈するなど、継続確保を目指す。

【「学校が行うこと」についての学校自己評価結果】

	S	A	B	C	N
① キャリア教育年間指導計画の作成と活用	1	17	3	0	0
② 教育活動全体をととしてのキャリア教育の推進	0	15	6	0	0
③ 受入れ事業所拡大と職場体験学習の充実	2	10	1	0	8

主要施策（４）児童・生徒の安全指導と安全対策の充実

学校は児童・生徒にとって安全で安心な場所であってはならない。不審者の侵入防止や、万一に備えた児童・生徒や教職員の防犯訓練など、校内における安全対策を講じるとともに、校外においても、児童・生徒が事件や事故に巻き込まれないよう、安全指導を充実するほか、登下校時の見守りなど、市民や企業等と連携した安全対策の充実を図る。

【施策の取組状況】

- （１） 学校安全（安全学習、安全指導）推進への支援
 - ① 学校代表者、保護者、教育委員会、昭島警察署、道路管理者による通学路における緊急合同点検を実施した。
 - ② 安全教育に関する指導資料（地震と安全など）を配布し、安全指導を月に１回以上実施した。適宜、不審者情報を各校へ提供するとともに、地域安全マップ作成への支援を行った。
 - ③ セーフティ教室を全校で実施し、児童・生徒の防犯意識、危機回避力の育成を図った。
 - ④ スタントマンによる交通安全教室を実施し、交通安全への意識啓発を行った。（昭和中・福島中）
 - ⑤ 全校で学校防災マニュアルを作成した。
- （２） 防犯ブザー等の貸与
小学校入学時に、全児童へ防犯ブザーを貸与した。
- （３） 校内防犯備品の整備
学校への不審者侵入対策として、各学校に防犯カメラ４台、モニター２台を設置している。また、さすまた、睡眠スプレー、ネットランチャーを各学校に配備している。
- （４） 市民や企業等と連携した見守り活動の推進
 - ① 昭島警察や関係企業と連携したセーフティ教室を全校で実施した。
 - ② スクールガード・リーダーによる校門での見守り活動や挨拶運動を実施した。
- （５） 学校施設の大規模改修等工事
 - ① 成隣小除湿温度保持機能復旧工事を実施した。
 - ② 田中小東側便所改修工事を実施した。
 - ③ 中神小、つつじが丘北小及び清泉中のプール改修工事並びに拝島第二小プール浄化装置改修工事を実施した。
 - ④ つつじが丘北小の通級指導学級整備工事を実施した。
 - ⑤ 清泉中給食配膳用昇降機改修工事を実施した。

【主な課題】

- （１） 合同点検で発見された危険な通学路のうち対策が取られていない通学路がある。

- (2) 他市において、児童・生徒が学校外で不審者に襲われる事件が後を絶たない。
- (3) 緊急時にメール等を利用した家庭、地域への情報発信システムの周知が徹底していない。
- (4) 校舎・体育館の構造部材の耐震補強工事は完了したが、東日本大震災で天井や窓ガラスなどの非構造部材に被害が多く見られたことより、補強が必要な施設がある。
- (5) 学校施設の老朽化が進み、大規模改修工事を行わなければならない施設が多々ある。
- (6) 各学校で作成した防災マニュアルの周知・徹底がなされていない。

【今後の取組の方向性】

- (1) 各学校にある防災マニュアルに基づき計画的な避難訓練等を実施するとともに、併せて不審者対応訓練も実施する。
- (2) 通学路における合同点検の結果に基づき、児童・生徒、保護者に周知・徹底する。
- (3) 校舎・体育館における非構造部材の補強を図る。
- (4) 学校施設の大規模改修等工事については、実施計画に基づき実施し、学校運営に支障が出ないよう施設を整備する。

【「学校が行うこと」についての学校自己評価結果】

	S	A	B	C	N
① 安全指導計画の作成と活用	3	17	1	0	0
② 防犯ブザー活用法の徹底指導	1	10	4	2	4
③ 不審者対応訓練の実施	2	14	2	1	2
④ セーフティ教室の充実	2	19	0	0	0
⑤ 保護者や地域と連携した見守り活動等の推進	3	13	3	0	2

主要施策（５）学校評価システムによる学校運営改善の推進

児童・生徒がより良い学校生活を送ることができるよう、常に学校運営を見直す必要がある。学校が自ら行う自己評価に加えて、児童・生徒や保護者、学校評議員等の関係者評価や学識経験者による第三者評価を行い、公表するなど、学校評価システムを構築し、学校運営の改善を図りつつ、教育水準の向上につとめる。

【施策の取組状況】

（１）学校評価システムの構築

各校において教員による自己評価、児童・生徒・保護者や学校評議員による関係者評価を実施し、その結果を学校便り等で公表した。

（２）第三者評価の推進

市内７校で第三者評価委員による学校訪問を行い、管理職からのヒアリング、教職員との懇談を通し、学校を支援する評価を行った。

【主な課題】

（１）学校評価の結果、その評価を受けての校長の経営方針が教員に伝わっていない面が見られた。

（２）第三者評価、学校の自己評価、学校関係者評価を各々で行っており統一方針を構築する必要がある。

【今後の取組の方向性】

（１）学校経営方針をより浸透させるためマネジメント研修会を実施し、主幹教諭や主任教諭が学校評価に積極的に参画することができるようにする。

（２）第三者評価委員の学校訪問時において、自己評価、学校関係者評価の結果を提示し、それを評価に活用する。

【「学校が行うこと」についての学校自己評価結果】

	S	A	B	C	N
① 自己評価、関係者評価の実施と充実	2	19	0	0	0
② 教育活動全般の点検、PDCA サイクルの定着、日常化	1	17	3	0	0
③ 評価報告書に基づく学校運営の改善	0	20	1	0	0

主要施策（１） 家庭・地域の教育力向上と活用

家庭は教育の原点であり、しつけを中心とする幼児期の教育の重要な場として、その教育力を高めることが必要である。

家庭の教育力の低下が指摘されている今日、家庭の自主性を尊重しつつ、子育てに関する学習機会・情報の提供や子育て相談など、関係機関と連携した取り組みをとおして、家庭の教育力の向上につとめる。

また、地域の人材や地域ボランティアの活用を図るなど、学校・家庭・地域が連携協力し、地域ぐるみの教育を推進する。

【施策の取組状況】

（１）関係部課や関係機関と連携した家庭教育事業及び子育て相談体制の充実

- ① 子どもと親の家庭教育講座を年２回実施した。
- ② 子ども家庭支援センター事業として次のことを実施した。
 - ・相談及び啓発事業の実施
 - ・育児講座の実施
 - ・子ども専用電話相談「AKI SHIMAキッズナー」の実施
 - ・子育てひろば事業の実施
(子育てひろばなしのき、市内保育園14園、幼稚園7園)
 - ・つどいのひろば事業の実施(市内3箇所)
- ③ 公民館事業として、家庭教育セミナー(子育てセミナー、教育文化セミナー)、男女共同参画セミナー等の市民講座や夏休み親子映画会を実施した。また、乳幼児の救命救急についての専門家を講師とした保育室保育者研修会を実施するなど保育室の運営の充実に努めた。

（２）幼稚園、保育園、認定子ども園を活用した家庭教育の推進

- ① 障害があるなど就学について心配や悩みがある保護者に対し就学相談を行った。
- ② 就学支援シートを活用し、保育園又は幼稚園での生活や家庭での様子を小学校に伝えることにより円滑に入学できるよう図った。

（３）地域の人材や地域ボランティアを活用した教育の推進

市民ボランティアの指導による土曜地域ふれあい事業として、囲碁教室と陶芸教室を引き続き実施した。また、学校と地域の人材の連携は、PTAと自治会が連携し、学校でキャンプ防災訓練を実施するなど各学校での取り組みが進んでいる。

（４）地元企業との連携の推進

市内企業と生涯学習との連携に至っていない。

【主な課題】

- （１）子どもと親の家庭教育講座は、PTA等の共催団体が大幅に減少してきている。

- (2) 家庭の教育力向上を視点のひとつとして子どもと親の家庭教育講座を開設しているが、関係機関との連携が少ないため広がりがみられない。
- (3) 映写機を貸し出す夏休み親子映画会事業は、地域の子どもや親が集い、繋がりを持つ場として大切であり、小学校PTAや子ども会などから毎年申請はあるが、DVDなどの普及により今後については実施方法について検討の余地がある。
- (4) 土曜地域ふれあい事業などは継続的に行われているが、新たな人材の発掘が進んでいない。
- (5) 市内企業の生涯学習に関する考え方を把握することができていない。

【今後の取組の方向性】

- (1) 子どもと親の家庭教育講座の共催団体等の募集に当たり、地区委員会等に加え、学校との連携を図り、家庭と地域の教育力の向上に努める。
- (2) 相談体制の充実を図るため、児童福祉関係及び教育関係の相談体制の周知・啓発に努める。
- (3) 家庭・地域の教育力向上を視点とした市民講座を開設するにあたり、関係機関や公民館登録団体との協働について可能性を探っていく。
- (4) 夏休み親子映画会は、地域の子どもや親が集う場を引き続き設定できるよう既存の機器補修などに努めるとともに、DVDへの移行については、団体からの意見及び財政状況を勘案しながら検討を続けていく。
- (5) 地域の人材である高齢者に対して生涯学習援助協力者として土曜地域ふれあい事業での囲碁、陶芸の指導を継続して依頼していくとともに、新たな取組みを検討していく。更に、文化財ボランティアガイドの養成を行い、その活用を図っていく。
- (6) 商工会、昭島観光まちづくり協会などの関係機関の情報の把握に努め、連携の仕組みについて更に検討していく。

主要施策（２） 市民の学習活動の振興

昭島市生涯学習推進計画を基本に、だれもが、いつでも、どこでも学ぶことのできる生涯学習社会の実現に向けて、学習機会と場の整備を図る。

また、市民の学習ニーズの把握につとめ、学習講座の充実を図る。

【施策の取組状況】

（１）生涯学習校区協議会＊９の設置促進

校区協議会未設置の地域でのＰＴＡや自治会など地域団体の活動状況に応じて、校区協議会の設置への助言等の支援をしている。

（２）生涯学習充実のための意見交流会・研究会の開催

社会教育関係団体の指導者、子ども会活動のリーダー講習会を実施した。また、子ども会関係者による意見交換を実施した。

（３）生涯学習援助者・アドバイザー・ボランティアの養成

生涯学習援助者の協力による土曜地域ふれあい事業の囲碁教室、陶芸教室の実施のほか、文化財ボランティアガイドの養成に取り組んでいる。

（４）生涯学習情報センターの設置

生涯学習の情報冊子「あきしま学びガイド」を作成し、生涯学習の機会の情報提供に努めた。更に生涯学習情報センターとしての機能強化について、検討を進めている。

（５）市民図書館蔵書の充実

- ① 教養や生活、趣味・実用、娯楽、ビジネス・自己啓発から各種専門分野に至るまで、市民の身近な課題解決の支援を第一として、入門書から専門書までバランスの良い収集を行った。
- ② 障害者用録音図書の将来に向けた安定供給及び利便性向上を図るため、録音図書のデジタル化（デージー図書）を行った。
- ③ ブックスタート＊１０に適した図書を収集した。
- ④ 市民との協働の一環として、積極的に寄贈本を受け入れ書架に１,４５６冊配架した。
- ⑤ ブックキャラバンによる持込み図書の購入を行った。

（６）公民館主催事業の充実

- ① 障害のある青年たちが健常な青年たちと共に活動する中で、社会で生きていく力を身につけることを目的とした障害のある青年の交流講座を２４年度も開設し、公民館での活動だけではなく、くじら祭りのパレードや青少年フェスティバルへの参加のほか市外で合宿も行い、交流を深めた。
- ② 多様化、高度化する市民ニーズに対応し、様々な生活課題や地域課題、社会的諸問題を市民自らが考える機会として各種市民講座を開設したが、今年度は年齢層を広げるために小学生を対象とした講座を開設した。
- ③ 市民が自発的な学習を通し、参加者相互の連帯意識を図りながら自己

実現の機会を得、その成果の公共的活用を図ることを目的とした第6期
昭島市民大学の1年次課程を実施した。

- ④ 公民館が市民の主体的な学習・文化活動を推進し支援する「自主企画事業」の一環として、今年度は3団体が自主市民講座を開設した。
- ⑤ 公民館を利用する団体の交流を図りながら、公民館運営に関する意見交換の場として利用者懇談会を実施した。
- ⑥ 公民館開館30周年記念事業として、開館当初から活動をしている公民館登録団体の活動発表や公民館開館30周年記念実行委員会の企画運営による利用者拡大交流懇談会の開催、その他記念事業を実施した。

(7) 社会教育複合施設の建設

社会教育複合施設の整備・運営にあたって、様々な検討を行った。

*9 生涯学習校区協議会とは、小学校区を単位に生涯学習を推進するための地域団体

*10 ブックスタートとは、赤ちゃんと保護者に絵本を開く楽しい体験と一緒に絵本を手渡し、心ふれあうひとときを持つきっかけをつくる活動

【主な課題】

- (1) 地域では、様々な市民団体が活動しており、新たな組織作りの人材発掘が難しくなっている。
- (2) 生涯学習充実のための登録団体の指導者や子ども会の指導者向けの講習会を毎年実施しているが、団体間の情報交換を進める必要がある。
- (3) 生涯学習援助者、アドバイザーの養成を進める必要がある。
- (4) 生涯学習の情報提供について、冊子を毎年発行することで最新の情報提供に努めるとともに、各窓口においても情報提供に努めているが統一的な窓口は設置されていない。
- (5) 市民図書館として、学校図書館を適切に支援できるような資料収集を行う必要がある。
- (6) 市民図書館でしか収集を行っていない地域資料について、適切な保存を行う必要がある。
- (7) 録音図書のデジタル化（デジタイズ）を推進するため、音訳者（ボランティア）を育成する必要がある。
- (8) 開架書架に収納することができない図書の保存場所を検討する必要がある。
- (9) 社会的な課題、地域的な課題についての講座を開設し、参加者から好評価を得ているが、申込者が少ないことが多い。
- (10) 公民館で学んだことを地域に生かすということが公民館活動の目的のひとつであり、市民大学の修了生などが、市の各審議会委員やボランティア、また、自治会との協働で高齢者居場所作りなどの活動をしているが、支援体制が整っていない。
- (11) 市民会館・公民館は、開館から30年が経過し、施設・設備の老朽化が進んでいるため、平成25年に大規模改修工事を実施する。今回の工事対象以外の設備についても、今後、改修が必要である。

- (12) 社会教育複合施設の整備及び運営方法について、効率的・効果的な手法を選択する必要がある。

【今後の取組の方向性】

- (1) 平成 25 年 3 月に策定した第 2 次生涯学習推進計画に基づき、既存の地域団体との連携などを含め校区協議会機能の促進に努める。
- (2) 社会教育関係団体や子ども会関係者など各種の団体が意見を交換することができる場の設定に努めていく。
- (3) 生涯学習支援者、アドバイザー及びボランティアの養成について、企業による社会貢献活動などを含め、関係機関との連携を検討していく。
- (4) 冊子による生涯学習の情報提供に努めるとともに、未整備となっているセンター機能の検討を進める。
- (5) 小学校教育研究会学校図書館部会に参加し、学校図書館の要望を的確に把握する。

平成 24 年度に中学校の協力を得て設置した子ども読書活動推進委員会の活動を通し、学校図書館の要望を的確に把握する。

- (6) 地域資料の保存方法について検討を行う。
- (7) 平成 21 年度から開始した録音図書のデジタル化（デイジー図書）を行う音訳者（ボランティア）を育成するための講習会を実施する。平成 25 年度は初級を予定している。また、デイジー図書を作成するための機械操作講習会を実施する。
- (8) 小学校の空き教室等を活用し、保存場所の確保に努める。
- (9) 市民の自主的な公民館活動を支え、地域での活動の場に関する情報を提供できるような支援体制について検討していく。
- (10) 公民館の活動、役割等について周知する。また、市民が求める多様な学習課題と時局の流れを把握するための情報収集や主催事業に多くの市民に参加してもらうための広報活動の時期や方法などについて検討していく。
- (11) 施設整備については、財政状況を勘案し、補助金等の活用も図りながら今後も計画的に整備を進めていく。
- (12) 社会教育複合施設建設計画基本方針・基本計画に基づいて、昭島市の知の拠点施設を目指して具体的な検討を進めていく。

主要施策（３） 市民のスポーツ活動の振興

昭島市スポーツ振興計画を基本に、市民のだれもが生涯をとおして健康で明るい生活が営めるよう、生涯スポーツ活動の推進を図る。

【施策の取組状況】

（１）昭島チャレンジデー２０１２の実施

５月３０日にチャレンジデーを実施し、参加率 78.9％ 参加者数 87,970 人で金メダルを獲得することができた。

（２）健康・スポーツの推進とスポーツへの参加機会の提供

① 健康・スポーツの推進

ア 健康・スポーツの普及・促進

市民健康づくり歩け歩け運動を行った。

イ 健康・スポーツプログラムの提供

体力・スポーツ相談を行った。

ウ 健康寿命をのばす運動・スポーツの推進

健康さわやか教室を総合スポーツセンター、みほり体育館及び商工市民センターで行った。

② スポーツへの参加機会の提供

ア 初心者等のスポーツ活動の参加機会の提供

25メートル泳げない子どもを対象とした子ども水泳教室、テニス初心者教室及びはじめてのクライミング教室等を行った。

イ 勤労者・女性のスポーツの参加促進

はじめてのクライミング教室、女性のためのエアロビクス教室及びはじめてのフラダンス教室を行った。また、女性のためのエアロビクス教室及びはじめてのフラダンス教室は、保育付の教室とした。

ウ 障害者のスポーツ参加の推進

スポーツセンター内各施設の開放及び水中ウォーキングを行った。

チャレンジデーをきっかけとして、大学講師の指導を受けたスポーツ推進委員が障害者団体に体操指導を行い。毎日体操を行う団体が誕生した。

エ ライフステージに応じたスポーツの推進

市民スポーツ・レクリエーションフェスティバル2012を体育の日に総合スポーツセンター、昭島市民球場、昭和公園陸上競技場等で開催した。

チャレンジデーをきっかけにして、継続的に運動等を行っている事業所や団体に昭島健康チャレンジ事業所認定証書を交付することとした。

（３）昭島くじらスポーツクラブ*11への支援

平成23年２月に設立された昭島くじらスポーツクラブに対し、活動場所

の確保や、広報あきしまへの紹介、会員募集記事の掲載等を通して支援した。

- (4) 地域と学校が連携した地域スポーツの推進
親子ふれあいスポーツデーの開催及び小学校プール開放事業を行った。
- (5) 競技スポーツの振興
都民体育大会及び市町村総合体育大会等の選手派遣を行った。
- (6) スポーツ施設基盤の整備
総合スポーツセンター筋力マシン・リラクゼーション機器等を借り上げ、施設の充実に努めた。
- (7) スポーツ振興を支える人材の育成・確保
スポーツ推進委員研修（ニュースポーツ研修、広域地区別研修会等）及びスポーツ指導者講習会を開催した。
- (8) スポーツ情報の収集・提供体制の整備・充実
スポーツ情報の収集に努め、ホームページ等で公表するとともに公共予約システムによる総合スポーツセンターの施設予約を行った。
- (9) スポーツによる交流の促進
第59回昭島市民体育大会、昭島市民綱引き大会及び第58回昭島市新春駅伝競走大会及び昭島市自治会ブロック対抗スポーツ大会を開催した。
- (10) スポーツ祭東京2013の開催に向けての準備及び啓発活動の実施
 - ① 「スポーツ祭東京2013昭島市実行委員会」の第2回常任委員会及び第3回総会を開催した。
 - ② 「スポーツ祭東京2013昭島市実行委員会」で決定した開催準備総合計画に基づき、4つの専門委員会では要綱等を定めた。
 - ③ スポーツ祭東京2013の開催種目である、軟式野球競技のリハーサル大会として「第67回国民体育大会関東ブロック大会」を開催した。
 - ④ 普及啓発活動の一環として、正式競技である軟式野球競技、デモンストレーションとしてのスポーツ行事であるインドアペタンの講習会を開催した。また、市内各種行事に積極的に参加し、市民への周知を図った。
 - ⑤ 円滑な開催準備を推進するため、先催市の準備状況の調査及び研究を行った。

*11 昭島くじらスポーツクラブとは、子どもから高齢者まで、幅広い世代の方を対象とした地域住民の自主的な運営を目指すスポーツクラブ

【主な課題】

- (1) チャレンジデーの開催やその趣旨が市民に周知しきれていない部分がある。
- (2) チャレンジデーをきっかけにして市民一人一人がそれぞれに応じて継続的に運動やスポーツを行っていくことを望んでいるが周知しきれていない部分がある。
- (3) 平成27年度までを計画期間とする昭島市スポーツ振興計画を引き続き推

進める必要がある。

- (4) スポーツ祭東京2013の開催を、多くの市民により一層周知するため、効果的な広報、啓発活動を積極的に行う必要がある。

【今後の取組の方向性】

- (1) 多くの市民にチャレンジデーの参加し、また継続的に運動やスポーツを行っていただけるようPR等を重ねていく。
- (2) スポーツ推進計画の策定準備を引き続き進めていく。
- (3) スポーツ祭東京2013の円滑な開催準備を推進するため、開催準備総合計画等に基づくより具体的な事業内容を各専門委員会で検討し、具現化に向けて関係機関、団体と緊密な連携のもと開催準備に取り組む。

主要施策（４） 市民の文化芸術活動の振興

昭島市文化芸術の振興に関する基本方針に基づき、市民の文化芸術活動の振興を図り、心豊かで活力ある昭島市の実現につとめる。

【施策の取組状況】

（１）市民の自主的・創造的な文化芸術活動の振興

市民が参加する団体から選出される委員による運営委員会が企画・運営する「市民文化祭」や本市の文化団体として歴史と実績を持つ文化協会による芸術祭の開催など、市民による自主的・創造的な文化芸術活動が活発に行われた。

（２）地域の歴史や伝統を生かした文化芸術の振興

指定文化財である祭り屋台の修復に補助するなど地域の文化芸能の保存とその振興に努めた。

（３）市民会館文化事業協会による多様な文化芸術の鑑賞機会の提供

市民会館文化事業協会による鑑賞事業は、１月からは工事により休館となったため、12月までに大ホール事業は共催事業を含め５事業、小ホール事業については２事業を実施した。また、５年目となる「昭島古式薪能」は、市民会館前庭に場所を移して開催した。

（４）市内文化財の保護、保存とその活用

群馬自然史博物館とアキシマクジラの化石についての情報交換を進めるほか、郷土資料室の夏の特別開室に際しボランティアガイドの説明補助など新たな活動に取り組んでいる。

【主な課題】

（１）昭島の文化芸術に関する施策は、現在、市長部局、教育委員会の各課が独自に実施している。文化芸術の振興を計画的に推進していくための各課の調整と民間団体との連携を強化する「協議機関」としての課の設置などの推進体制の確立がなされていないこともあり、文化芸術の施策の広がりが見られない。

（２）郷土資料室が老朽化し、また、狭いため、保管している文化財や出土物は、旧校舎や空き教室などに借用して保管しており、統一的な管理ができていない。また郷土史編纂に収録したマイクロフィルムの劣化が進んでいる。

【今後の取組の方向性】

（１）「昭島市文化芸術の振興に関する基本方針」に基づき、昭島の文化芸術に関する施策、振興を計画的に推進していくために、各課の調整と民間団体との連携を強化しコーディネートを行う「協議機関」としての課の設置などの推進体制について担当課と協議してきたが、実現に向け、引き続き担

当課に働きかけていく。

- (2) 市民による自主的な文化芸術活動の発表の場を提供するとともに、さらなる活動の促進のために文化芸術に関する情報の積極的な収集と提供方法について検討していく。
- (3) 地域の歴史や伝統を生かした文化芸術の振興を目的とし、文化の担い手の発掘、育成、また発表する機会の提供などを行っていくための方策を研究していく。
- (4) 現状施設での文化財の保護保存に努めるとともに、マイクロフィルムのデジタル化を進めていく。

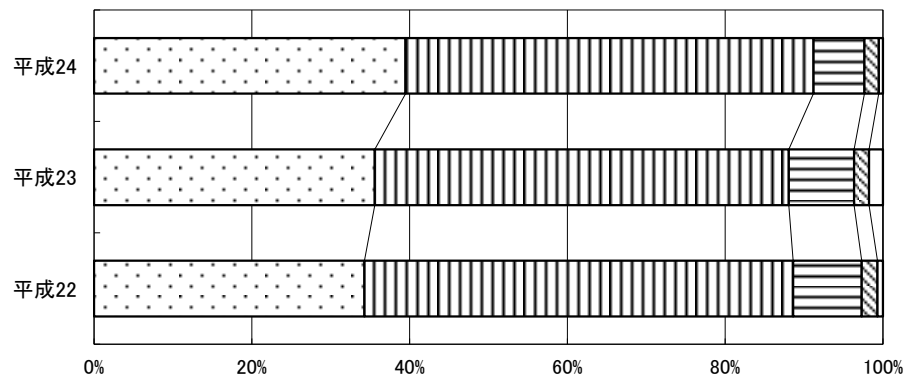
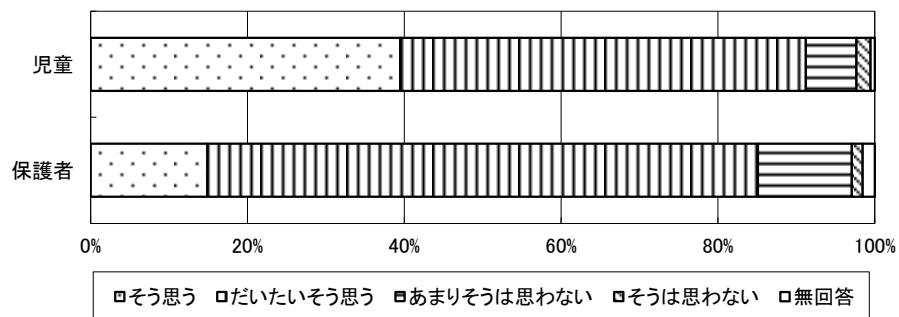
第4章 平成24年度「昭島市立学校の児童・生徒及び保護者アンケート」の調査結果

1 確かな学力①

■ 学校の授業は、わかりやすい「そう思う」「だいたいそう思う」と答えた児童は平成23年度から1.9ポイント、生徒は2.0ポイント増加した。学校の授業は、わかりやすいと答えた生徒は保護者より18.4ポイント高かった。

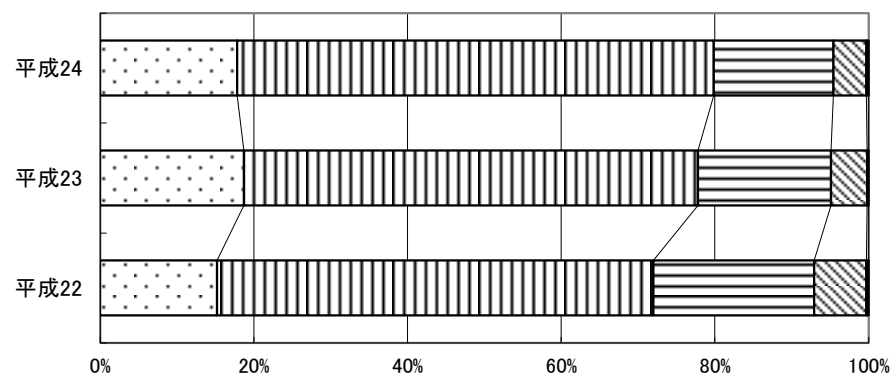
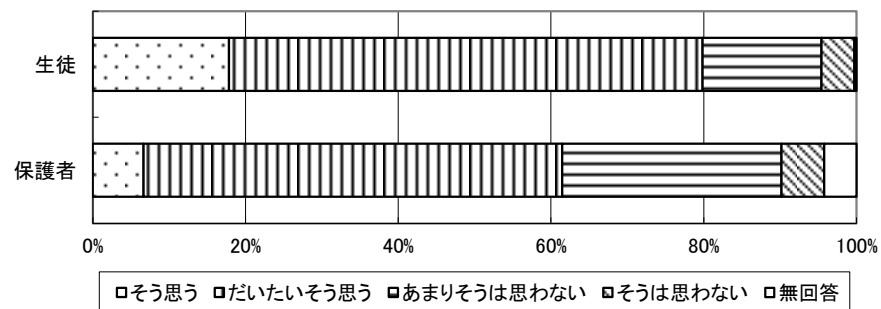
【小学校】

質問事項			選択肢				
			そう思う	だいたいそう思う	あまりそうは 思わない	そうは思わ ない	無回答
学校の授業は、わかりやすいですか。	保護者	平成24	14.9%	70.2%	12.0%	1.4%	1.6%
	児童	平成24	39.5%	51.7%	6.5%	1.8%	0.5%
		平成23	36.1%	53.2%	8.4%	1.9%	1.8%
		平成22	34.3%	54.4%	8.7%	2.0%	0.7%



【中学校】

質問事項			選択肢				
			そう思う	だいたいそう思う	あまりそうは 思わない	そうは思わ ない	無回答
学校の授業は、わかりやすいですか。	保護者	平成24	6.6%	54.8%	28.7%	5.6%	4.2%
	生徒	平成24	17.8%	62.0%	15.6%	4.3%	0.3%
		平成23	18.7%	59.1%	17.3%	4.7%	0.2%
		平成22	15.2%	56.8%	20.9%	6.8%	0.3%

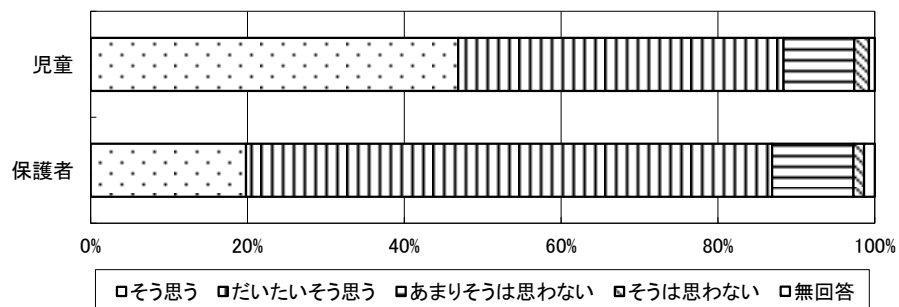


1 確かな学力②

■ 先生方は、授業を工夫している(「そう思う」「だいたいそう思う」と答えた児童は平成23年度から0.2ポイント、生徒は3.1ポイント増加した。先生方は、授業を工夫していると答えた生徒は保護者より14.5ポイント高かった。

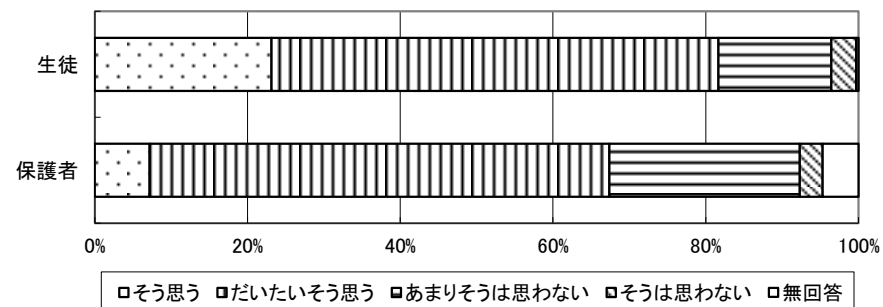
【小学校】

質問事項			選択肢				
			そう思う	だいたいそう思う	あまりそうは 思わない	そうは思わな い	無回答
先生方は、授業を工夫していますか。	保護者	平成24	19.9%	67.3%	10.4%	1.4%	1.4%
	児童	平成24	46.6%	41.2%	9.0%	1.8%	0.7%
		平成23	43.7%	44.0%	9.2%	1.6%	0.4%
		平成22	47.2%	39.8%	9.2%	2.0%	0.5%



【中学校】

質問事項			選択肢				
			そう思う	だいたいそう思う	あまりそうは 思わない	そうは思わな い	無回答
先生方は授業を工夫していますか。	保護者	平成24	7.1%	60.0%	24.8%	3.0%	4.7%
	生徒	平成24	23.1%	58.6%	14.8%	3.2%	0.3%
		平成23	22.8%	55.8%	17.6%	3.4%	0.3%
		平成22	18.3%	53.8%	21.9%	5.6%	0.3%

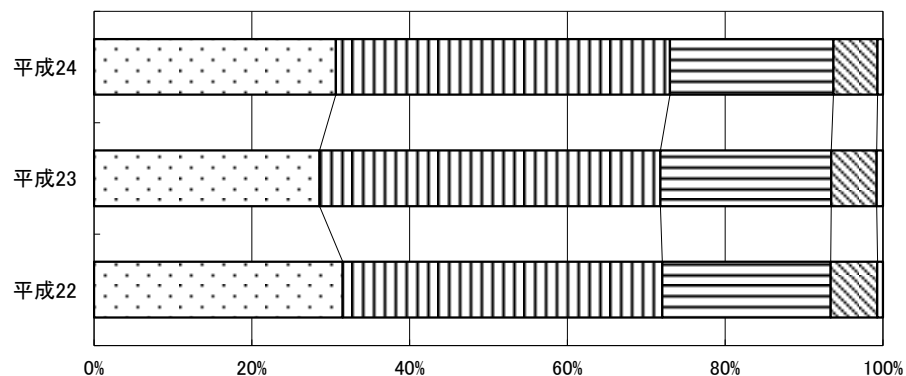
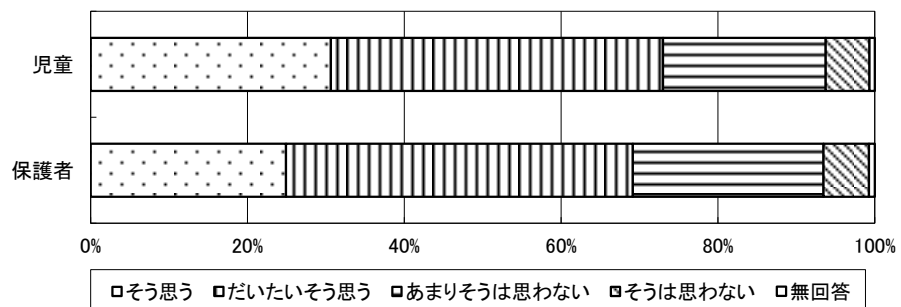


1 確かな学力③

■ 家庭学習の習慣が身に付いている(「そう思う」「だいたいそう思う」と答えた児童は平成23年度から1.5ポイント増加した。生徒は平成23年度から0.4ポイント減少したが、平成22年度より4.8ポイント高い。

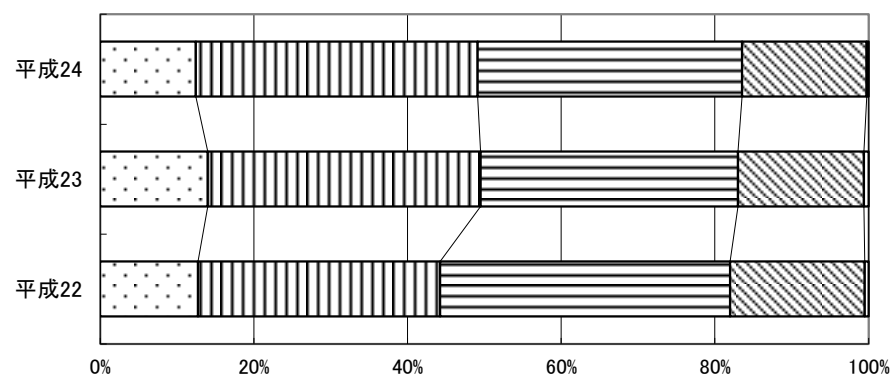
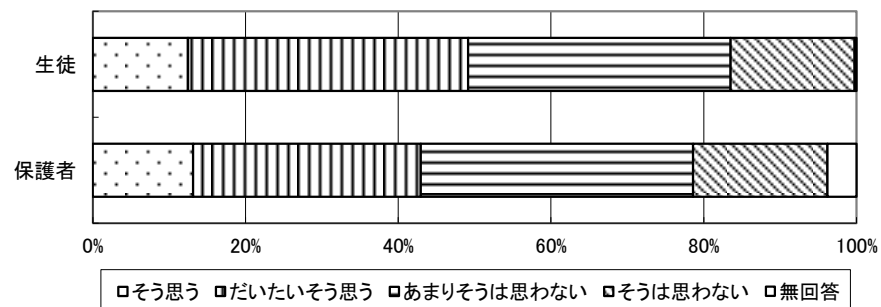
【小学校】

質問事項			選択肢				
			そう思う	だいたいそう思う	あまりそうは 思わない	そうは思わ ない	無回答
家庭学習の習慣が身に付いていると思いますか。	保護者	平成24	25.0%	44.4%	24.4%	5.8%	0.7%
	児童	平成24	30.6%	42.2%	20.6%	5.6%	0.7%
		平成23	28.4%	42.9%	21.5%	5.7%	0.8%
		平成22	31.0%	39.8%	21.0%	5.8%	0.7%



【中学校】

質問事項			選択肢				
			そう思う	だいたいそう思う	あまりそうは 思わない	そうは思わ ない	無回答
家庭学習の習慣が身に付いていると思いますか。	保護者	平成24	13.1%	29.8%	35.6%	17.6%	3.8%
	生徒	平成24	12.4%	36.6%	34.4%	16.2%	0.2%
		平成23	14.0%	35.5%	33.5%	16.4%	0.6%
		平成22	12.7%	31.5%	37.7%	17.5%	0.5%

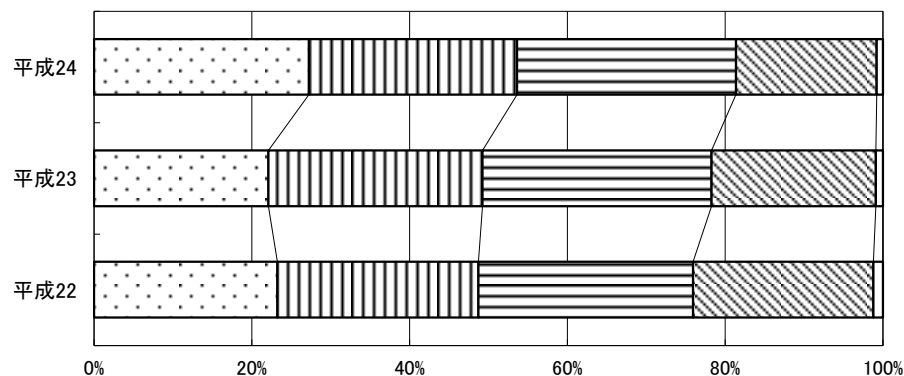
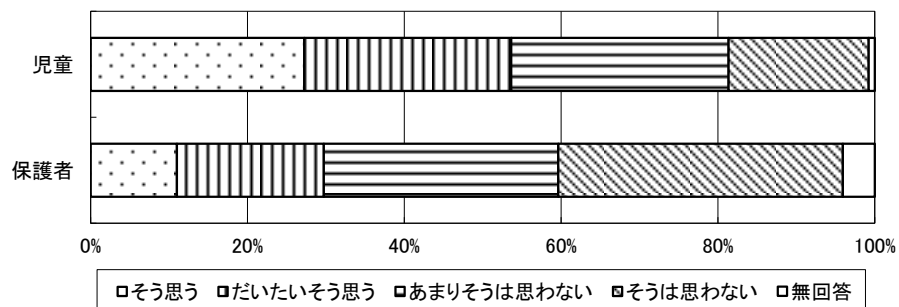


1 確かな学力④

■ 毎日読書をしている(「そう思う」「だいたいそう思う」と答えた児童は平成23年度から4.6ポイント、生徒は6.1ポイント増加した。毎日読書をしていると答えた児童は保護者より23.9ポイント、生徒は28.5ポイント高かった。

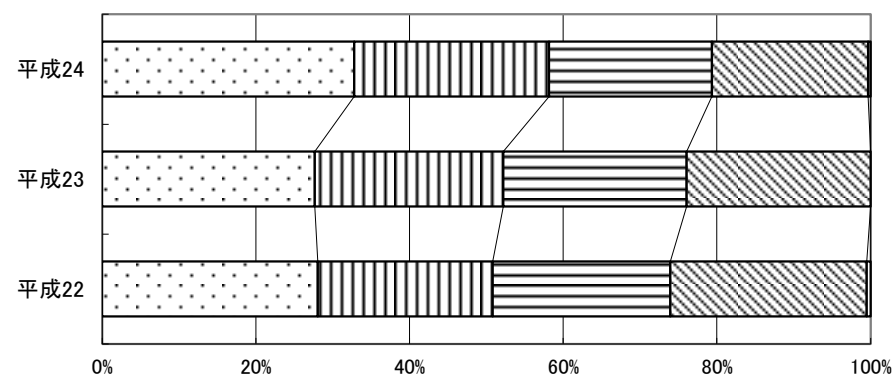
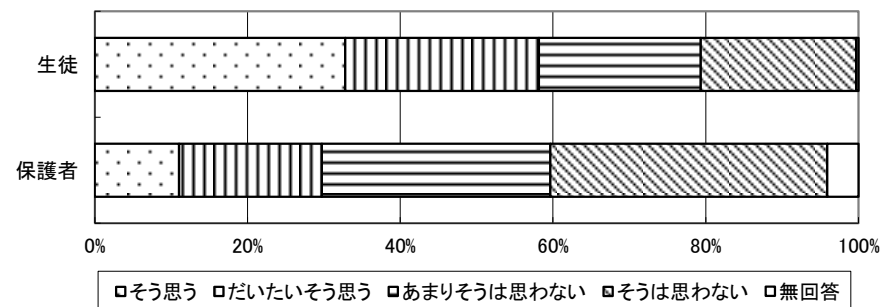
【小学校】

質問事項			選択肢				
			そう思う	だいたいそう思う	あまりそうは 思わない	そうは思わ ない	無回答
毎日読書をしている と思いますか。	保護者	平成24	11.0%	18.7%	29.9%	36.2%	4.1%
	児童	平成24	27.2%	26.4%	27.7%	17.8%	0.8%
		平成23	22.0%	27.0%	28.9%	20.7%	0.9%
		平成22	22.9%	25.1%	26.8%	22.5%	1.2%



【中学校】

質問事項			選択肢				
			そう思う	だいたいそう思う	あまりそうは 思わない	そうは思わ ない	無回答
毎日読書をしている と思いますか。	保護者	平成24	11.0%	18.7%	29.9%	36.2%	4.1%
	生徒	平成24	32.8%	25.4%	21.2%	20.4%	0.3%
		平成23	27.6%	24.5%	23.8%	23.9%	0.0%
		平成22	28.0%	22.7%	23.1%	25.5%	0.5%

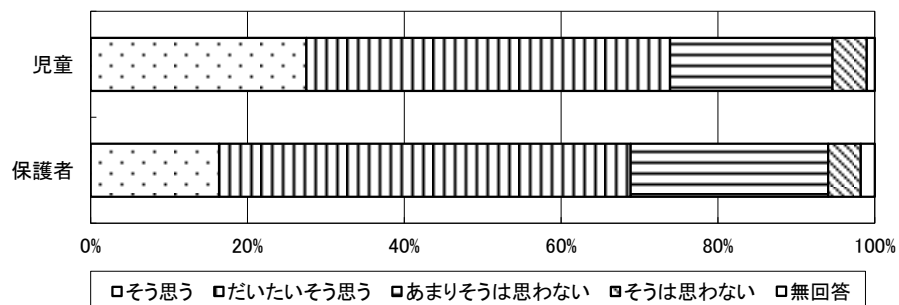


1 確かな学力⑤

■ 学校で学んだことを生活の中で生かしている(「そう思う」「だいたいそう思う」と答えた児童は平成23年度から3.6ポイント、生徒は3.5ポイント増加した。学校で学んだことを生活の中で生かしていると答えた生徒は保護者より15.0ポイント高かった。

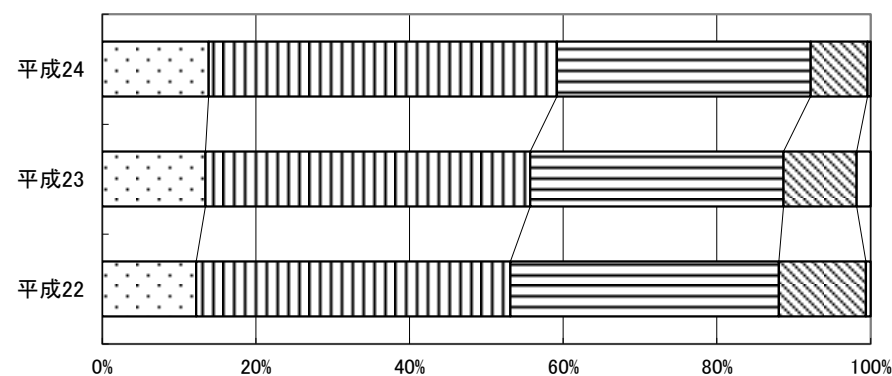
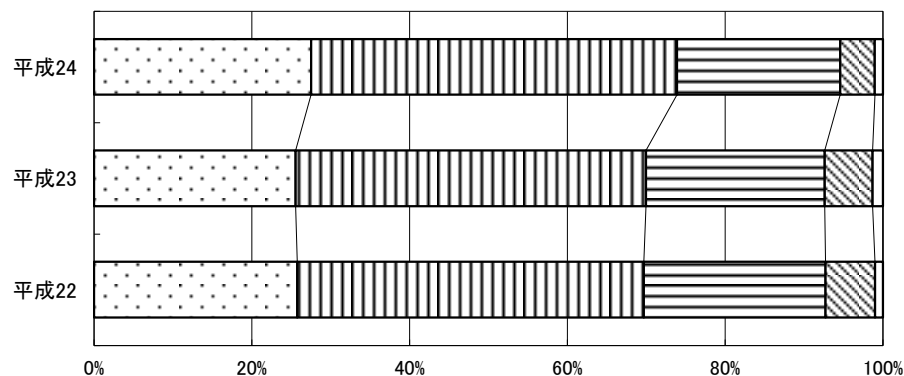
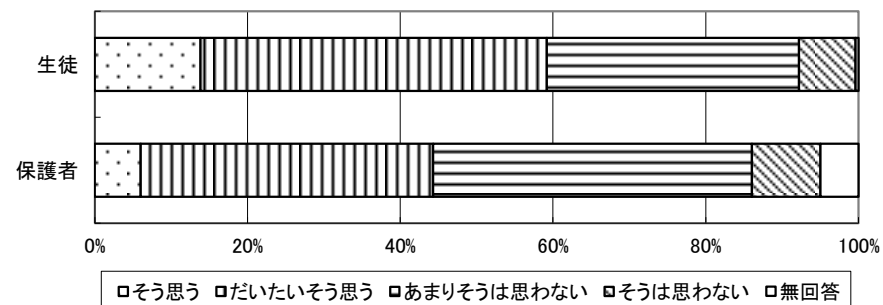
【小学校】

質問事項			選択肢				
			そう思う	だいたいそう思う	あまりそうは 思わない	そうは思わ ない	無回答
学校で学んだことを 生活の中で生かして いますか。	保護者	平成24	16.3%	52.2%	25.0%	4.1%	1.8%
	児童	平成24	27.5%	46.3%	20.6%	4.4%	1.0%
		平成23	25.6%	44.5%	22.7%	6.1%	1.3%
		平成22	25.5%	43.5%	22.8%	6.2%	1.0%



【中学校】

質問事項			選択肢				
			そう思う	だいたいそう思う	あまりそうは 思わない	そうは思わ ない	無回答
学校で学んだことを 生活で生かしていま すか。	保護者	平成24	6.0%	38.1%	41.5%	8.9%	5.0%
	生徒	平成24	13.8%	45.3%	33.0%	7.4%	0.4%
		平成23	13.4%	42.2%	32.9%	9.5%	1.8%
		平成22	12.2%	40.8%	34.9%	11.3%	0.6%

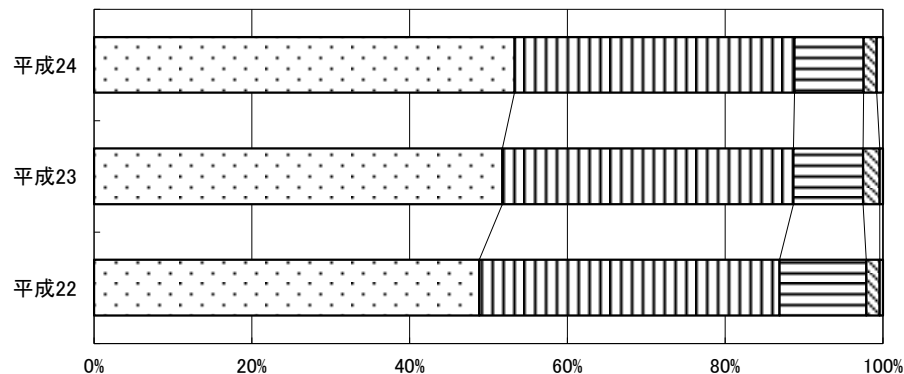
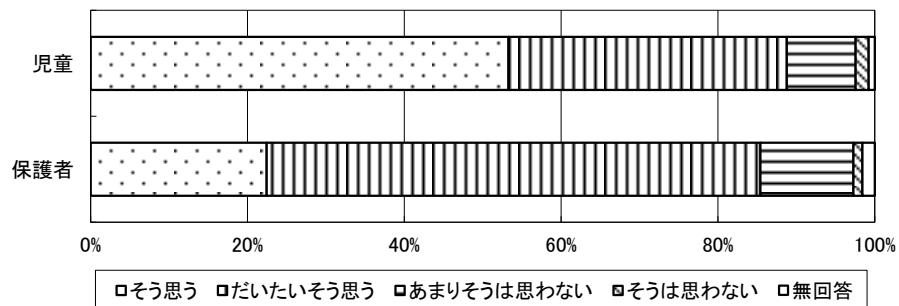


2 豊かな心①

■ 学校の授業で、自分や友だちのことを大切だと学ぶことがある(「そう思う」「だいたいそう思う」と答えた児童は平成23年度から0.8ポイント、生徒は3.5ポイント増加した。

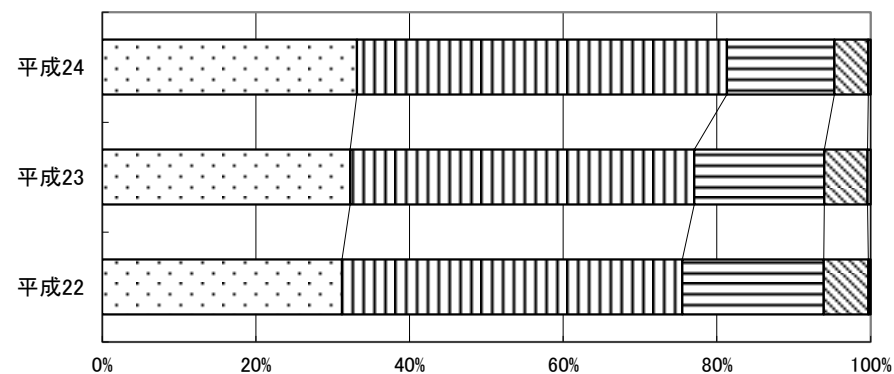
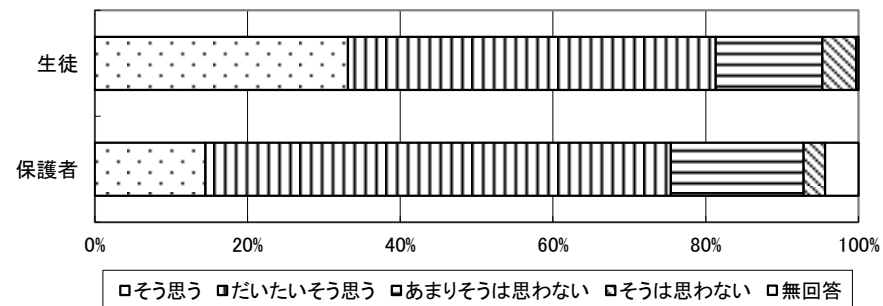
【小学校】

質問事項			選択肢				
			そう思う	だいたいそう思う	あまりそうは 思わない	そうは思わ ない	無回答
学校の授業で、自分 や友だちのことを大 切だと学ぶことがあ ると思いますか。	保護者	平成24	22.4%	62.6%	11.8%	1.1%	1.6%
	児童	平成24	53.4%	35.6%	8.8%	1.7%	0.8%
		平成23	51.5%	36.7%	8.8%	2.1%	0.4%
		平成22	48.5%	37.8%	10.9%	1.7%	0.4%



【中学校】

質問事項			選択肢				
			そう思う	だいたいそう思う	あまりそうは 思わない	そうは思わ ない	無回答
学校の授業で、自分 や友だちのことを大 切だと学ぶことがあ ると思いますか。	保護者	平成24	14.5%	60.9%	17.4%	2.8%	4.4%
	生徒	平成24	32.8%	47.6%	13.8%	4.3%	0.3%
		平成23	32.2%	44.7%	16.9%	5.6%	0.4%
		平成22	31.2%	44.3%	18.4%	5.8%	0.3%

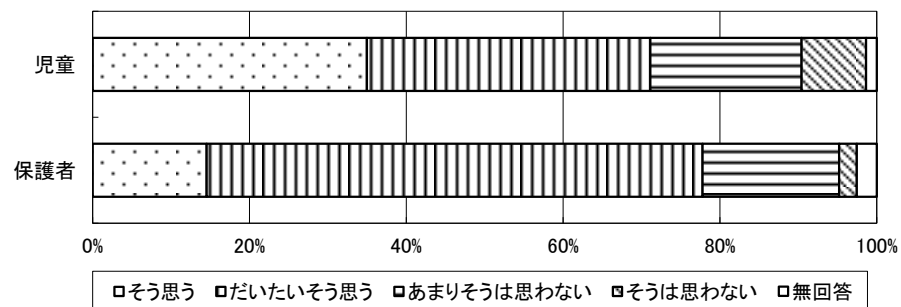


2 豊かな心②

■ 学校には、あなたの気持ちをよくわかってくれる先生がいる(「そう思う」「だいたいそう思う」と回答した児童は平成23年度から3.5ポイント、生徒は4.0ポイント増加した。あなたの気持ちをよくわかってくれる先生がいると答えた生徒は保護者より12.5ポイント低かった。

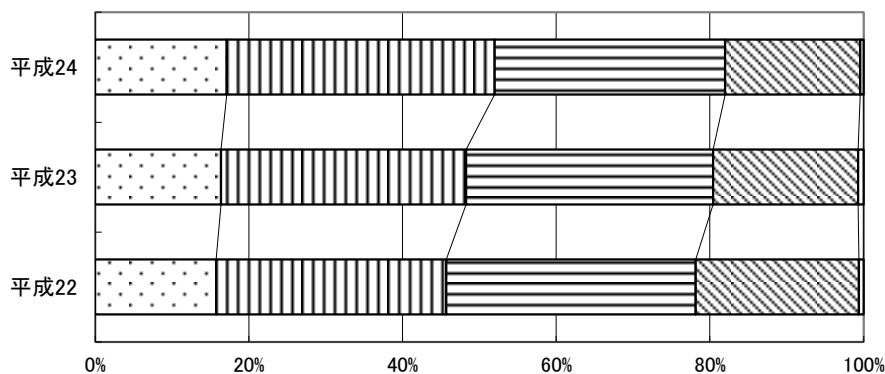
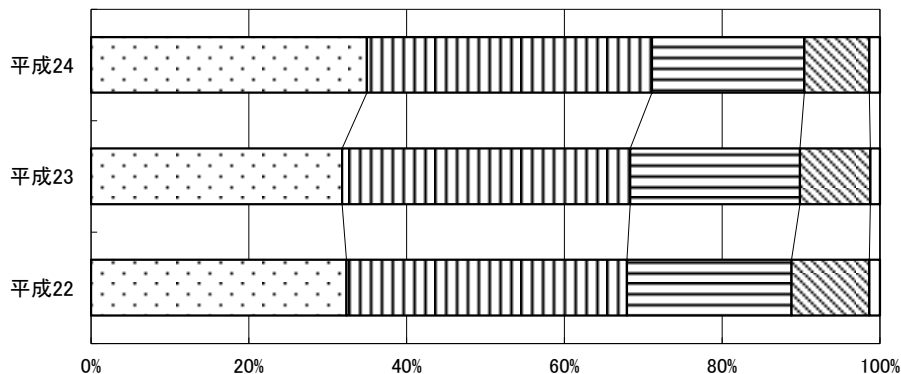
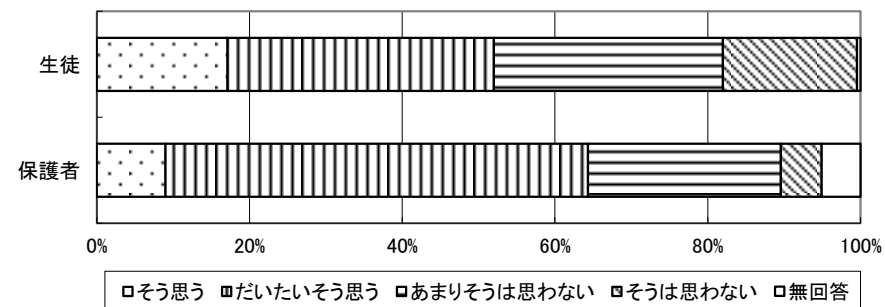
【小学校】

質問事項			選択肢				
			そう思う	だいたいそう思う	あまりそうは思わない	そうは思わない	無回答
学校には、あなたの気持ちをよくわかってくれる先生がいますか。	保護者	平成24	14.4%	62.8%	17.3%	2.2%	2.5%
	児童	平成24	34.9%	36.0%	19.3%	8.2%	1.3%
		平成23	31.4%	36.0%	21.2%	8.8%	1.2%
		平成22	31.5%	34.6%	20.3%	9.6%	1.3%



【中学校】

質問事項			選択肢				
			そう思う	だいたいそう思う	あまりそうは思わない	そうは思わない	無回答
学校には、あなたの気持ちをよくわかってくれる先生がいますか。	保護者	平成24	9.0%	55.3%	25.2%	5.4%	5.1%
	生徒	平成24	17.1%	34.7%	29.9%	17.5%	0.4%
		平成23	16.2%	31.6%	31.8%	18.7%	0.7%
		平成22	15.7%	29.9%	32.4%	21.2%	0.6%

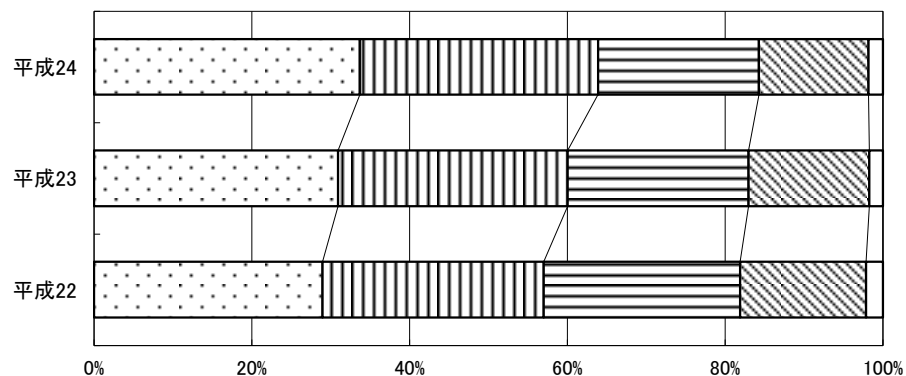
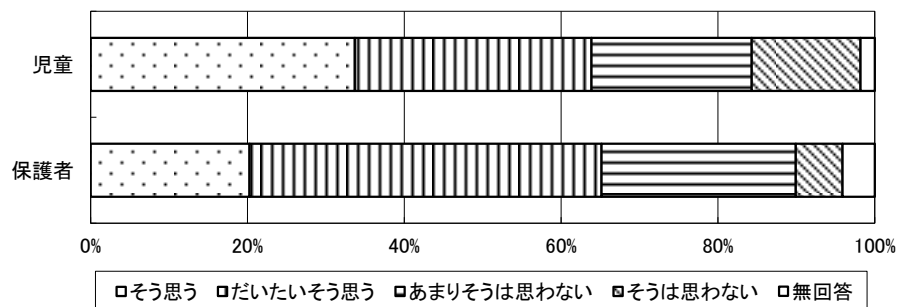


2 豊かな心③

■ 学校に相談できる先生がいる(「そう思う」「だいたいそう思う」と回答した児童は平成23年度から4.6ポイント、生徒は4.4ポイント増加した。

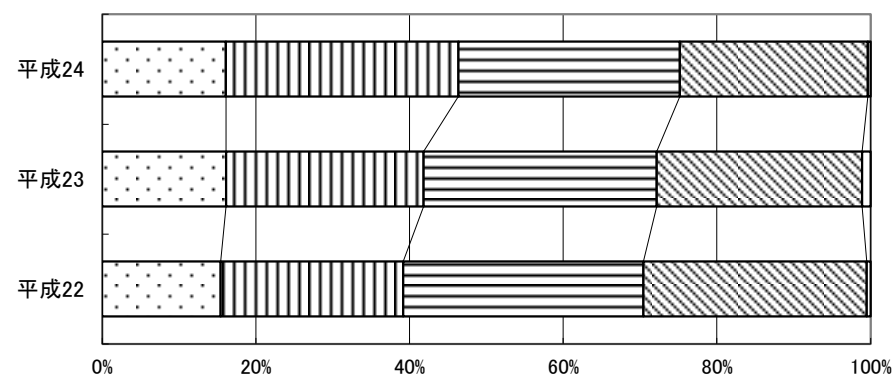
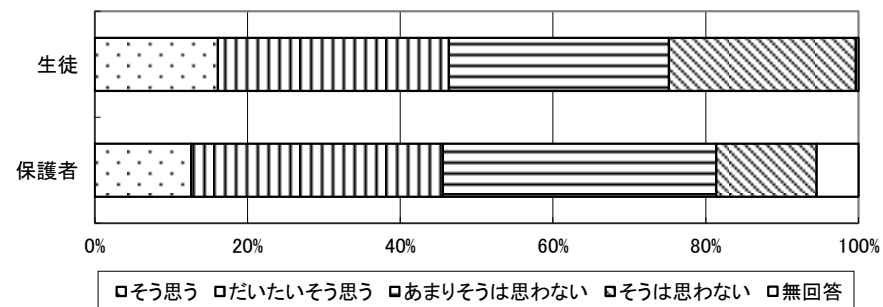
【小学校】

質問事項			選択肢				
			そう思う	だいたいそう思う	あまりそうは 思わない	そうは思わ ない	無回答
学校に相談できる先生 がいますか。	保護者	平成24	20.1%	44.5%	24.5%	5.9%	4.1%
	児童	平成24	33.7%	30.2%	20.4%	13.9%	1.8%
		平成23	30.5%	28.7%	22.6%	15.1%	1.7%
		平成22	28.3%	27.4%	24.3%	15.6%	2.1%



【中学校】

質問事項			選択肢				
			そう思う	だいたいそう思う	あまりそうは 思わない	そうは思わ ない	無回答
学校に相談できる先生 がいますか。	保護者	平成24	12.6%	32.9%	35.7%	13.1%	5.5%
	生徒	平成24	16.0%	30.1%	28.7%	24.4%	0.4%
		平成23	16.1%	25.7%	30.3%	26.7%	1.1%
		平成22	15.4%	23.7%	31.2%	29.0%	0.5%

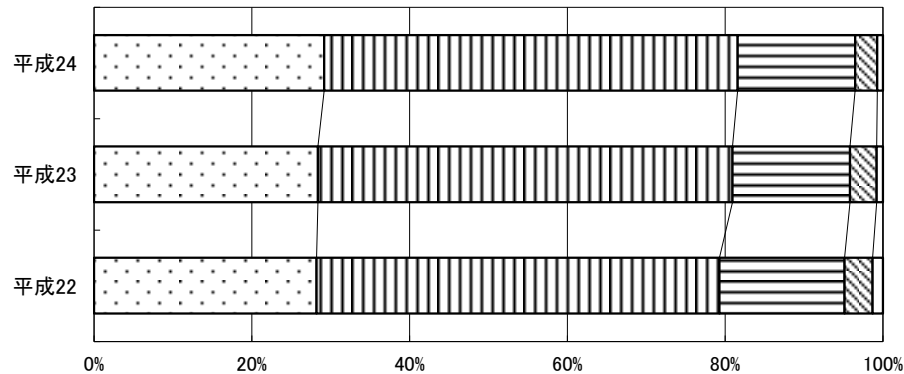
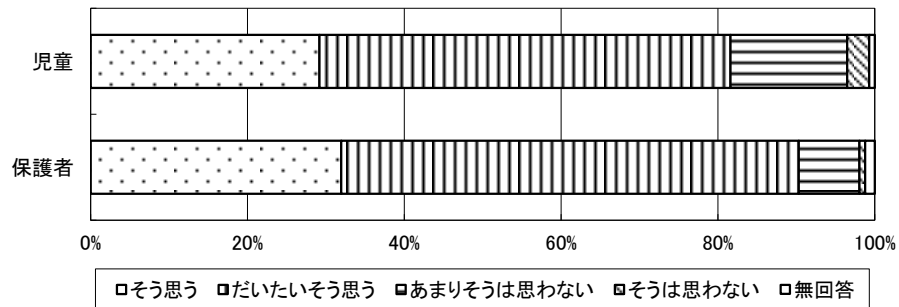


2 豊かな心④

■ 自分は、よいこと、悪いことを判断する力が身に付いている(「そう思う」「だいたいそう思う」と思うと回答した児童は平成23年度から1.5ポイント増加した。生徒は平成23年度から0.6ポイント減少したが、平成22年度より7.0ポイント高い。

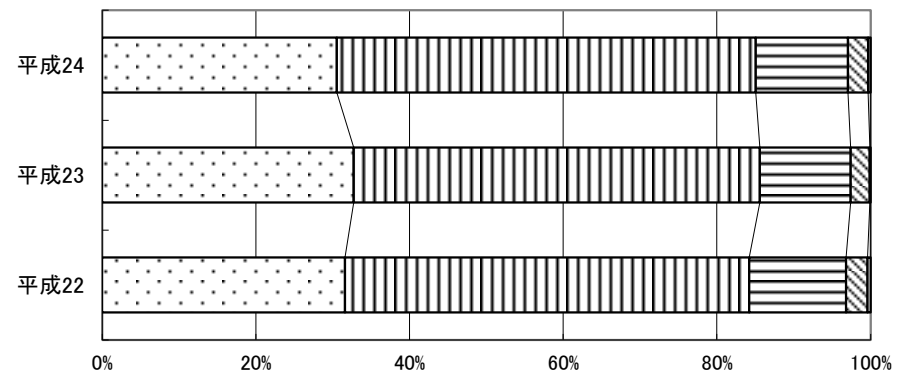
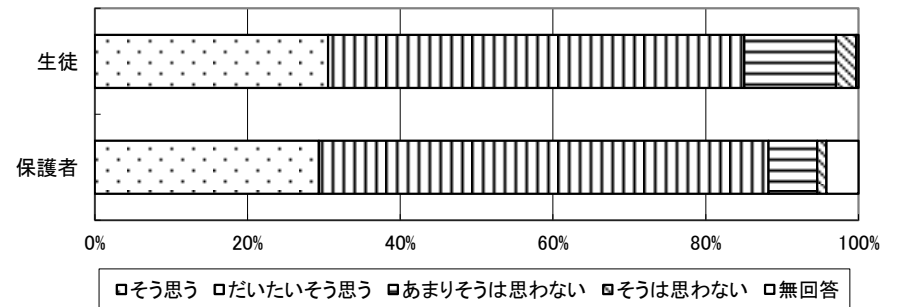
【小学校】

質問事項			選択肢				
			そう思う	だいたいそう思う	あまりそうは思わない	そうは思わない	無回答
自分は、よいこと、悪いことを判断する力が身に付いていると思いますか。	保護者	平成24	31.9%	58.3%	7.7%	0.7%	1.2%
	児童	平成24	29.1%	52.3%	14.8%	2.8%	0.7%
		平成23	28.0%	51.8%	14.7%	3.3%	0.8%
		平成22	27.9%	50.5%	15.7%	3.5%	1.3%



【中学校】

質問事項			選択肢				
			そう思う	だいたいそう思う	あまりそうは思わない	そうは思わない	無回答
自分は、よいこと、悪いことを判断する力が身に付いていると思いますか。	保護者	平成24	27.6%	55.5%	6.0%	1.1%	4.0%
	生徒	平成24	30.5%	54.4%	12.0%	2.6%	0.3%
		平成23	32.7%	52.8%	11.8%	2.5%	0.1%
		平成22	31.6%	52.6%	12.6%	2.8%	0.4%

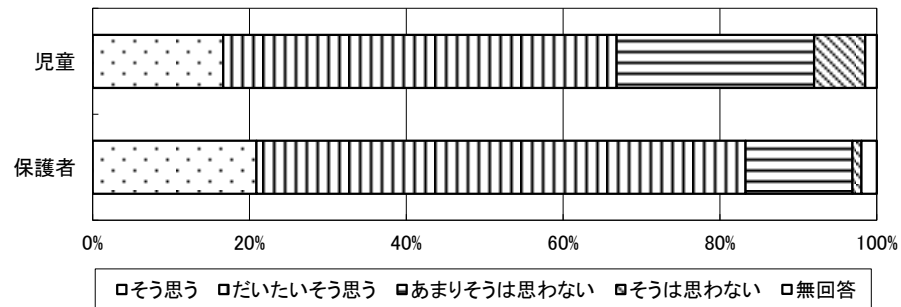


2 豊かな心⑤

■ 自分は、思いやりがあるほうだと思う(「そう思う」「だいたいそう思う」と回答した児童は平成23年度から1.2ポイント、生徒は1.4ポイント増加した。自分は思いやりがあるほうだと思うと回答した児童は保護者より16.5ポイント低かった。

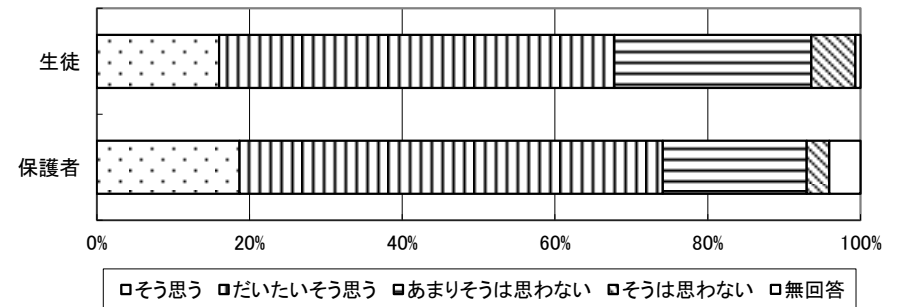
【小学校】

質問事項			選択肢				
			そう思う	だいたいそう思う	あまりそうは 思わない	そうは思わな い	無回答
自分は、思いやりが あるほうだと思いま すか。	保護者	平成24	20.9%	62.3%	13.6%	1.1%	2.0%
	児童	平成24	16.6%	50.1%	25.1%	6.5%	1.5%
		平成23	16.9%	48.6%	25.3%	6.6%	1.1%
		平成22	14.5%	47.8%	26.2%	8.3%	1.3%



【中学校】

質問事項			選択肢				
			そう思う	だいたいそう思う	あまりそうは 思わない	そうは思わな い	無回答
自分は、思いやりが あるほうだと思いま すか。	保護者	平成24	18.6%	55.3%	18.8%	3.0%	4.1%
	生徒	平成24	16.0%	51.8%	25.8%	5.8%	0.7%
		平成23	17.4%	49.0%	27.0%	6.0%	0.5%
		平成22	16.2%	46.6%	28.2%	8.1%	0.8%

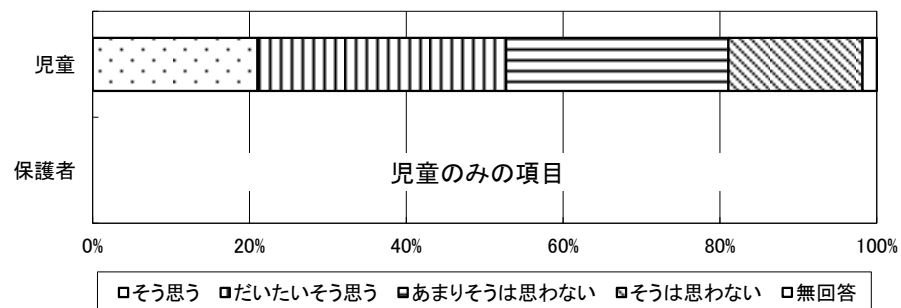


2 豊かな心⑥

■ 学校生活の中で感動することがありますか(「そう思う」「だいたいそう思う」と回答した児童は平成23年度から0.4ポイント減少したが、平成22年度より4.4ポイント高い。生徒は平成23年度から1.8ポイント減少した。

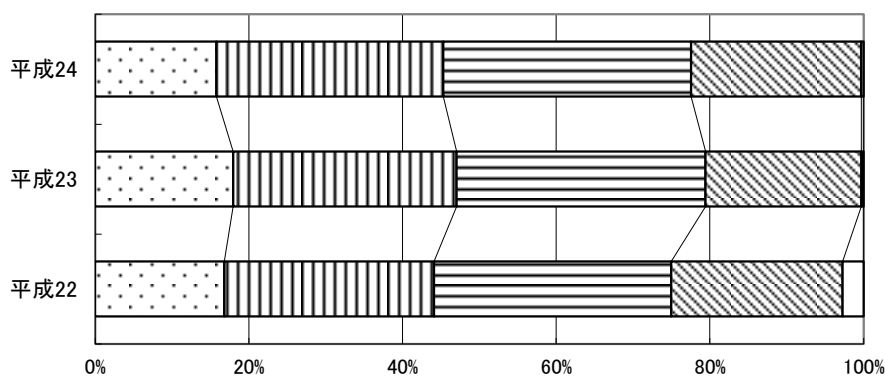
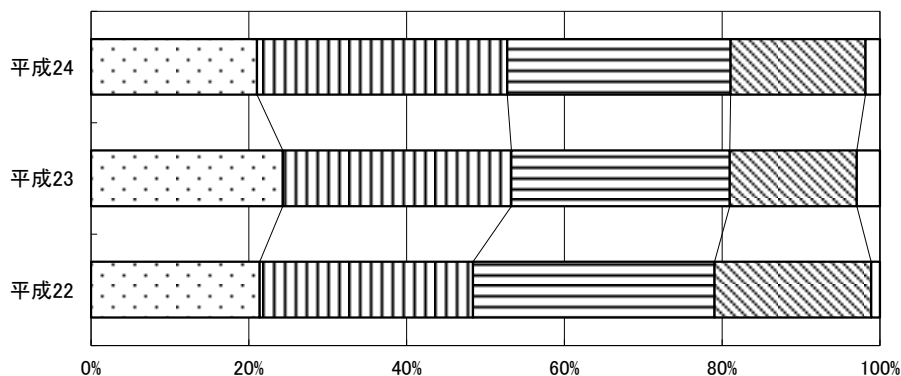
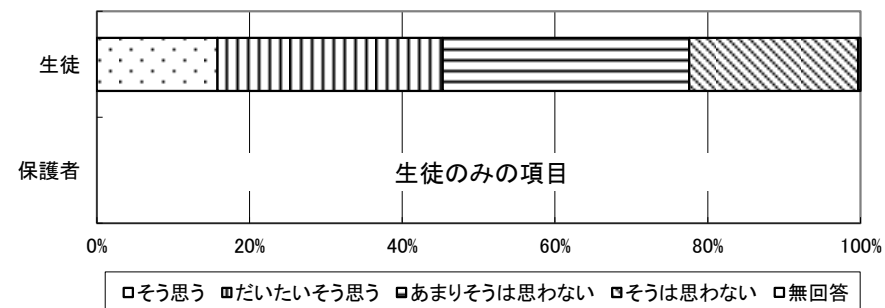
【小学校】

質問事項		選択肢					
		そう思う	だいたいそう 思う	あまりそうは 思わない	そうは思わな い	無回答	
学校生活の中で感動することがあります か。	保護者	児童のみの項目					
	児童	平成24	20.8%	31.4%	28.0%	16.9%	1.8%
		平成23	24.0%	28.6%	27.3%	15.9%	2.9%
		平成22	21.1%	26.7%	30.2%	19.6%	1.1%



【中学校】

質問事項		選択肢					
		そう思う	だいたいそう 思う	あまりそうは 思わない	そうは思わな い	無回答	
学校生活の中で感動することがありますか。	保護者	生徒のみの項目					
	生徒	平成24	15.7%	29.4%	32.1%	22.0%	0.3%
		平成23	17.9%	29.0%	32.3%	20.2%	0.3%
		平成22	17.2%	27.9%	31.6%	22.8%	2.8%

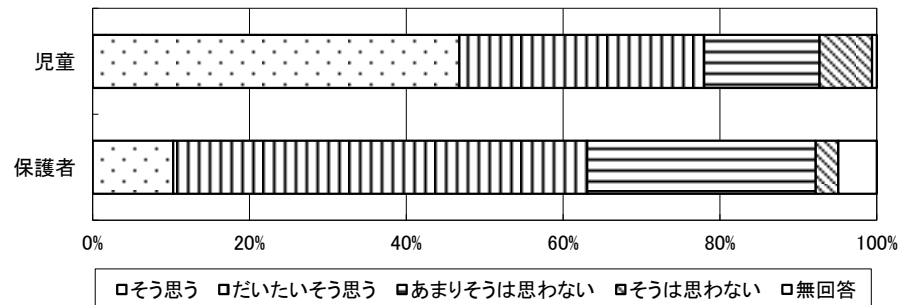


3 輝く未来①

■ 将来の生き方を考える機会がある(「そう思う」「だいたいそう思う」と回答した児童は平成23年度から0.2ポイント増加した。生徒は平成23年度から0.3ポイント減少したが、平成22年度より5.4ポイント高い。将来の生き方を考える機会があると回答した児童は保護者より17.9ポイント、生徒は15.4ポイント高かった。

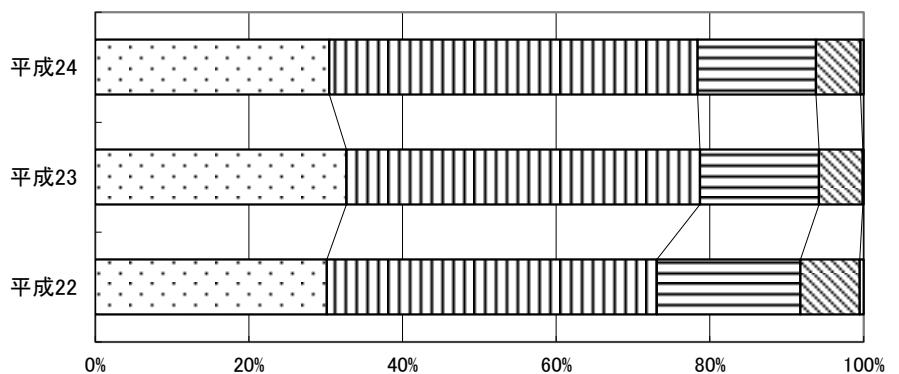
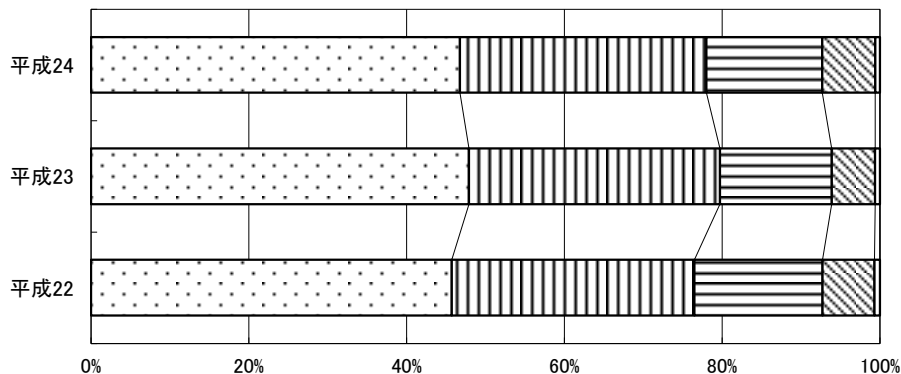
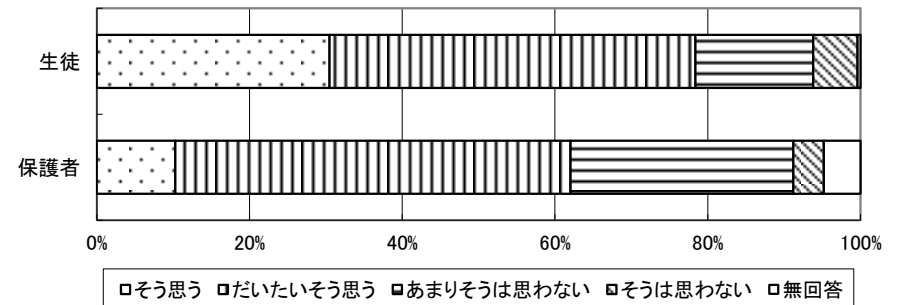
【小学校】

質問事項			選択肢				
			そう思う	だいたいそう思う	あまりそうは思わない	そうは思わない	無回答
「自分の得意なものは何か」「自分に向いているのは何か」について考えることがありますか。	保護者	平成24	9.9%	50.6%	28.0%	2.7%	4.7%
	児童	平成24	47.0%	31.4%	14.8%	6.7%	0.6%
		平成23	47.0%	31.2%	13.9%	5.4%	0.6%
		平成22	45.3%	30.5%	16.1%	6.5%	0.7%



【中学校】

質問事項			選択肢				
			そう思う	だいたいそう思う	あまりそうは思わない	そうは思わない	無回答
学校は、あなたの将来の生き方について、考える機会を与えていると思いますか。(職場体験など)	保護者	平成24	10.3%	51.7%	29.1%	4.0%	4.8%
	生徒	平成24	30.5%	47.9%	15.4%	5.8%	0.4%
		平成23	32.7%	46.0%	15.5%	5.7%	0.1%
		平成22	30.1%	42.9%	18.7%	7.7%	0.5%

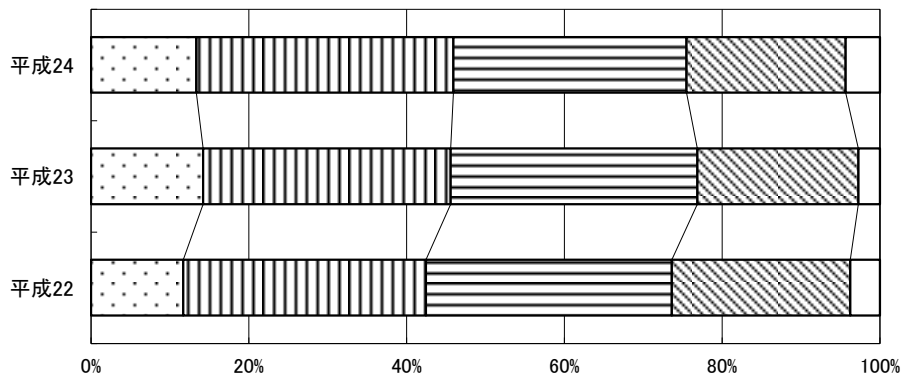
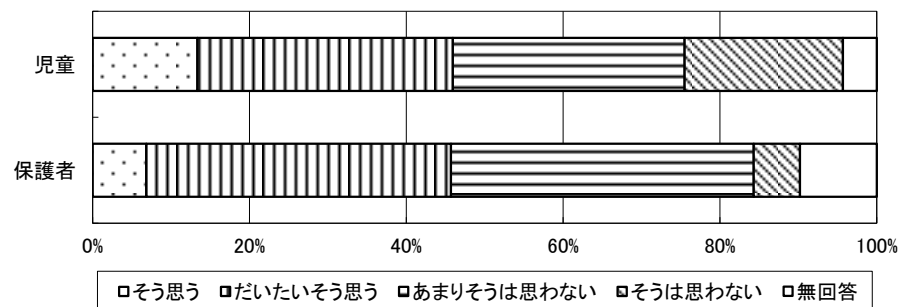


3 輝く未来②

■ 先生方が将来の夢の相談にのる(小学校)進路についてアドバイス(中学校)をしてくれる(「そう思う」「だいたいそう思う」と回答した児童は平成23年度から0.3ポイント、生徒は3.1ポイント増加した。

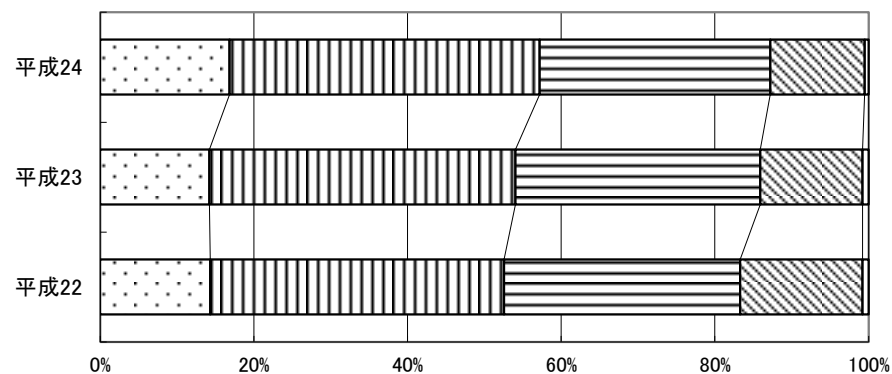
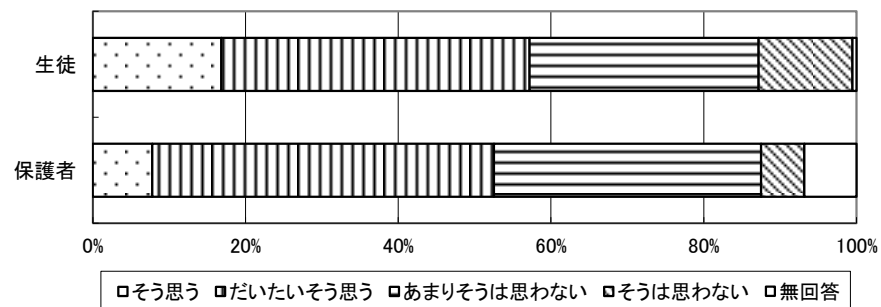
【小学校】

質問事項			選択肢				
			そう思う	だいたいそう思う	あまりそうは 思わない	そうは思わ ない	無回答
先生方は、将来の夢や目標などについて相談にのってくれますか。	保護者	平成24	6.5%	36.9%	36.7%	5.6%	9.3%
	児童	平成24	13.1%	32.0%	29.1%	19.9%	4.3%
		平成23	14.0%	30.9%	30.8%	20.1%	2.7%
		平成22	11.5%	30.2%	30.6%	22.2%	3.7%



【中学校】

質問事項			選択肢				
			そう思う	だいたいそう思う	あまりそうは 思わない	そうは思わ ない	無回答
先生方は、あなたが知りたい進路の情報や将来の生き方について、適切にアドバイスをしてくれていますか。	保護者	平成24	7.8%	44.5%	34.8%	5.6%	6.8%
	生徒	平成24	16.8%	40.3%	30.0%	12.3%	0.5%
		平成23	14.2%	39.8%	31.8%	13.3%	0.8%
		平成22	14.3%	38.2%	30.7%	15.9%	0.8%

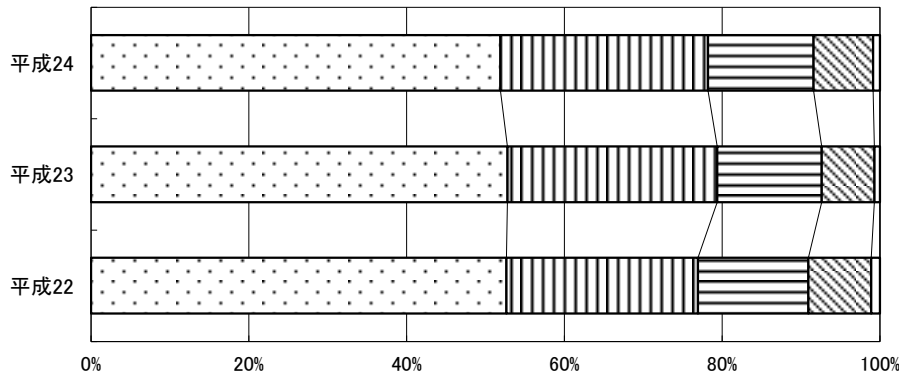
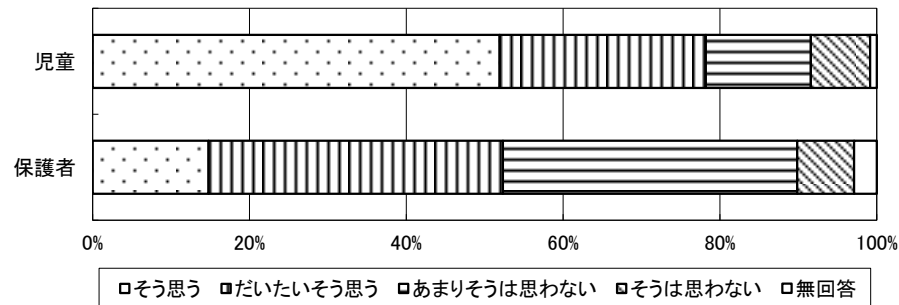


3 輝く未来③

■ 自分の将来について考えることがある(「そう思う」「だいたいそう思う」と回答した児童は平成23年度から0.7ポイント減少したが、平成22年度より1.4ポイント高い。生徒は平成23年度から2.7ポイント増加した。自分の将来について考えることがあると回答した児童は保護者より27.4ポイント、生徒は28.0ポイント高かった。

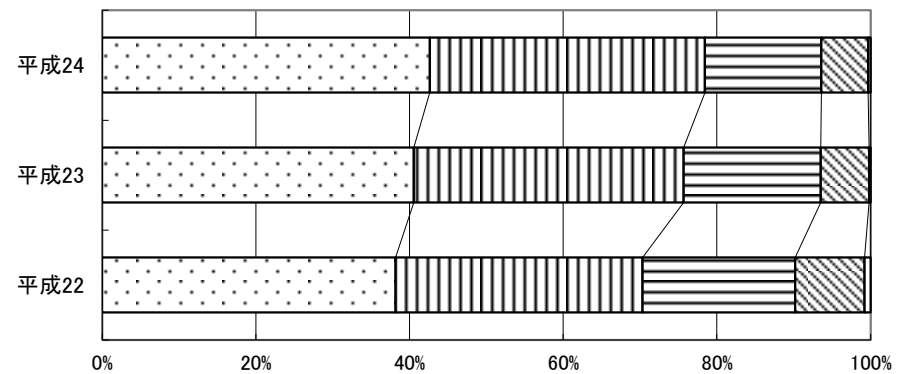
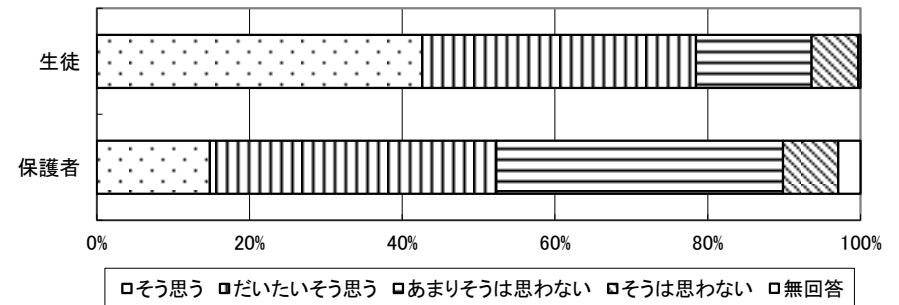
【小学校】

質問事項			選択肢				
			そう思う	だいたいそう思う	あまりそうは思わない	そうは思わない	無回答
自分の将来について考えることがありますか。	保護者	平成24	14.3%	36.1%	36.2%	7.0%	2.8%
	児童	平成24	51.6%	26.2%	13.3%	7.5%	0.9%
		平成23	52.2%	26.3%	13.1%	6.6%	0.7%
		平成22	52.3%	24.1%	13.9%	7.9%	1.1%



【中学校】

質問事項			選択肢				
			そう思う	だいたいそう思う	あまりそうは思わない	そうは思わない	無回答
自分の将来について考えることがありますか。	保護者	平成24	14.3%	36.1%	36.2%	7.0%	2.8%
	生徒	平成24	42.6%	35.8%	15.1%	6.1%	0.3%
		平成23	40.5%	35.1%	17.8%	6.3%	0.2%
		平成22	38.1%	32.1%	19.8%	9.0%	0.8%

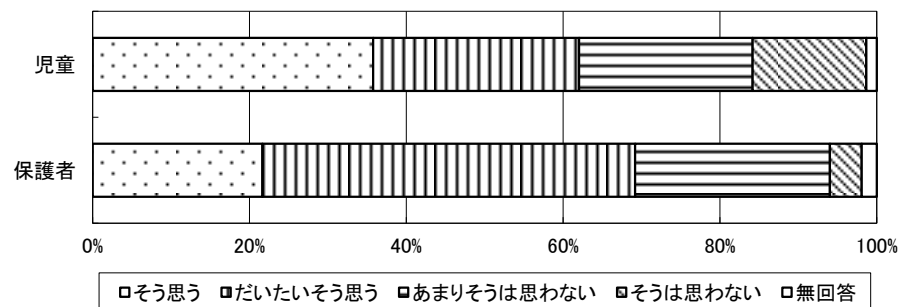


3 輝く未来④

■ 家族と自分の将来について考えることがある(「そう思う」「だいたいそう思う」と回答した児童は平成23年度から1.2ポイント減少したが、平成22年度より0.4ポイント高い。生徒は平成23年度から0.1ポイント減少したが、平成22年度より4.1ポイント高い。家族と自分の将来について考えることがあると回答した生徒は保護者より11.2ポイント低かった。

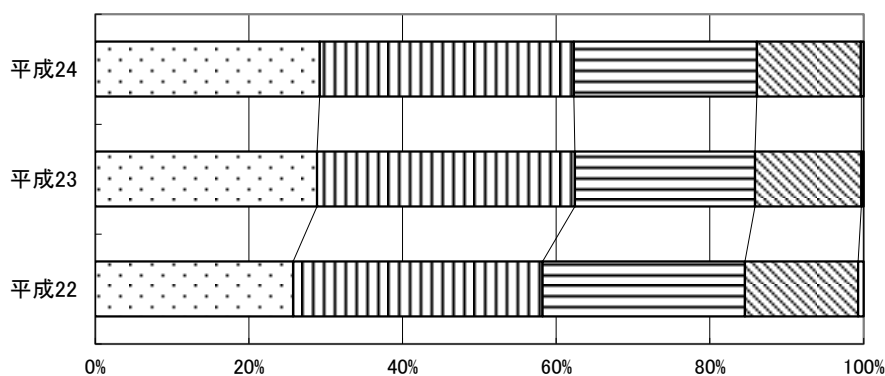
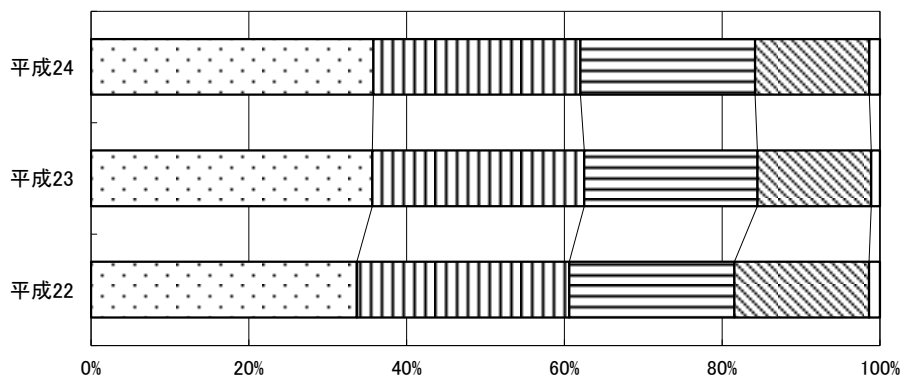
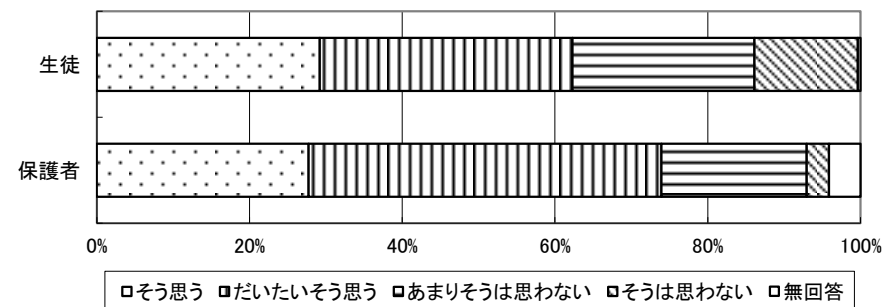
【小学校】

質問事項			選択肢				
			そう思う	だいたいそう思う	あまりそうは 思わない	そうは思わ ない	無回答
家族と自分の将来について考えることがありますか。	保護者	平成24	20.9%	46.0%	24.0%	3.9%	1.9%
	児童	平成24	35.3%	25.9%	21.8%	14.3%	1.3%
		平成23	35.6%	26.8%	21.9%	14.4%	1.1%
		平成22	33.8%	27.0%	21.0%	17.1%	1.4%



【中学校】

質問事項			選択肢				
			そう思う	だいたいそう思う	あまりそうは 思わない	そうは思わ ない	無回答
家族と自分の将来について考えることがありますか。	保護者	平成24	27.5%	45.8%	18.9%	2.9%	4.1%
	生徒	平成24	29.2%	33.0%	23.8%	13.5%	0.4%
		平成23	28.8%	33.5%	23.4%	13.8%	0.3%
		平成22	25.7%	32.4%	26.3%	14.7%	0.7%



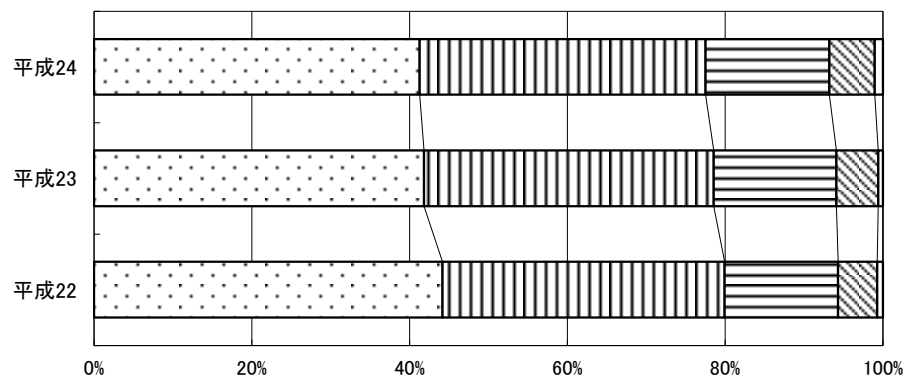
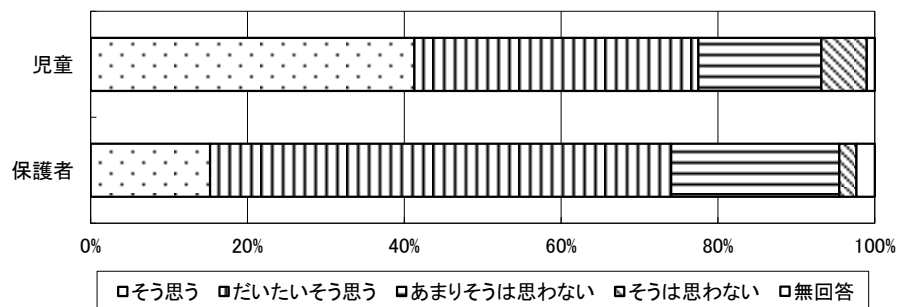
4 たくましい体①

■ 学校生活を通して、自分の体力は高まっていると思う「そう思う」「だいたいそう思う」と回答した児童は平成23年度から

1. 1ポイント減少し、生徒は2. 3ポイント増加した。

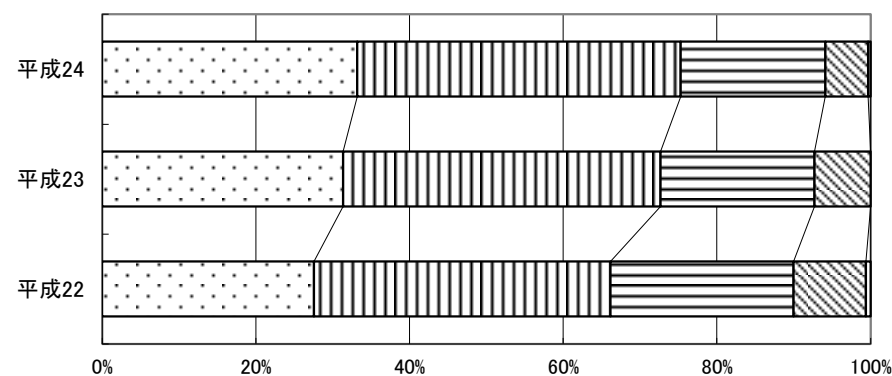
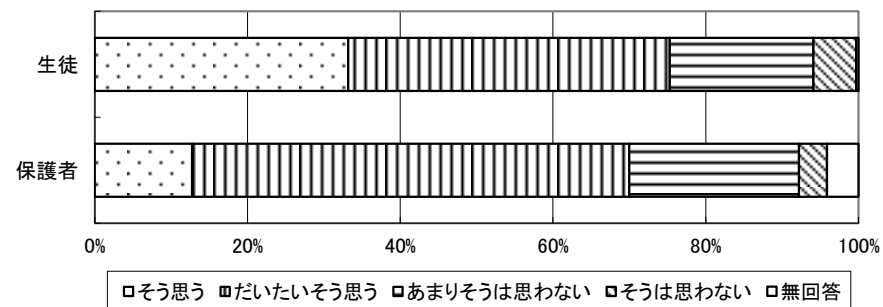
【小学校】

質問事項			選択肢				
			そう思う	だいたいそう思う	あまりそうは 思わない	そうは思わ ない	無回答
学校生活を通して、 体力が付いてきてい ると思いますか。	保護者	平成24	15.3%	59.0%	21.5%	2.2%	2.3%
	児童	平成24	41.3%	36.3%	15.7%	5.8%	1.0%
		平成23	41.9%	36.8%	15.6%	5.3%	0.6%
		平成22	43.6%	35.3%	14.2%	4.9%	0.7%



【中学校】

質問事項			選択肢				
			そう思う	だいたいそう思う	あまりそうは 思わない	そうは思わ ない	無回答
学校生活を通して、 自分の体力は高まっ ていると思います か。	保護者	平成24	12.6%	56.6%	21.9%	3.6%	4.1%
	生徒	平成24	33.0%	41.9%	18.7%	5.6%	0.3%
		平成23	31.3%	41.3%	20.0%	7.3%	0.0%
		平成22	27.5%	38.5%	23.8%	9.4%	0.6%

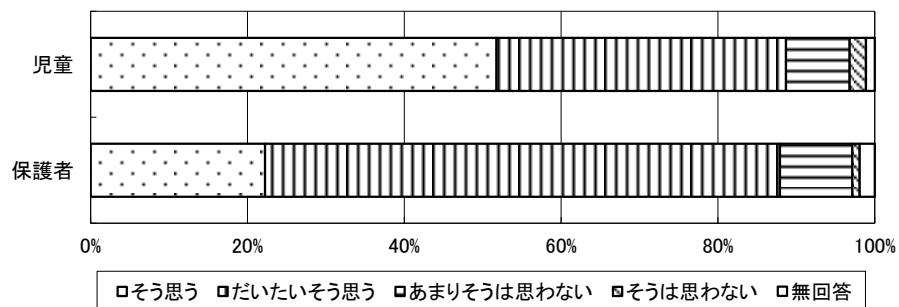


4 たくましい体②

■ 学校で、安全や健康について学ぶことがある(「そう思う」「だいたいそう思う」と回答した児童は平成23年度から1.9ポイント、生徒は4.8ポイント増加した。

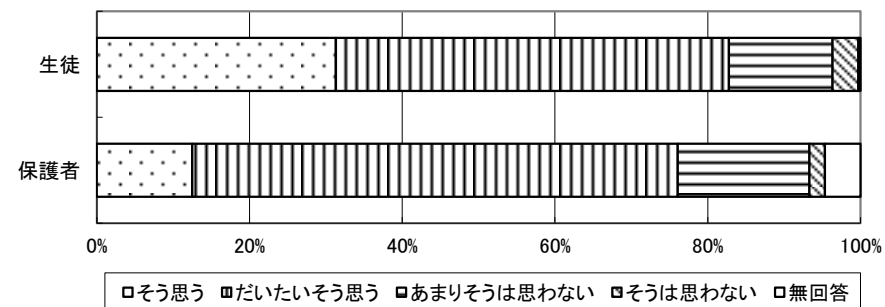
【小学校】

質問事項			選択肢				
			そう思う	だいたいそう思う	あまりそうは 思わない	そうは思わな い	無回答
学校で、安全や健康 について学ぶことが ありますか。	保護者	平成24	22.4%	65.9%	9.3%	1.0%	1.9%
	児童	平成24	51.7%	36.9%	8.1%	2.1%	1.1%
		平成23	49.8%	36.9%	9.7%	2.7%	1.0%
		平成22	48.8%	35.6%	9.3%	2.6%	1.1%



【中学校】

質問事項			選択肢				
			そう思う	だいたいそう思う	あまりそうは 思わない	そうは思わな い	無回答
学校で、安全や健康 について学ぶことが ありますか。	保護者	平成24	12.3%	62.6%	17.0%	2.0%	4.6%
	生徒	平成24	31.3%	51.4%	13.6%	3.4%	0.3%
		平成23	28.1%	49.8%	17.3%	4.4%	0.3%
		平成22	25.0%	47.9%	20.2%	6.1%	0.6%

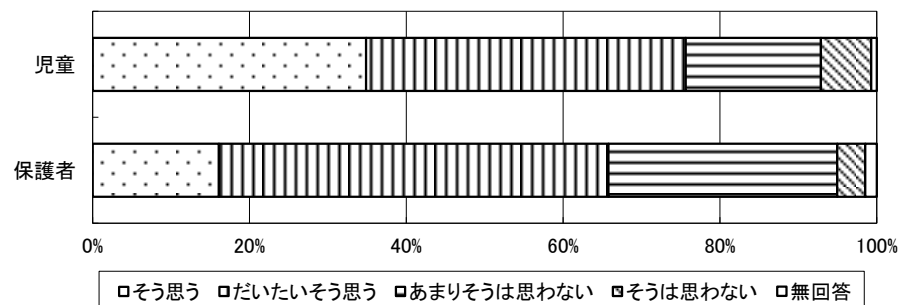


4 たくましい体③

■ 学校で学んだ食事や栄養の知識は普段の食生活の中で生きていると思う(「そう思う」「だいたいそう思う」と回答した児童は平成23年度から2.6ポイント増加した。生徒は平成23年度から0.7ポイント増加した。学校で学んだ食事や栄養の知識は普段の食生活の中で生きていると思うと答えた児童は保護者より10.4ポイント高かった。

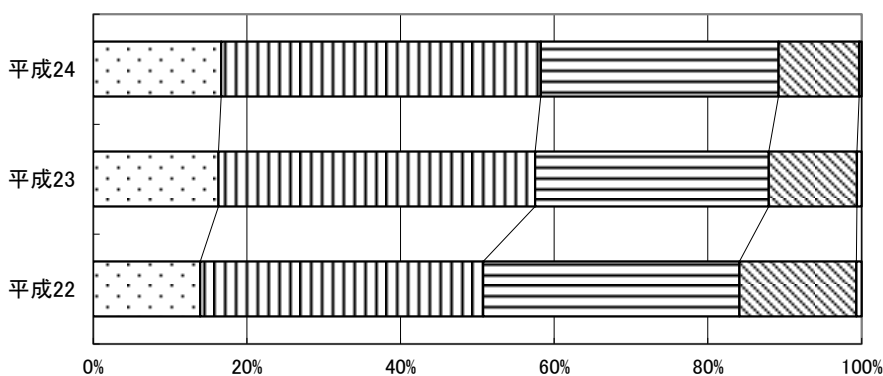
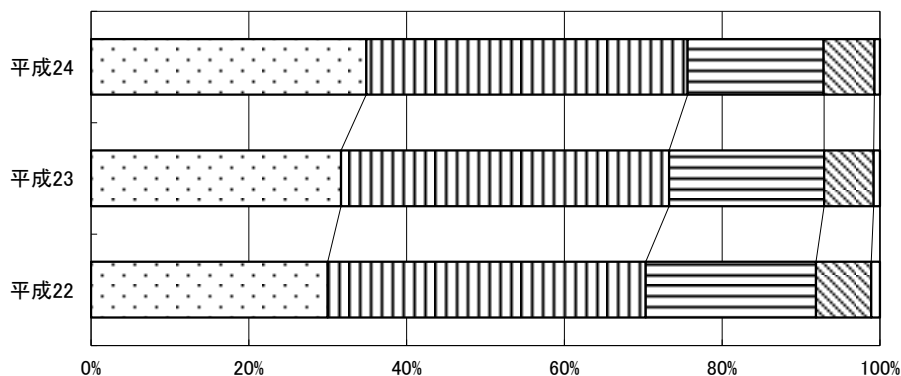
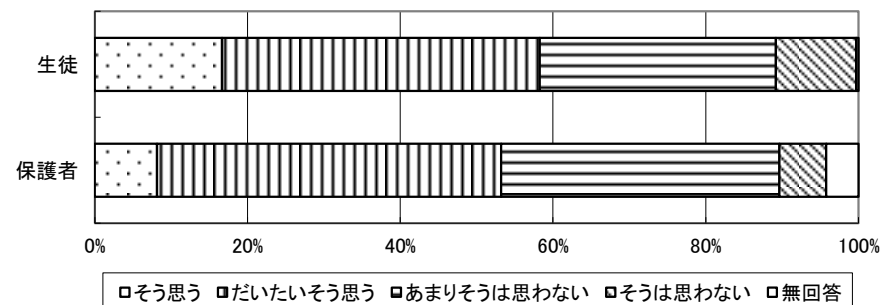
【小学校】

質問事項			選択肢				
			そう思う	だいたいそう思う	あまりそうは思わない	そうは思わない	無回答
学校で学んだ食事や栄養の知識は生活の中で生きていると思いますか。	保護者	平成24	16.1%	49.6%	29.1%	3.6%	1.5%
	児童	平成24	35.1%	41.0%	17.3%	6.5%	0.7%
		平成23	31.8%	41.7%	19.7%	6.3%	0.8%
		平成22	29.6%	39.8%	21.3%	6.9%	1.1%



【中学校】

質問事項			選択肢				
			そう思う	だいたいそう思う	あまりそうは思わない	そうは思わない	無回答
学校で学んだ食事や栄養の知識は普段の食生活の中で生きていると思いますか。	保護者	平成24	8.2%	45.2%	36.6%	6.1%	4.2%
	生徒	平成24	16.7%	41.6%	30.9%	10.5%	0.3%
		平成23	16.3%	41.2%	30.4%	11.5%	0.6%
		平成22	13.9%	36.8%	33.3%	15.2%	0.7%

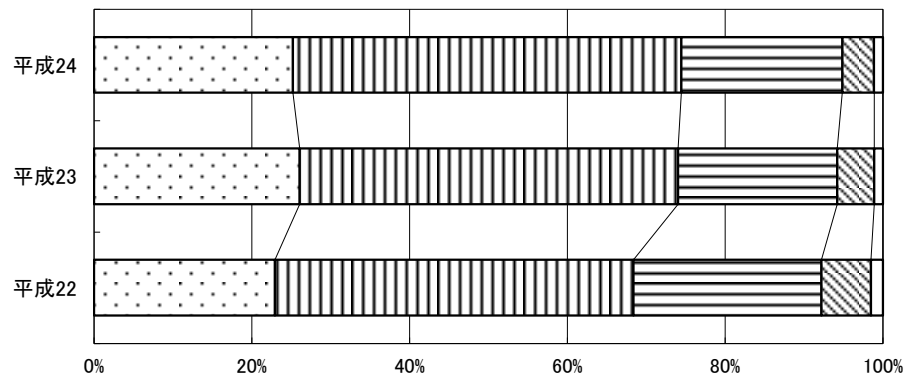
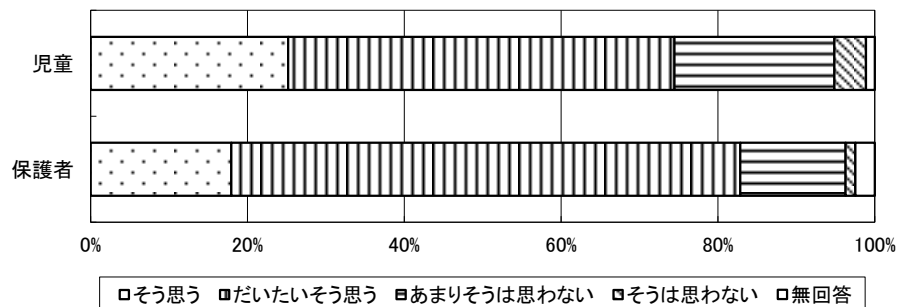


4 たくましい体④

■ 家庭や社会の一員として、お互いにいたわるように心がけていますか(「そう思う」「だいたいそう思う」と回答した児童は平成23年度から0.3ポイント、生徒は3.1ポイント増加した。

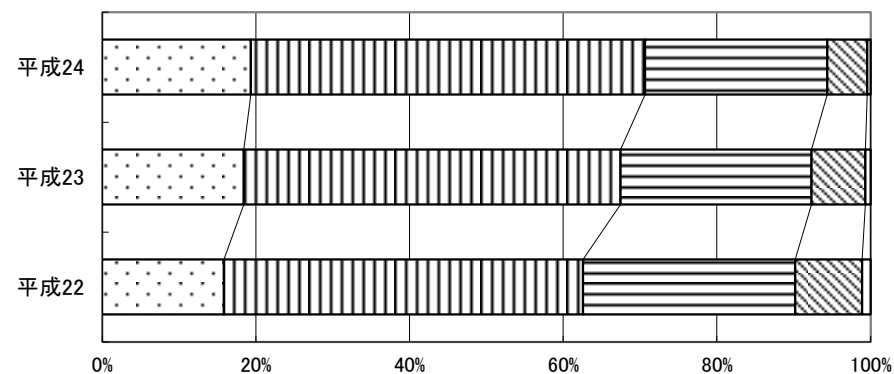
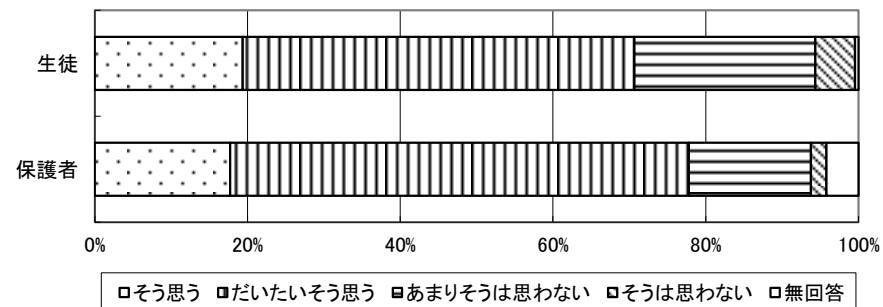
【小学校】

質問事項			選択肢				
			そう思う	だいたいそう思う	あまりそうは 思わない	そうは思わ ない	無回答
家庭や社会の一員として、お互いをいたわりあうように心がけていますか。	保護者	平成24	17.8%	64.5%	13.3%	1.2%	2.5%
	児童	平成24	25.2%	49.2%	20.4%	4.0%	1.1%
		平成23	26.1%	48.0%	20.2%	4.7%	1.1%
		平成22	22.4%	44.4%	23.3%	6.1%	1.5%



【中学校】

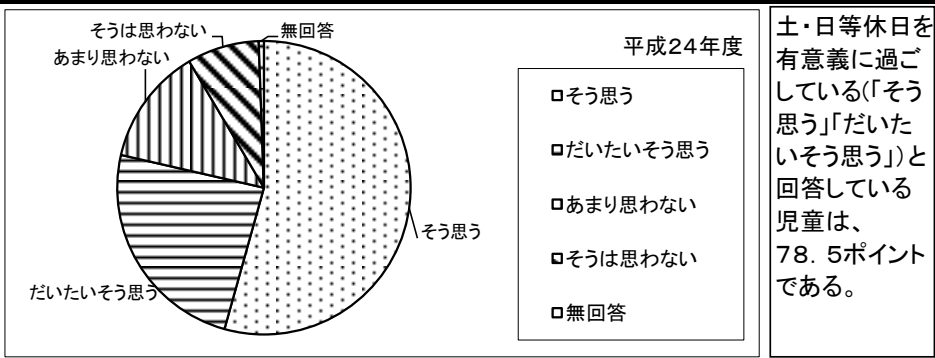
質問事項			選択肢				
			そう思う	だいたいそう思う	あまりそうは 思わない	そうは思わ ない	無回答
家庭や社会の一員として、異性を尊重し、お互いをいたわりあうように心がけていますか。	保護者	平成24	17.5%	59.2%	15.7%	2.0%	4.1%
	生徒	平成24	19.3%	51.2%	23.7%	5.2%	0.4%
		平成23	18.4%	49.0%	24.8%	7.0%	0.7%
		平成22	15.8%	46.6%	27.5%	8.7%	1.1%



その他①習い事

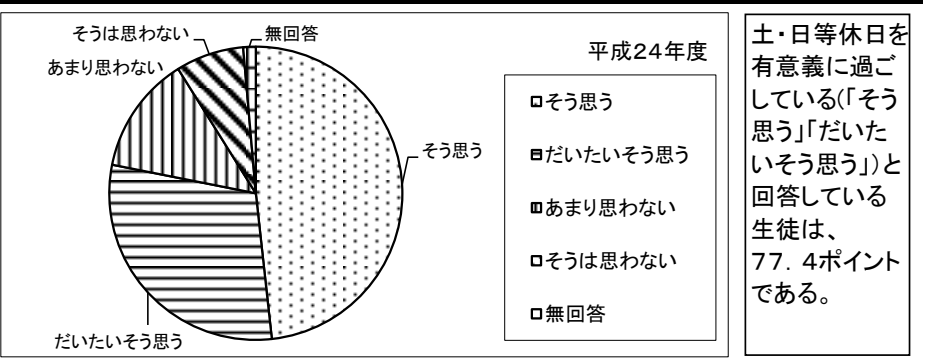
【小学校】

【その他①】	年 度	そう思う	だいたいそう思う	あまり思わない	そうは思わない	無回答
①土・日等休日は、学習・スポーツ・音楽などの活動を行い有意義に過ごしていますか。	24年度	54.3%	24.2%	12.9%	7.9%	0.6%



【中学校】

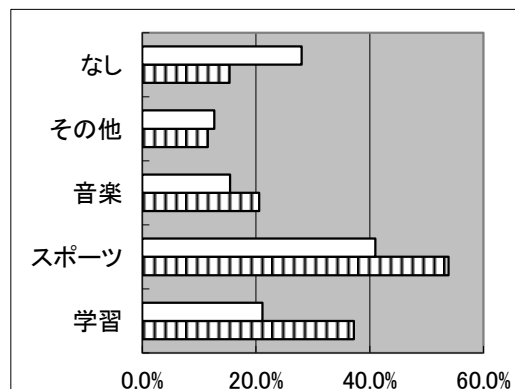
【その他①】	年 度	そう思う	だいたいそう思う	あまり思わない	そうは思わない	無回答
①土・日等休日は、学習・スポーツ・音楽などの活動を行い有意義に過ごしていますか。	24年度	47.8%	29.6%	12.9%	7.4%	1.4%



【小学校】

【その他①】	年 度	学 習	ス ポ ー ツ	音 楽	そ の 他	な し
②学習・スポーツ・音楽などを習いたいと思いますか。(複数回答可)	24年度	21.1%	41.0%	15.4%	12.7%	28.0%

【その他①】	年 度	学 習	ス ポ ー ツ	音 楽	そ の 他	な し
③学習・スポーツ・音楽などを習っていますか。(複数回答可)	24年度	37.2%	53.8%	20.6%	11.5%	15.3%

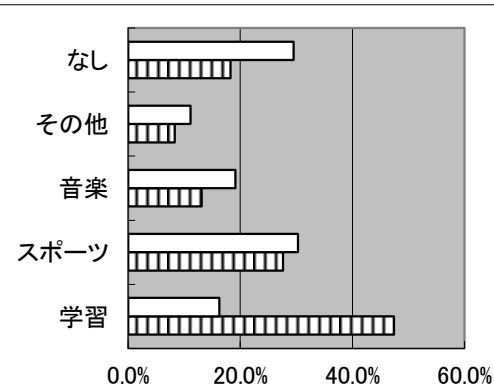


全般的に「習いたい」と回答している児童より「習っている」のポイントが高い。

【中学校】

【その他①】	年 度	学 習	ス ポ ー ツ	音 楽	そ の 他	な し
②学習・スポーツ・音楽などを習いたいと思いますか。(複数回答可)	24年度	16.3%	30.3%	19.1%	11.1%	29.5%

【その他①】	年 度	学 習	ス ポ ー ツ	音 楽	そ の 他	な し
③学習・スポーツ・音楽などを習っていますか。(複数回答可)	24年度	47.4%	27.6%	13.1%	8.3%	18.3%

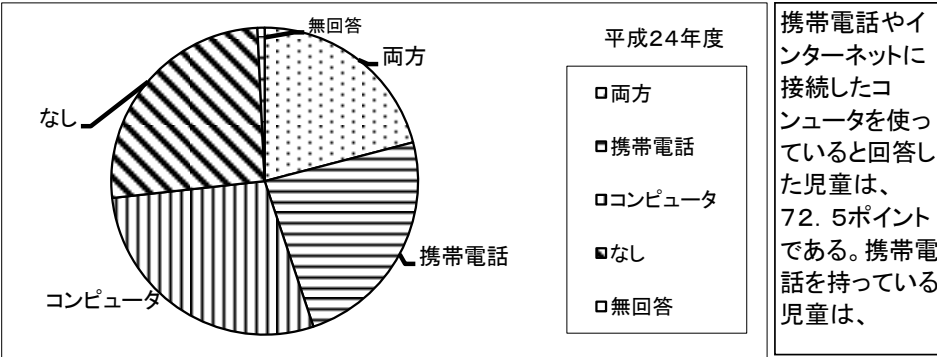


学習の項目において「習いたい」と回答している生徒より「習っている」のポイントが非常に高い。その他については「習っている」ポイントより「習いたい」ポイントが高い。

その他②携帯電話

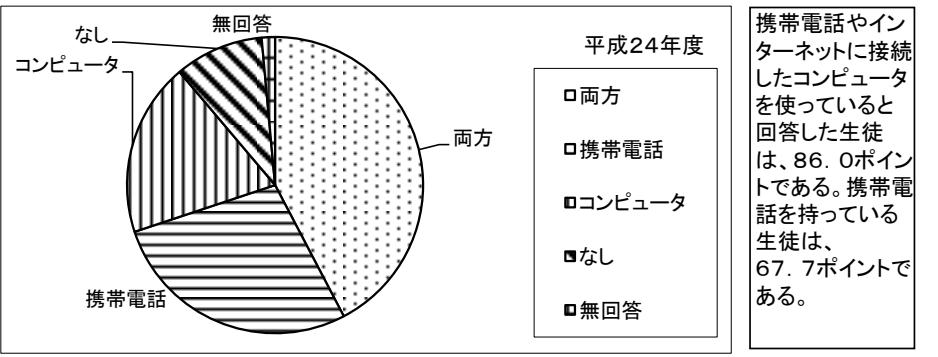
【小学校】

【その他②】	年 度	両方	携帯電話	コンピュータ	なし	無回答
①携帯電話やインターネットに接続したコンピュータを使っていますか(持っている)。	24年度	20.7%	23.7%	28.1%	25.7%	0.7%

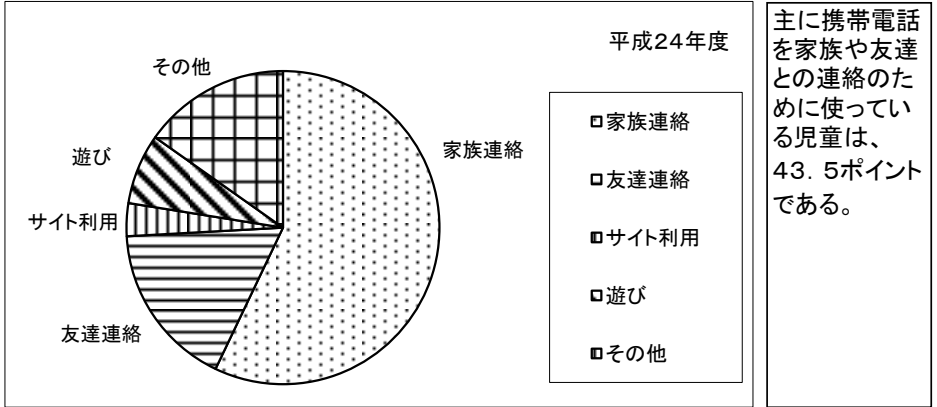


【中学校】

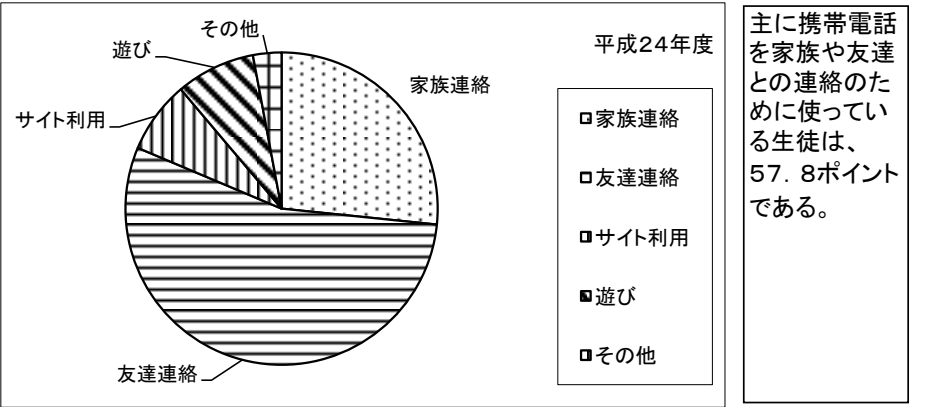
【その他②】	年 度	両方	携帯電話	コンピュータ	なし	無回答
①携帯電話やインターネットに接続したコンピュータを使っていますか(持っている)。	24年度	41.0%	26.7%	18.3%	9.4%	1.4%



【その他②】	年 度	家族連絡	友達連絡	サイト利用	遊び	その他
②携帯電話の1番使っているのは次のうちどれですか。(①で「両方」「携帯電話」を持っていると回答した者のみ)	24年度	33.5%	10.0%	2.0%	4.3%	8.9%

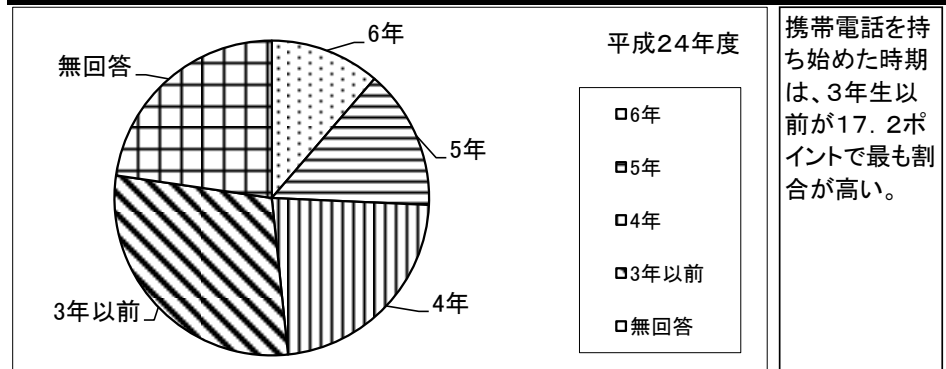


【その他②】	年 度	家族連絡	友達連絡	サイト利用	遊び	その他
②携帯電話の1番使っているのは次のうちどれですか。(①で「両方」「携帯電話」を持っていると回答した者のみ)	24年度	18.9%	38.9%	5.3%	5.8%	2.1%



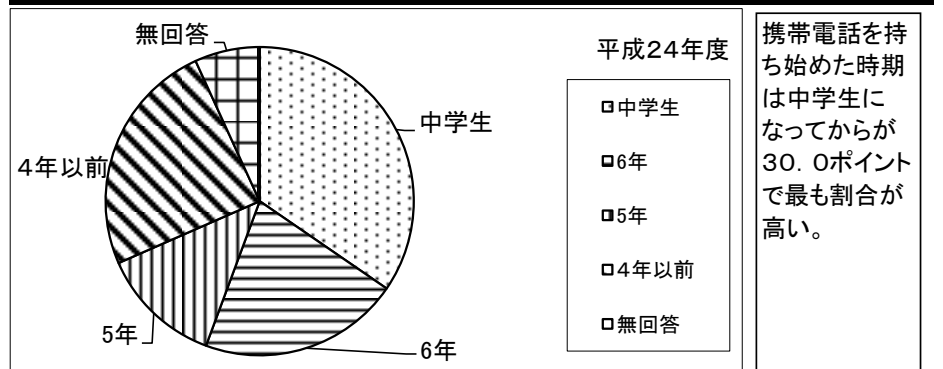
【小学校】

【その他②】	年 度	6年	5年	4年	3年以前	無回答
③いつから携帯電話を使っていますか。(①で「両方」「携帯電話」を持っていると回答した者のみ)	24年度	6.7%	8.5%	13.4%	17.2%	13.5%



【中学校】

【その他②】	年 度	中学生	6年	5年	4年以前	無回答
③いつから携帯電話を持っていますか。(①で「両方」「携帯電話」を持っていると回答した者のみ)	24年度	30.0%	18.3%	11.1%	21.4%	5.9%



第5章 点検及び評価に関する有識者からの意見

本 村 清 人
(東京女子体育大学教授)

国及び東京都教育委員会の施策等を踏まえつつ昭島市の実態等に応じて策定された「昭島市教育振興基本計画（平成 22～26 年度）」に基づいて、調査結果等も踏まえつつ施策の充実を図っておられることに対し、心から敬意を表します。

以下、平成 24 年度分について気付いた点をいくつか意見として記します。

1 学校教育について

- (1) 新学習指導要領の趣旨を活かした「プラン 1 確かな学力の定着」、「プラン 2 豊かな心の醸成」、「プラン 3 健やかな体の育成」という「生きる力」だけでなく、「プラン 4 輝く未来に向かって」という 4 つの柱で目指すべき学校教育の方向性を明示し、PDCA サイクルを活用しつつ推進を図っていく姿勢は、高く評価できます。
- (2) 「プラン 1 確かな学力の定着」における「新学習指導要領の着実な実施」に関しては、やはり学力に課題があると指摘せざるをえません。全国調査では中学校国語を除いて、東京都調査では全教科で平均値を下回っているのが実態です。地域の特性等もあるでしょうが、教員の指導力の向上はもとより、児童生徒のアンケートにあるように「家庭学習が身に付いていない」（児童 26.2%、生徒 50.6%）状況から、家庭との連携や必要に応じた宿題等の提出を求め、「分かった」「できた」という小さな達成の喜び等を積み上げていくことが自己有能感に、そして主体的に学ぶ態度につながると考えます。その意味で、「今後の取組の方向性」にあるように「全校で東京都平均を上回ることを目標に、各校で数値目標を設定した教育推進計画を推進する」ことがトップにあげられていることはきわめて重要と考えます。理念だけではなく、具体的目標の設定が必要です。加えて「市独自の調査」の実施が期待されます。と同時に、体力調査と同様に、下位グループに対する指導の手立てが肝要と考えます。
- (3) 「教員の指導力の向上」に関して「体罰の報告はなかった」ということですが、今後も、全教員及び全児童生徒による調査の継続を希望します。それが意味体罰の抑止につながるからです。
- (4) 「特別支援教育の推進」に関しては、平成 25 年から 29 年までの 5 年間で計画する「昭島市特別支援教育推進計画」を、平成 25 年 2 月、作成したとのことですが、高く評価できます。その推進に当たって、共生社会の実現に向けた啓発活動はもとより重要ですが、従来の特別な支援を必

要とする障害と、知的な遅れのない発達障害とに関する就学支援がより適切に行われることが大切と考えます。

- (5) 「体力向上」に関しては、小学校4年生以上の女子児童と中学校女子生徒に課題があることが伺えます。これは全国的な傾向と同じですが、将来の母親となる女子児童生徒に対する適切な指導が重要と考えます。体育の授業の充実はもとより、休憩時間や昼休みに積極的に外遊びをすることや放課後の部活動への参加を促すような運営が求められます。その意味から、校庭の芝生化は大変効果的です。武道必修化に伴う剣道防具の整備に当たっては、1クラス全員分の予算措置が必要でしょう。二人に一つの防具では学習効果は半減します。柔道指導も安全第一の受け身程度で授業を終えるようでは学習効果はないに等しいと考えます。指導の工夫が求められます。

2 生涯学習について

- (1) 「プラン5 生涯学習の推進」として、4つの主要施策を立て、施策の実現を目指されていること、「主な課題」、「今後の取組の方向性」を提示されていることは高く評価できます。
- (2) 一昨年からの同様の意見です。生涯学習部の中の「社会教育課」と「社会教育係」ですが、「生涯学習課（係）」としないのは何故でしょうか。主な分掌事務に「社会教育及び生涯学習」とありどのような違いがあるのでしょうか。
- (3) 平成25年3月、第2次生涯学習推進計画」を策定されたとのこと、新たな施策の展開が期待できます。
- (4) 「市民の学習活動の振興」して、市民図書館蔵書の充実、ブックキャランによる持ち込み図書の購入などは、学習機会と場の整備上、大変有効と考えます。その一方で、「主な課題」として「社会的な課題、（中略）、参加者から好評価を得ているが、申込者が少ないことが多い」とありますが、民間ではできにくい行政的な課題として継続していただくことが必要と考えます。参加者が少ないからといって予算をカットすることにはなじまないものもあります。

高 橋 尚 子
(多摩信用金庫部長)

平成24年度「昭島市教育委員会の事務事業に関する点検及び評価」について、資料に基づき具体的な施策のヒアリング及び質疑の場を設けていただきました。これを受け第三者としての見解を記述させていただきます。

(1) 新学習要領の着実な実施・個に応じた学習指導の充実

言語活動を通じたコミュニケーション能力、理数教育、外国語教育等、さまざまな方面から学習意欲向上、学習習慣の確立に取り組まれており、バランスの良い学力定着を目指していることがわかります。

また全国及び東京都の学力調査の結果を受け、各校にて数値目標を設定するとともに、学習のつまずきのある生徒を対象として、独自の調査を実施されていることは評価できます。指名制による少人数指導として、放課後や夏季休業など時間外での指導も実施されています。この分野については児童・生徒へのよりきめ細やかな対応の継続により、真の「たくましい昭島っ子」の育成を願います。

(2) 教育相談体制の充実

学校不適応、いじめの問題は教育現場における重要課題であり、早期の発見と対応が急務として求められます。平成24年度報告においては＜教育相談室相談状況＞＜適応指導教室・生徒在籍状況＞の計数が開示され、相談内容は多岐にわたっていることがわかりました。特に「不登校」に関してはほぼ7割が継続相談とのことであり、解決に至るまで学校、家庭、専門家との連携が不可欠であると思われます。より専門性の高い相談体制の構築、子供たちの心に寄り添った取組が望まれます。

(3) 環境教育の推進

環境問題については、先の震災より省エネ等の努力を続けているとの報告です。児童・生徒が環境問題に関心を持ち、実際に関わっていくことは物ごとに対して主体的に関与し行動する素地につながると思います。

ハード面では太陽光発電設備の設置や壁面緑化等、年度計画に設置数を掲げることで、環境問題への対応状況が数値化され、より具体的になるとと思われます。適正な予算配分に基づく対応をお願いします。

(4) 市民のスポーツ活動の振興

「昭島チャレンジデー2012」の実施は、スポーツを身近にできる環境づくりとして大きなイベントであったと思われます。初めての実施として参加率7割を超え、さらに金メダルの獲得はすばらしい実績です。高齢化社会から超高齢化社会を迎え、市民ひとり一人の健康に対する認識、予防に関する知識習得は社会問題としても必要な項目です。チャレンジ

デーをきっかけとして、大きな流れができることに期待します。